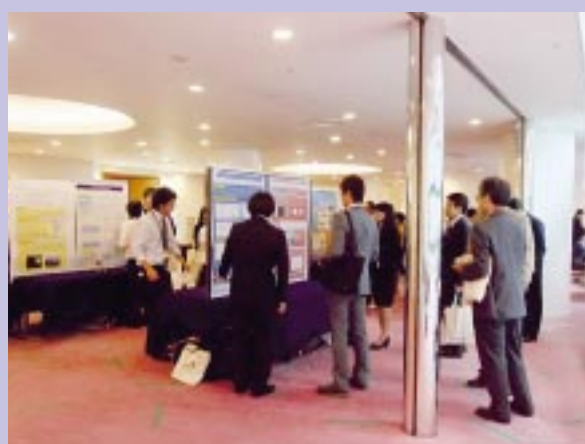


鹿児島高専だより

第 64 号

平成23年 3 月

〈特集〉 第4回国際工学教育研究集会（ISATE2010）



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目 次

校長室から

全国高専ロボコン初優勝 …… 1

特集「第4回国際工学教育研究集会 (ISATE2010)」 …… 2

教務だより

インターンシップとキャリア教育 …… 4
平成22年度 一日体験入学 …… 5
平成22年度 授業参観 …… 6
機械工学科4年工場見学旅行報告 …… 7
電気電子工学科工場見学旅行報告 …… 7
工場見学旅行で学んだこと …… 8
工場見学旅行報告 …… 9
現場見学旅行で学んだこと …… 10

学生だより

学生生活支援について …… 12
高専ロボコン全国制覇までの22年 …… 15
高専ロボコン2010を振り返って …… 18
学生会長を務めて …… 19
交通局長として …… 20
文化祭を終えて …… 20
体育祭を終えて …… 21
対都城高専との親善試合 …… 22
第47回九州沖縄地区高等専門学校体育大会 …… 24
第45回全国高等専門学校体育大会 …… 24
平成22年度 学生表彰(スポーツ賞・文化賞) …… 25
その他大会等受賞者一覧 …… 26

志学寮だより

志学寮・雑感ファイナル …… 27

専攻科だより

専攻科の近況 …… 28
贈る言葉 …… 30

贈る言葉 …… 30
贈る言葉2011 …… 31

学生何でも相談室だより

メンタルヘルスと成績 …… 32

教職員研究活動

デザイン工房での研究活動 …… 33
桜島における土石流土砂を用いたコンクリートの
アルカリシリカ反応性とその抑制対策 …… 34
画像認識研究のご案内 …… 34

退職教員だより

上昇するしかない高専制度「気骨ある卒業
生たち」続々編 …… 35

教職員の動向

退職のご挨拶 …… 39
退職のご挨拶 …… 39
退職のご挨拶 …… 40
平成21年度永年勤続表彰(退職時)について …… 41
平成22年度永年勤続表彰について …… 41
平成22年度教育功労者表彰について …… 41

国際交流だより

国際交流だより …… 42
第3回テマセクポリテクニク学生交流 …… 43
釜山情報大学交流報告 張百基、権永一教
授の退任式に参加して …… 44
カナダ・バンクーバーを訪れて …… 45

卒 業

贈る言葉 …… 46
高専生としての5年間 …… 46
高専での5年間を振り返って …… 47
高専での5年間を振り返って …… 47

それぞれの夢に向かって …… 48
高専生活を振り返って …… 48
専攻科を修了するにあたって …… 49
修了するにあたって …… 50
専攻科を修了するにあたって …… 50
卒業研究テーマ一覧 …… 51
特別研究テーマ一覧表 …… 56
卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職
・進学一覧 …… 57

同窓生だより

鹿児島高専を卒業して …… 60
就職後に思うこと …… 60
社会人として大切なこと …… 61
社会人となって …… 62

学内プロジェクトだより

多方面からの支援に感謝 …… 64
鈴鹿4時間耐久ソーラーカーレース完走4
ヶ月の製作記 …… 65

広報委員会だより

広報委員会の活動について …… 66

後援会だより

後援会に携わって …… 67
高専との出会いに感謝 …… 67
思わぬ再会から …… 68
親子共々楽しかった5年間 …… 68
思い出 …… 69
理事を卒業して …… 69
1年生授業参観・懇談会アンケート集計結果 …… 70
2年生授業参観・懇談会アンケート集計結果 …… 72
3年生授業参観・懇談会アンケート集計結果 …… 74

平成23年度行事予定表

【表紙の説明】

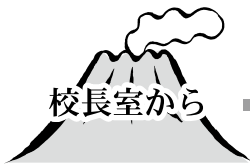
写真上左：ISATE2010における赤坂校長の開会式
での挨拶

写真上右：ISATE2010におけるパネルディスカッ
ション風景

写真下左：高専ロボコン2010全国大会表彰式

写真下右：高専ロボコン2010全国大会競技風景





全国高専ロボコン初優勝

校長 赤坂 裕

今年度、本校は、全国高専の様々なコンテストや体育大会で素晴らしい成績をあげました。全国高専体育大会では、ソフトテニスで団体優勝、サッカーで準優勝、テニスで団体準優勝、水泳400メートルリレーで準優勝を果たしました。

埼玉大学で開催された第4回国際マイクロメカニズムコンテストでは機械工学科の学生が3つの特別賞、八戸で開催された第7回全国高専デザインコンペティションでは専攻科学生による「焼酎蒸留粕を用いた多機能エコポット」が優秀賞を獲得しました。三次元デジタル設計造形コンテストは一昨年度より始まりましたが、本校は昨年度の第2回大会に出場していきなり優勝し、今年度長野高専で開催された第3回大会では連続優勝しています。そして、昨年11月21日に両国国技館で開催された第23回全国高専ロボットコンテストでは念願の初優勝を果たしました。

高専ロボコンは、大学を含めた学生ロボコンの中でも、最も高いレベルの技術力が集積したロボコンであり、そこで本校が優勝できたことは素晴らしいことです。私はこのロボコンでNHK報道局長と東京工大の名誉教授と共に審査を担当し、全競技を競技フィールドのすぐ横で観戦しました。表彰式では、高等専門学校連合会の会長として、本校学生にロボコンの優勝旗を直接手渡したのです。こんな経験をした校長はこれまでにありませんし、これからも多分現れないのではないかと思います。

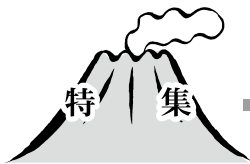
高専ロボコンはNHKテレビで数回にわたり放映されたので、ご覧になった方も多いと思います。本校は、本校

と共に最速22秒という記録を出した他の2校である奈良高専には準々決勝で、和歌山高専には決勝戦で競り勝ちました。また、準決勝では昨年度優勝校の香川高専詫間キャンパスにも勝っていますから、完全優勝といってもいいのですが、実際は非常に厳しい試合が続きました。よく優勝できたものだと思います。

今回の勝因について私も考え多くの方々のご意見も伺いました。皆さんが言われるのは技術の伝承です。本校ではメカトロニクス研究部（メカ研）がロボコンのロボットを製作しています。メカ研には、1年生から5年生までが在籍し、上級生が蓄積してきた技術が下級生に受け継がれていきます。部長は4年生が務めますが、卒業を控えた5年生も活動をサポートしています。本校には5つの学科があり、メカ研には色々な学科の学生が集まっています。今から10年ほど前まで、本校にはロボットを作る場所がなく、研究室の片隅や廊下で製作していたそうです。8年ほど前に、OBの支援により、“夢工房はやと”が完成し、学生がいつでもロボットを製作できる環境が整いました。これが技術の伝承と向上を可能にしています。メカ研が主催した”感謝の会”にはOBも参加して一緒に喜んでくれました。ロボコン優勝を待ち望み、優勝への思いが最も強かったのは本校OBかもしれません。

この3年間2足歩行ロボットを基本とした課題が続きました。本校は初めての2足歩行ロボットの課題で2足歩行をクリアし、その技術を受け継いできています。根幹となる技術が同じ課題が続くことは、本校のように技術が伝承されていくシステムができている学校にとって有利です。

全国の地区大会から高専ロボコンに登場するロボットの総数は124です。優勝するのは124のロボットの頂点に立つロボットです。競技には、実力だけでなくちょっとした運や緩が付きまといまいます。しかし、性能の劣るロボットが優勝することはありません。今回の本校のように、優秀なロボットを持ち、運や緩を味方にしたチームが優勝します。本校が、全国高専の中で、トップクラスのロボットを作る技術を持った学校の一つであることは間違いありません。



第4回国際工学教育研究集会 (ISATE2010)

校長特別補佐（国際交流・留学生担当） 精松 伸二

第4回国際工学教育研究集会（4th International Symposium on Advances in Technology Education, ISATE2010）が、本校キャンパス・ツアー実施日の9月27日（月）を含んで30日（木）までの4日間、霧島市・ホテル京セラで開催されました。

本研究集会は、平成18年8月に九州沖縄地区高専とシンガポールのポリテクニク3校との間で締結された包括交流協定に基づく事業の一環として行われ、科学技術に関する科目の指導、教育方法探求に関する知見や経験等を提供し共有することによって、工学教育の更なる発展を目指すことを目的としています。第1回は、平成19年のテマセク・ポリテクニクを皮切りに、続いて第2回は平成20年に熊本高等専門学校（旧熊本電波工業高等専門学校および旧八代工業高等専門学校）、第3回は平成21年にシンガポール・ポリテクニクで実施されました。そしてこの第4回は、鹿児島工業高等専門学校と熊本高等専門学校との共催で行われました。また注目すべき点として、平成21年9月22日に国立高専機構とシンガポールのポリテクニク3校との間で学術交流が締結されたことで、研究集会への参加を九州沖縄地区の枠を超え、全国の高専に呼びかけ、更には、国内の大学やシンガポール以外の国々にも呼びかけたところ、国内外から約170名の参加者がありました。

上記開催期間の9月28日と29日のプログラムとしては、2つの基調講演（国立高専機構・林理事長、リパブリック・ポリテクニクのMr. Fong Yew Chan）、3つの招待講演（カナダのMs. Barbara Dabrowski、トヨタ車体研究所・上別府部長、香港のVTC・Mr. Jonathan）、高専ディスカッションの英語教育に関するパネルディスカッション、学生の成績評価に関するワークショップ、約60件の論文発表、そして10数件のポスターセッションが行われ、30日には、PBL教育の模擬授業（本校教室）と研修旅行（京セラ工場、桜島、仙巖園）が併行して行われました。

本研究集会全体に対するアンケート評価（9月29日閉会式後に62名分回収）によれば、開催時期、発表者の英語力の問題、ポスター発表の時間が短かった、パネルディスカッションの時間は長かった、高専関係者・外国・企業の参加がもっと増えるようにといったコメントが寄せられましたが、全体的には9割近くの方が高い満

足度を示しました。

振り返れば、昨年度9月にシンガポール・ポリテクニクで開催された第3回ISATE2009に視察を兼ね、赤坂校長以下7名の教職員が出席しました。その後、まずは開催日と会場を決める必要がありましたが、これにはかなり難航しました。最初予定していた開催日が二転三転し、やっと上述の期間になりました。一方、会場につきましては、地元のホテル京セラは既に予約されていたり、鹿児島市内のホテルや施設に問い合わせても、空室がなかったりと、全く埒があかない状態でした。結果的にはホテル京セラから快諾を得られましたが、それは交渉にあたってくださった安楽学生課長補佐のお陰であったと深く感謝申し上げます。

それから、ISATE2010進捗状況報告会が幾度か開催され、アドバイザリ委員会（＝実行委員会）、運営委員会（＝現地実行委員会）、プログラム委員会の組織が確立していきました。熊本高専との共催ということで、宮川英明熊本高専校長をはじめ、松本勉先生、大塚弘文先生方からは、強力な支援を頂きました。

国際交流委員会委員の方々も、ISATE2010の準備にあたり、本当にご尽力くださいました。

ISATE2010ホームページ開設という長期に亘る作業に従事してくださった加治佐先生と企画係の方々、プログラム委員会を掌握され、そして側近で私を補佐してくださった堤先生、論文査読に当たられた松田忠大先生、三原先生、他高専やポリテクニクの先生方、USB書き込み作業をしてくださった奥先生、司会進行や通訳に協力頂いた一般教科英語教員の方々、細部において従事して下さった引地先生・鎌田先生、アルバイト学生の指導に当たって下さった塚本先生、会場設営をして下さった技術職員の方々、総括的な事務処理や助言を下さった総務課長・総務課長補佐・総務係長・総務課職員の皆様方にお礼申し上げます。中でも、ISATE2010の事務処理担当として総務係が、リアルタイムで国内外の関係者と密にご連絡をとってくださいました。講師依頼、論文提出や参加費の催促等で大変ご苦勞があったかと思います。他、キャンパスツアーでは、各学科長の先生方や関係の先生方が、お忙しい中、ご協力くださいました。9名のアルバイト学生諸君（専攻科生2名、留学生1名、英語部員6名）は、受付やセッションでの補助などで積極的に取組んでくれました。

発表等された本校関係者は、オーラル・セッション（口頭発表）では、5名（野澤先生、坂元先生、永田技術職員、脇部技術職員、長山技術職員）、そしてその議長役として堂込先生と坂元先生、ポスターセッションで

は、専攻科（機械・電子）1年満園友宏君と専攻科（土木）1年宮原景信君の方々でした。更に、広報関係で、ご教示くださった大竹広報委員会委員長、本研究集会にご参加くださった方々にも深く感謝申し上げます。

ISATE2010が成功裡に終わりましたのも、学校を挙げて皆様が取組んでくださったからこそだと確信致します。

向こう2年間のISATEにつきましては、第5回（ISATE2011）はシンガポールのリパブリック・ポリテクニクが担当し、第6回（ISATE2012）は北九州高専が担当する予定です。

ISATE2010 Program and Timetable											
2010/10/1											
9月27日(月)											
9月28日(火)											
9月29日(水)											
9月30日(木)											
9月31日(金)											
9月1日(土)											
9月2日(日)											
9月3日(月)											
9月4日(火)											
9月5日(水)											
9月6日(木)											
9月7日(金)											
9月8日(土)											
9月9日(日)											
9月10日(月)											
9月11日(火)											
9月12日(水)											
9月13日(木)											
9月14日(金)											
9月15日(土)											
9月16日(日)											
9月17日(月)											
9月18日(火)											
9月19日(水)											
9月20日(木)											
9月21日(金)											
9月22日(土)											
9月23日(日)											
9月24日(月)											
9月25日(火)											
9月26日(水)											
9月27日(木)											
9月28日(金)											
9月29日(土)											
9月30日(日)											
9月31日(月)											
9月1日(火)											
9月2日(水)											
9月3日(木)											
9月4日(金)											
9月5日(土)											
9月6日(日)											
9月7日(月)											
9月8日(火)											
9月9日(水)											
9月10日(木)											
9月11日(金)											
9月12日(土)											
9月13日(日)											
9月14日(月)											
9月15日(火)											
9月16日(水)											
9月17日(木)											
9月18日(金)											
9月19日(土)											
9月20日(日)											
9月21日(月)											
9月22日(火)											
9月23日(水)											
9月24日(木)											
9月25日(金)											
9月26日(土)											
9月27日(日)											
9月28日(月)											
9月29日(火)											
9月30日(水)											
9月31日(木)											
9月1日(金)											
9月2日(土)											
9月3日(日)											
9月4日(月)											
9月5日(火)											
9月6日(水)											
9月7日(木)											
9月8日(金)											
9月9日(土)											
9月10日(日)											
9月11日(月)											
9月12日(火)											
9月13日(水)											
9月14日(木)											
9月15日(金)											
9月16日(土)											
9月17日(日)											
9月18日(月)											
9月19日(火)											
9月20日(水)											
9月21日(木)											
9月22日(金)											
9月23日(土)											
9月24日(日)											
9月25日(月)											
9月26日(火)											
9月27日(水)											
9月28日(木)											
9月29日(金)											
9月30日(土)											
9月31日(日)											

タイムテーブル

4th International Symposium on Advances in Technology Education 2010 Evaluation

総参加者数(本校教員を含む)	167
アンケート回収数	62

5=大変よかった 1=不満					
I. Please rate your overall satisfaction with the symposium.	5	4	3	2	1
(研究集会全体に対する満足度)	47,14%	40,00%	2,86%	0,00%	10,00%



インターンシップとキャリア教育

教務主事 植村眞一郎

2007年に米国の住宅市場を舞台としたサブプライムローン問題の影響はまたたく間に世界中に伝播、世界的な不況を招くこととなったことはご存じの通りですが、その影響などを受けて学生の就職状況は今年度も依然として厳しいものになっています。文部科学省の発表によると、平成22年10月1日現在で、23年3月大学等卒業予定者の就職内定率は、大学（学部）57.6%（昨年同期比4.9ポイント減）、高等専門学校93.8%（同0.9ポイント減）であったものが、12月1日現在は大学68.8%（昨年同期比4.3ポイント減）、高等専門学校94.7%（同2.2ポイント減）となっております。いずれにしても大学よりは高専の方が就職内定率ははるかに高いことがわかります。

本校の平成22年度における12月末時点で5年生の就職・進学予定者の状況は、卒業予定者204名に対して就職希望者130名（63.7%）、進学希望者74名（36.3%）で、就職希望者に対する内定率は94.6%であり、文部科学省の発表と殆ど同じとなっています。

ところで、大学や高専などにおいては、学生が在学中に企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うインターンシップというものがあり、本校でも4年次に県内・県外企業へインターンシップに行っております。高専機構の調査によると、本校のインターンシップ参加者の割合は残念なことに他高専に比較してかなり低いということが判明しました。その原因は色々考えられますが、一つには鹿児島県内にももの作りなどの生産拠点となる企業等が、関東や関西あるいは九州北部など都会に比べ少ないという地域性の問題も含んでいると思われます。また、特に近年は、インターンシップに参加するのに必要な旅費・宿泊費などの補助がなく、自費による参加での受け入れ企業が以前に比べ多くなっており、行きたくても行けない状況にあることも確かです。しかし、他方でインターンシップへの積極的な参加意識の低い学生も一部に見受けられます。様々な要因はあるものの、学生の就職とも関係の深いインターンシップへの参加者数が増えるための学校としての取組体制を強化する必要がありました。

そこで本年度教務委員会において検討を重ね、それまで主に各学科で個別に対応していたインターンシップ取



組対応を、学校全体で組織的に取り組む体制に整えました。一つは、インターンシップに参加した学生は、来年度よりどの学科においても「工場実習」として1単位認定されます。そのためには、インターンシップに適した企業の選択、インターンシップへの事前研修受講、インターンシップ期間中の遵守事項、報告書作成など一定の要件を満たすことが条件になっています。また、インターンシップ先企業と本校との連携や、インターンシップに関する種々のデータ管理などを一元化することで、後々への活用を図りやすいものとし、これらの体制が十分機能するための専門の非常勤職員を配置する予定です。

これらと併せて、学生の将来に向けた人生設計や職業意識を高める取り組み、いわゆるキャリア教育も望まれており、こちらは今年度から特に1～3年の低学年を中心に特別活動の時間を活用して行っています。具体的には、本校と連携協定を結んでいる鹿児島県技術士会の技術士の方や本校卒業生に、実務における職業体験などの講話を年間に各クラスそれぞれ2回程お願いしました。また、担任の先生方からクラス学生へ「高等専門学校学生のキャリアプラン」というテキストを活用し話をして戴く新しい試みに取り組んでいます。

今後ますます厳しくなると予想される就職状況ですが、学校としての取り組む姿勢として、今後はより一層一般教育科の先生方もキャリア教育に積極的に関わって戴き、専門学科と連携して将来の技術者像をイメージさせるべく低学年から指導する体制を整えて参りたいと考えます。

平成22年度 一日体験入学

教務主事補 岸田 一也

今年度の一日体験入学は、口蹄疫の影響により予定していた日程から延期して、8月8日（日）の開催となりました。真夏の暑い時期での開催となったため、第一体育館で行われていた全体説明会を各学科の説明会場に分散して実施するなどの対応を行いました。ちょうど中学生の県大会が終わっている時期ということもあり、昨年度より60名ほど多い470名の中学生が参加してくれました。

毎年、一日体験入学では、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、都市環境デザイン工学科（土木工学科）の5年生が体験実習の準備から実施、展示テーマの準備・後片付けと頑張ってくれています。（テーマによっては専攻科生が手伝ってくれるところもあります。）学生等には大変感謝しています。内容としては、体験実習や展示テーマの見学、学寮での昼食（無料）、進学相談、奨学金・授業料免除相談等があります。体験実習は、高専での授業内容や実験・実習をもとに作られていますので、参加した中学生は高専でどのようなことを学んで行くのかを肌で感じることができると思います。また、5年生が中心となって実施される体験実習は、参加した中学生にとっても好評を得ています。そして、今年度は来られている保護者・引率者のための保護者説明会を実施し、多くの方にご参加頂きました。今後も多くの中学生、保護者に一日体験入学に参加して頂いて、鹿児島高専のことを知ってほしいと思っています。在校生、OBの保護者の皆様方からも近所の保護者、中学生の方へ一日体験入学のこと（鹿児島高専のこと）をお伝えていただければと思います。



体験実習の様子 1



体験実習の様子 2



体験実習の様子 3

平成22年度 授業参観

教務主事補 岸田 一也

授業参観は今年度で6回目を迎えます。今年度は1、2、3年生を対象として、以下のスケジュールにて実施しました。授業参観は後援会と学校との共同開催となっていますので、参加人数の把握、当日の受付、アンケートの実施など後援会の担当者およびクラス理事の方には大変ご足労をいただいております。ありがとうございます。今年度、授業参観に参加していただいた保護者は1年生が159名、2年生が138名、3年生が132名となっており、例年と同じく1年生の保護者の関心が高かったことが伺えます。

全体懇談会では、校長、教務主事、学生主事、寮務主事から学校の様子についての話がなされました。その後行われた授業参観では、1年生の保護者の方々に対して、20分程度の授業参観後、5年生の実験・卒業研究の見学や学科長からの学科説明会を行いました。引き続き、クラス懇談、個人面談が行われました。1年生のクラス懇談では、事前に質問事項等をアンケートで聴取し、その場で回答出来る項目については、担任から回答をするといった形で実施されました。個人面談につきましては、例年希望者が多く、開始時刻が16時からとなっているため、クラスによっては最後の方の面談が遅くなったところもあるようです。そのため、授業参観当日の個人面談につきましては、特に必要のある保護者や遠方から参加された保護者を対象とし、近隣にお住まいの保護者につきましては別途前後で日程を調整するなど、保護者の方々へご協力をお願いする必要があると思われます。

今後もよりよい形での授業参観の実施を考えておりますので、保護者の方々、後援会のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

<日時・日程>

11月17日（水曜）

12:30 受付

- ① 13:00 全体懇談会
- ② 14:10 授業参観
- ③ 15:10 クラス懇談会
- ④ 16:00 個人面談



全体懇談会の様子 1



全体懇談会の様子 2

機械工学科4年工場見学旅行報告

機械工学科4年担任 岩本 才次

高専祭が終わった1週間後の、平成22年11月8日（月）から11月12日（金）までの5日間、機械工学科4年の工場見学旅行を実施した。

11月8日（月）8：00 鹿児島高専を出発

10：00-12：00 YKKAP株式会社九州事業所（八代市）見学

15：30 長崎矢太樓（宿舎）到着 坂本竜馬亀山社中跡など三々五々見学

11月9日（火）8：15 宿舎発

9：00-15：00 三菱重工業株式会社長崎造船所，IC工場，三菱記念館，香焼工場，長崎研究所見学

17：30 福岡市 ホテルコムズ福岡着

11月10日（水）7：30 宿舎発

9：00-11：00 株式会社ブリヂストン鳥栖工場見学

12：30-13：00 柳川にてセイロ蒸しの食事

14：30-16：30 西日本旅客鉄道株式会社新幹線博多総合車両所見学

17：00 宿舎着

11月11日（木）9：00-21：00 各自自主研修

8：45-12：00 希望者を募り九州大学工学部船舶海洋システム工学科（伊都キャンパス）船舶性能試験水槽及び大型回流水槽見学

11月12日（金）9：00 現地解散，自主研修

以上が機械工学科4年工場見学旅行日程の概要である。

総務はじめクラス全員の挨拶と規律正しい行動によって、各所でお褒めの言葉を頂いたのが担任の自慢である。また、1名の事故・怪我もなく全員無事鹿児島に着できたのが何よりうれしいことであった。



写真は長崎造船所香焼工場内のドックの傍で、ゴライアスクレーンをバックに撮ったクラス写真である。今後は工場見学旅行の成果を生かして、就職または進学に邁進してもらいたいと思っている。

最後に、工場見学旅行実施に御尽力いただいた関係各位、保護者の方々に深甚の謝意を表すものです。

電気電子工学科工場見学旅行報告

電気電子工学科4年 岡元 太佑

1. 目的

工場見学を通して、企業の特徴を知り、将来の就職先の選択に役立てることを目的とする。

2. 11月8日（月）

○花王(株)川崎工場見学

川崎工場は全国各地へ花王の商品を送るために24時間稼働しており、製造は人件費を削減するために、ほとんど機械が行っている。しかし、最終チェックは人の手で検査が行われて、安全な商品を提供している。

アタックバイオEXとアタックバイオネオの商品の実験があった。

アタックネオは従来の濃縮2.5倍にすることによって洗剤液より量が減っているにも関わらず、汚れ落ちは従来よりもきれいに落ちていた。需要のニーズを合わせて、企業はそれに合うような商品を日々、研究、開発していることがわかった。

3. 11月9日（火）

○東芝科学館見学

東芝は常に日本をリードするように、研究、開発していることがわかった。今や電球や冷蔵庫にとどまらず、携帯電話、パソコン、テレビなどあらゆる分野に進出している企業ということがわかった。東芝科学館では驚くことが多く、例えば、人の動きをセルで感知して、何通りもある登録された動作をモニターで表示させる技術、携帯電話の充電などで、今後、活躍するであろうSciBは従来の充電電池をはるかに上回る性能で、充電時間はわずか5分に短縮される技術、超電導の実験では、物体に-196℃の液体窒素で極低温にすることで、磁界を調整して空中に浮く技術など、たくさんの展示物を見学、体験することで、電気工学、電子工学への興味が、より一層深まった。

○東京電力横浜火力発電所見学

横浜火力発電所では、ツインタワーという排煙をク

リーンにした物質を排出する煙突に登ったが、横浜周辺には多くの発電所があり、首都圏では多くの電力が使用されていることがわかった。また、発電するだけではなく、発電所内を緑化することで、地球環境保護にも努めていることもわかった。発電所の監視は4人交代で8時間勤務し、電気を安全に供給できるように、日々、シミュレーションしていることがわかった。

4. 11月10日（水）

○キリンビアビレッジ(株)横浜工場

商品を安全に提供するために、機械に頼るのではなく人が検査して、出荷される。キリンは古くからビールをつくり、様々な種類を作っていることがわかった。製造過程の途中から少し行程を変えることで、様々な商品を作れることがわかった。

○富士通川崎工場見学

富士通は世界をリードする開発をしている。スーパーコンピュータ“京”の計算速度はとても速く驚いた。1つのプロジェクトを成功させるためには、たくさんの仲間と協力することが大事ということがわかった。

・電子カルテシステム

様々な病院でカルテやレントゲン写真などを共有することができ、初めて行く病院で、従来よりも正確かつ早く診断できるようになる。

・業管理システム

無人の畑でも温度や湿度を測定し、異常が発生したときはすぐに知らせてくれるシステム。

・鉄道運行システム

どんな状況においてもシミュレーションできるシステム。

・ドアなどのロックシステム

ユーザ名を入力して、静脈認識で一致したら、ロックが解除されるシステムで、室内にあるパソコンと連動することもできる。

5. 11月11日（木）

○NHK見学

NHKではアナウンサーが原稿をできる限り間違いなく読むために、原稿を上から撮影し、前にあるモニターに表示させている。

○東京副都心見学

フジテレビと未来科学館を見学した。

未来科学館では、最先端の技術を見学することができた。地球はずっと小さい揺れを発生させていることや恐竜が絶滅したのは、隕石が衝突したことが、最近の研究で確定したことなど様々な事象について知ることができた。

工場見学旅行で学んだこと

電子制御工学科4年 中野 和彦

工場見学旅行が終わってから早くも2か月が経とうとしています。この旅行は、企業について勉強し将来のために役立てるための機会であるとともに、企業が鹿児島高専を評価する機会でした。今回は工場見学旅行で見学した企業を一部紹介したいと思います。

工場見学初日、羽田空港近くのANA機体メンテナンスセンターを見学しました。講堂で説明会があり、最新鋭機であるボーイング787に関する話を聞くことができました。この飛行機には地球環境に配慮したエンジンが使用されており、機体の軽量化などに伴い燃料効率を20%向上させるとともに二酸化炭素、窒素炭化物などの排出ガスを約15%削減しています。自動車や電化製品だけでなく、飛行機も温室効果ガス削減に携わっていることがわかり、多くの分野で地球環境を考慮した活動を行っていることを認識できました。この他にもエアバスやボンバルディアに関することについて聞き、ANAの使用している航空機に関する知識を深めることができました。

二日目に訪問した企業は、エルグランドやマーチ、スカイラインなどを製造している日産自動車でした。見学した日産自動車横浜工場はエンジンやサスペンション部品を生産するユニット工場です。1933年に日産自動車は横浜に創立し、日本で初めての自動車量産工場として1935年に稼働し始めました。現在は三つの地区から構成されたエンジンやサスペンション部品を一貫生産する主力の工場で、高品質なエンジンを供給するため、品質管理体制に万全を期しています。以前、線に沿ってロボットを前進させるライントレーサという技術を学校で学んだことがありました。工場内では、そのライントレーサを使用して部品の搬送が行われており、普段学習している内容が実際の現場で役立つのだと実感しました。日頃の勉強が将来役立つことを信じて、今まで以上に勉強したいと思います。

工場見学旅行に参加したことで、改めて自分の将来について考えることができました。社会に出てから産業の発展のために貢献できる技術者になれるよう、一層奮励努力していこうと思います。

工場見学旅行報告

情報工学科 4 年 押川 直樹

期間：平成22年11月 8 日（月）～11月12日（金）

1 目的

様々なところで目にする日本を代表する大企業の社内を見学し、研究成果・最新技術を知り、体験し、また、今後就職するであろう企業について考え、役立つ技術を学ぶことを目的とする。

2 各企業で学んだこと

2.1 NTTサイバーコミュニケーション総合研究所

4Kデジタルシネマ配信システムを使った映像を体験した。これは、横4000縦2000画素の映像を配信するシステムである。マスタビデオから劣化なしに各映画館に配信され、最高品質のまま映像を楽しめるようになっている。データを転送する際にAES暗号方式を使用しており盗聴を防ぎかつ効率の良い圧縮技術を用いているためセキュリティの向上につながるのである。この他にも放映される映像に電子透かしが入るようになっており、劇場で盗撮されても盗撮された映像には電子透かしが入るので盗撮映像の流出防止にもある程度期待できそうだ。また、この技術を使って海外から映像が配信できるようになっており、たとえばシアトル東京間では1Gbit/secの転送速度でコンテンツを配信することができる。これに関して、20Tbit/s光ファイバによる転送技術もある。これは1chあたり100Gbit/sの速度でハイビジョン映画200本を1秒で転送する広帯域特性を用いている。他には、眼鏡をかけることで机に3Dで楽器が現れ、専用の道具でその楽器をたたくことで架空の楽器を演奏することができる風インターフェースがあった。楽器をたたいたという動作がされたことを演奏者が直感で分かるようにするため、手に持っているその道具を机に近づける（楽器をたたく）とテーブルに備えられた小さな穴から風が吹き出すようになっていた。また、お互いが握手するだけで名刺などの情報を交換する技術がある。ICカードを携帯しているだけで他の物体や人と触れた瞬間に情報通信が行われるため、意図しない情報が知らない間に流れてしまうという問題があるが、あらかじめどの情報を交換するかなどの共有設定をさせることで管理をすることができると思われる。この他にも、裸眼で3D映像が見られる仕組みやひかりTVのことについても説明を受けた。これらの世界の最先端の技術を見て回ったが、こういう開発は市場で求められていることをもとに

研究する内容を決めているようだ。

2.2 東芝科学館

動作捕獲術SHADOWをみた。人物の動きに合わせて画面内の家相の名キャラクターが動くものだ。人の手足の動きを認識する技術はなかなか難しそうな感じだった。画像認識の分野であると思うが、人の顔を映像として取り込んで髪型を変化させたり衣装を着替えさせたりするような技術も体験した。これらはCELLプロセッサという高速マイクロプロセッサを用いて処理がされている。このCELLプロセッサを使った例として3Dテレビがある。とても鮮明な映像で解像度が高く驚いた。ただ、価格がまだまだ高いみたいで一般家庭に普及するにはしばらく時間がかかりそうだ。

2.3 富士通川崎工場

ATMなどで一部使われている静脈認証の安全性を体験した。今回は扉を施錠、解錠の一連の動作を体験した。まず、あらかじめ本人の静脈パターンを登録しておく。扉を解錠させるときは備え付けのダイヤルホンで暗証番号を入力し、さらに手をかざして静脈パターンが本人と合えば解錠された。施錠も同じくダイヤルボタンに静脈認証の二重であった。自分は静脈認証のみでもだいぶ信頼性はあるみたいに思えたが、万が一のことを考えてダイヤルボタンも認証に使うのだろう。他には、訓練用の電車シミュレータがある。運転台が再現されていて、画面上で実際に手元のマスコンを操作して運転できるようになっていた。使用している景色には実際に撮影した実写を用いているのでとてもリアルである。また、スーパーのレジでお馴染みのPOPシステムも展示されていた。商品を読み込んだ瞬間に買った人や売り上げなどの情報が本社との通信によって更新されているのである。

2.4 お札と切手の博物館

私たちが普段手にしているお札について理解を深めるために見学した。高価は造幣局で作られているが、紙幣は国立印刷局で作られているので注意。またあんまり知られていないが、郵便切手、印紙、パスポート、官報なども作っているのである。ところで、偽札を作られないためにお札には細かい処理が施されている。光に透かすと肖像が浮かび上がる「すき入れ」、インキが高く盛り上がる「深凹版印刷」、角度を変えると模様に変化する「ホログラム」、紫外線を当てると一部が発光する「特殊発行インキ」、「超細密画線」など多くの偽造防止技術が取り入れられている。1億円の重さがどのくらいなのか両手で持って体験した。1億円ともなると結構な重量感で運ぶのにも一苦労である。日本のお札や世界のお札の歴史の展示コーナーも見学した。

2.5 Microsoft代田橋オフィス

担当の方からプレゼンテーション形式で説明を受けた。WindowsやOfficeを開発した会社として有名だが、最近ではスマートフォン事業やモバイル部門にも特に力を入れているようだ。AppleのiOSを搭載しているiPhoneや、GoogleのAndroidOSを搭載しているAndroid端末とは全く違うインターフェースが特徴であるWindows Phone 7を開発している。これに関連して使いたいときにサーバーを借りていろいろなサービスを利用することができる「クラウド化」がある。また同社が目指している「FUTURE VISION 2020年の世界」として、近い将来の世界を描いていた。違う国の人がガラスを通じて近くで会話できる壁型コンピュータ。スマートフォンの発展系であるテレビ電話や、クラウド化によってその人にとって必要な情報がいろんなところに出現するような技術。新聞紙並みに薄いデバイス。植物にかざすとその植物のステータスが自動的に表示されるなどの世界である。これらを実現させるために今後求められる能力は技術力・応用力・国際力であるそうだ。後半は11月下旬に発売されるXbox360用のコントローラ「KINECT」を使ったゲームを体験した。体を動かすことで操作する、体がコントローラになるというものだ。今までのゲーム機とは違いより直感的に操作させることができ、初心者でもプレイしやすいインターフェースであって良かったと思う。マイクロソフトはこのXBOX360の①ユーザ体験②ジェスチャー③いろいろな場所で利用されるという3つの可能性を示していた。

2.6 自主研修

お台場のフジテレビやソニーエクスプローラサイエンスに行った。フジテレビに着いたときにちょうど番組の天気コーナーの生放送をやっており、天気キャスターがリポートしていた。フジテレビ内には番組関連のグッズやスタジオの模型などがあった。球体展望台に昇りお台場から見る眺めを楽しんだ。ソニーエクスプローラサイエンスでは声のピッチやディレイを変化させる、韻律のパラメータを変化させることで感情をコントロールする感情合成ソフトウェア、テーブル内部の赤外線カメラが影の形を認識し、その形に合ったCG画像を呼び出すホロウォールテーブル、実現の画像とCGの画像を重ねるモーションマジックミラー、ケータイのスマイルシャッターにも使われている、人の笑顔の度合いを測定する技術などを学んだ。

3 感想

超高層ビルが立ち並ぶ都会に行って日本の世界の最先

端技術を学んだがとても進んでいるということに感動した。日本の未来を思わせるような技術はもうすぐそこまで実用化されているのだと思った。東京は人で溢れ返っている印象を受けたが移動するには電車があるのでほとんど不自由がなかった。将来、関東の企業に就職するのは楽しみだ。

現場見学旅行で学んだこと

土木工学科4年 足立 宏富

11月8日から11月11日まで現場見学でした。まず、初日は鹿児島空港から中部国際空港に飛んで、そこから新東名高速道路建設現場へ見学に行きました。現場は、山と山の間に橋を架ける形で工事が進んでいました。橋の全長は約500メートルで、地上からの高さは約70メートルと、少し離れたところから見ていましたが、それでも大きいと感じました。そのあと橋脚部分の工事現場に入ってもらい、実際に橋脚に触れたりしましたが、近くで見るとその大きさを実感することができました。最後に現場の方の話で、無事故の為に心がけていることは、現場を常にきれいに保つことだとおっしゃられて、先生がいつも口酸っぱく「教室をきれいに」と言うのはこういうところに通ずるのだと思いながら聞いていました。

次の日は黒部ダムの見学に行きました。移動は、電気で走るトロリーバスやケーブルカーを乗り継いで移動しました。途中、工事の難所と言われた破砕帯を通りダムに着きました。するとそこには見たこともないくらい大きな黒部ダムがありました。今の技術よりも進んでいないはずの当時の技術でこんなものが造れるのかとずっと考えていました。ダムを見た後、立山の山頂まで登りました。あたり一面真っ白で、山頂は雪が吹雪いていました。腰まで埋まるくらい雪が積もっていました。ロープウェイから見た風景は絶景でした。生まれて初めての体験にとっても感動して、興奮を抑えきれませんでした。

3日目は、朝から6時間の大移動でした。やっとのことで目的地の横河ブリッジ大阪工場へ着きました。ここでは、部材を現場で組み立てる前の仮組み立ての作業を見ました。専用の大きい機械で出来上がった部材をひとつひとつ組み立てていました。仮組み立ての段階なので橋の仕組みが分かりやすかったです。

現場見学最終日の4日目は、まず広畑製鉄所に行きました。工場内に入った瞬間ものすごい熱気が襲いました。目の前で温められている真っ赤になった鉄が次々に転

がって行きました。工程の真ん中あたりで、鉄を冷やすために水をかけた瞬間、ものすごい水蒸気が噴きあがりました。最終的に、鉄はぐるぐる巻きにされました。高速で生産されていく鉄を見て、短時間のうちに大量生産される鉄の多さに驚きを隠しきれませんでした。次に、世界で一番大きい橋、明石海峡大橋を見に行きました。その長さ約4キロメートルで、ケーブルに使われている鉄1本1本をつなぎ合わせるとなんと地球を7周できる量だそうです。現場ではアンカーレッジの中から階段を上がり、作業用の通路を歩かせてもらいました。しかし、この通路、下がすかすかで丸見え。高所恐怖症の友達はおびえながらゆっくり歩いていました。世界最大ということで、改めて日本の技術力の高さを思い知りました。

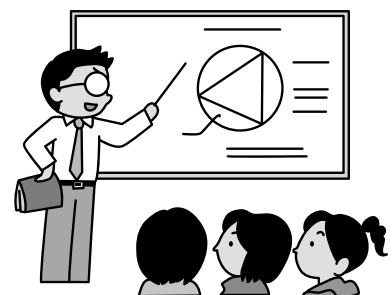
そして最後に阪神淡路大震災記念公園に行きました。ここでは当時のまま残された断層や実際に被害に遭った民家などがあり、震災の惨さが伝わってきました。

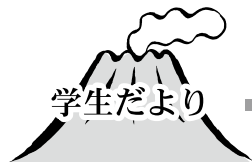
ここまで現場を回ってきて、普段授業でやっている内容のリアルな姿が見られて、とても新鮮な気持ちになり、授業よりも楽しく勉強することができました。

5日目には解散して、それぞれで自主行動しました。友達とあちこち回りました。食い倒れの街大阪で食べまったり、いろいろな買い物をしたりして楽しみました。

今回の見学旅行は1日1日がとても充実していてとても楽しい旅行になりました。

最後に、見学旅行に行かせてくれた親と旅を盛り上げてくれたガイドさん、添乗員さん、安全運転だった運転手さん、旅を計画してくださった先生に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。





学生生活支援について

学生主事 岡林 巧

本校の学生生活支援に関する基本的な事項について学則、関連規則、内規、取扱基準、実際の運用等を参考に保護者・学生用としてまとめたものです。学生生活の参考として下さい。なお、文中の「学生便覧」のページは平成22年度版に対応しております。



【1】学生生活支援・指導体制について

1. 学生委員会

■担当事項

- (1) 課外活動に関すること。
- (2) 保健衛生及び生活指導に関すること。
- (3) 奨学金及び授業料等の減免に関すること。
- (4) 就職指導に関すること。
- (5) 学生会及びその他の学生団体に関すること。
- (6) 交通指導に関すること。
- (7) その他厚生指導に関すること。

■委員

- (1) 学生主事及び学生主事補
 - (2) 第1学年及び第2学年学級担任から推薦された教員 各1名
 - (3) 学科から推薦された教員 各1名
 - (4) 専攻科から推薦された教員 1名
 - (5) 学生課長
 - (6) その他校長が必要と認めた者
2. 担当事務：学生課学生係
- 学生の支援・指導等に関する事務的な業務は、学生課学生係が担当しています。

【2】生活指導について（学生便覧p. 7～「学生心得」）

1. 服装等について

自由服（ただし、学生にふさわしい服装）

1～3年生：茶髪、ピアス禁止。

2. 飲酒・喫煙について

- (1) 20歳未満の学生の飲酒・喫煙は禁止です。
- (2) 20歳以上の学生の学内の飲酒・喫煙は禁止です。ただし、喫煙許可を受けた20歳以上の学生は、喫煙バッジを付け、学内指定の場所（管理棟1階の喫煙室）で喫煙できます。

3. 交通指導について

- (1) 通学に車両を使用する場合は、許可を必要とし

ます。自転車登録届、車両登録届

1年生：自転車

2年生：自転車・原付

3～4年生：自転車・原付・250cc以下の自動二輪

5年生、専攻科生：自転車・原付・250cc以下の自動二輪・自動車

(2) 交通事故及び違反をした者は、担任に連絡し報告書を学生係に提出して下さい。

(3) 無許可の車両での通学はできません。

4. 校外生活について

(1) 低学年（1～3年生）

1) 長期休暇中以外のアルバイトは、原則として禁止です。

2) 長期休暇中にアルバイトをする時は、必ず担任を通じて学生主事の許可が必要です。

3) アルバイトの職種は、学生に相応しいものを選んで下さい。

4) 深夜（午後10時以降）におよぶアルバイトはできません。

(2) 高学年（4～5年生）

1) アルバイトの職種は、学生に相応しいものを選んで下さい。

2) 深夜（午後10時以降）におよぶアルバイトはできません。

5. 指導及び懲戒処分基準

違反行為に対する指導及び懲戒処分基準は学生便覧p. 105～に「学生の懲戒等に関する規則」として明示されています。

【3】学生会と課外活動について

1. 学生会について

- (1) 学生が行う学生会活動は、学生会を中心として自主的に企画運営されています。
- (2) 学生会の組織・役割は、学生便覧p. 109～に明示されています。

2. クラブ・同好会

体育系クラブ23、文化系クラブ11、同好会14。事故による対応等：学生便覧に「学生の安全心得」p. 97として明示されています。

3. 主な体育系大会

- (1) 高専体育大会（九州・沖縄地区大会、全国大会）等
- (2) 高体連大会（地区大会、県大会、全国大会）等

4. 主な文化系大会

ロボコン大会（九州・全国）、鳥コン、プロコン、エコラン、デザコン、英語弁論大会等

5. 主な学校行事

入学式、開校記念日、都城高専との親善試合、クラスマッチ、保護者懇談会、授業参観、一日体験入学、体育祭・文化祭、卒業式・修了式等

【4】厚生面について

1. 奨学金制度

(1) 日本学生支援機構（旧日本育英会）

■第一種奨学金（無利子）「本科1年生から申込のできる無利子の奨学金」

■第二種奨学金（有利子）「本科4年生以上の者が申込のできる有利子の奨学金」

1) 申込資格

人物・学業ともに特に優れかつ健康であり、経済的理由により修学が困難であること。ただし、成績不振により留年中の者については、留年中の奨学金の申込資格はありません。また、鹿児島県育英財団の貸与学生は申請不可です。

2) 貸与月額

■第一種奨学金

	自宅	自宅外
1～3年生	21,000円	22,500円
4～5年生	45,000円	51,000円
専攻科生	45,000円	51,000円

■第二種奨学金（4～5年生、専攻科生）

月額：30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円から選択。

3) 奨学金説明会開催時期：4月上旬（学生課へ確認下さい）

4) 書類受付期間：4月中（学生課へ確認下さい）

(2) 鹿児島県育英財団

1) 申込資格

■鹿児島県内に生活の本拠を有する者の子弟

ア) 学力及び人物が優れているにもかかわらず、経済的理由によって修学が困難条件。

イ) 世帯の1年間の認定所得金額が、収入基準額以下の者。なお、日本学生支援機構の奨学生の者は対象外となります。

	自宅	自宅外
奨学生	18,000円	23,000円

2) 貸与月額

3) 書類受付期間：4月下旬から5月上旬頃（学生課確認下さい）

(3) その他の奨学金

1) 各自治体の奨学金

2) 民間の奨学金

※その他の奨学金については、通知が届き次第掲示板にて案内を行います。書類に関する説明は、資料配付時に学生係にて行います。

※授業料免除関係、奨学金関係の案内は、掲示板、あるいは担任経由で連絡いたします。

2. 授業料免除制度

(1) 授業料免除の該当者

1) 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀（成績がクラスの1/2以内）と認められる条件。

2) 授業料免除申請前6ヶ月以内において、学資を主として負担している者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が、風水害等の災害を受けたことにより授業料の納付が著しく困難であると認められた場合。

3) 2)に準ずる場合であって、免除する理由があると校長が認めた場合。

(2) 授業料免除の該当者の中で対象外となる者

1) 自動二輪車（原付、50cc未満を除く）及び自動車を使用している者。

2) 同一学年再履修中の者。（病氣、留学等の理由があると認められる休学による場合を除きます。）

3) 最短修業年限を超えている者（病氣、留学等の理由があると認められる休学による場合を除きます。）

4) 過去1ヶ月以内に停学処分を受けた者。

(3) 授業料免除説明会の開催時期

1) 前期：2月中旬（在学生）、3月上旬（新入生）

2) 後期：7月上旬

(4) 書類申請時期

1) 前期：4月上旬

2) 後期：9月上旬

(5) 申請結果

1) 前期：学内免除（6月中旬頃）、超過免除（9月上旬頃）

2) 後期：学内免除（11月上旬頃）、超過免除（1月下旬頃）

※半額免除者、不許可者は結果通知後、速やかに納付して下さい。

3. 高等学校等就学支援金制度

全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、公立高校の授業料を無償化するとともに、高等学校等就学支援金（高専の場

合)を創設して、家庭の教育費負担を軽減するという趣旨から制度が創設されました。

(1) 対 象：本科1年生～3年生

※但し、就学支援金は在籍36ヶ月までの学生を対象としているため、留年等で在籍期間が36ヶ月を超える場合は対象外となります。

(2) 支給額：118,800円～234,600円

※各世帯の所得額あるいは納税額により支給金額が異なります。

(3) 備考：就学支援金は、学生又は世帯に交付されるものではなく、授業料から減額されるものです。また、申請主義の観点から申請しない場合は受給資格がないので注意を要します。

4. 健康・悩み等の相談（学生便覧p.100～「健康・悩み等の相談」）

(1) 保健室：学生並びに教職員の健康相談、健康診断、救急処置等を行っています。

(2) 健康相談：校医による健康相談（月1回）が行われています。

(3) 学生なんでも相談室とカウンセリング

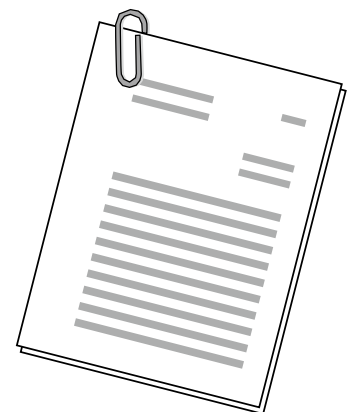
学生生活上の疑問、悩み、不安、その他様々な問題についての相談に、学内の相談員と学外の専門のカウンセラー（2名）があたっています。

5. 災害共済給付

学校の管理下において災害に遭った場合、独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付が受けられます。申請の窓口は保健室です。

【5】各種申請書類等（学生課学生係：書類ボックスに申請書類を用意してあります。）

- (1) 学生団体結成願
- (2) 校外団体参加願
- (3) 集会・行事・施設設備使用許可願（学内用）
- (4) 集会・行事許可願（学外用）
- (5) 印刷物配布・販売許可願
- (6) 掲示許可
- (7) アルバイト許可願
- (8) 車両登録願
- (9) 自転車登録願
- (10) 交通事故・違反報告書
- (11) 厚生指導始末書
- (12) 被害・紛失届



高専ロボコン全国制覇までの22年

鹿児島高専名誉教授 桐野 弘城

1. 緒言

平成22年10月17日（日）に久留米市で行われた高専ロボコン九州・沖縄地区大会でBチームが優勝したと速報を受けた。しかもタイム的にも全国大会で十分期待できるものだという。早速凱旋してきたロボット（ROSE ROAD）を「夢工房」で植村先生と上野さんに頼んで見せてもらった。鹿屋ばら園のユルキャラ（ばららちゃん）を模したとのことで大変微笑ましかった。

全国大会は是非観戦に行こうと思ったのであるが、その前週に横浜で別の会があり、観戦をあきらめざるを得なかったのは大変残念でした。11月21日全国大会が行われた日は朝から落ち着かなくて、結果の出たであろうころから、TVやインターネットで必死に結果を調べた。やっとインターネットで鹿児島高専Bチームが念願の全国優勝を果たしたことを知った。ここ数年の鹿児島高専メカ研の技術力から、全国制覇は近いとは思っていたが、本当にうれしく、高専ロボコンに携わってからの22年間のもろもろの悔しかった胸のつかえが一気にとれ、感動した。メカトロ研究会の部員及び鹿児島高専教職員、卒業生の支援の会、後援会、保護者の会等関係者の皆様と歓びを分かち合いたいと存じます。

平成23年1月16日に「ロボコン優勝祝賀会」で関係者の一人としてご挨拶を申し上げたところ、歴史を知る一人として、これまでの経過をまとめて「高専だより」に投稿して欲しいとの要請をいただき、全国優勝までの22年間に関係した多くの学生たちやロボコン大会を支援して頂いた学校教職員、物心両面で支援を惜しまなかった卒業生の方々、後援会、保護者の会のことを、知る限りまとめてみました。

2. 高専ロボコンの変遷

(1) 黎明期（第1回～第3回）大会

回	年	大会名	概要
1	1988	乾電池カー・スピードレース	乾電池2個を使ったレース
2	1989	オクトパスフットボール	ラグビーボールを使ったゲーム
3	1990	ニュートロンスター	バスケットボールを使ったゲーム

鹿児島高専が初めて参加したのは、第2回大会からである。第1回大会は偶然NHKの放送を観て知った。当時講義をしていた4年機械工学科の学生に高専ロボコン大会のことを話し、「来年一緒に参加しよう」と

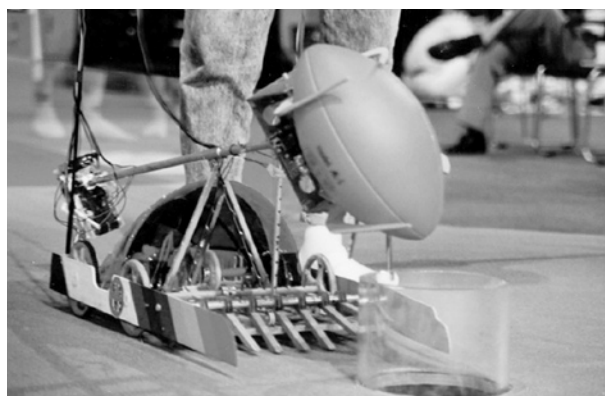
呼び掛けたところ、翌年6月に第2回大会の案内があり、5M柿本誠君をリーダーとするMプロ（Mechanical Engineering Project Team）が協力を求めてきたので、一緒にロボコンに挑戦することになった。



第2回大会は、全国からアイデアを募り、NHKと高専連合会で審査を行い、20校（応募53校）が全国大会への切符を手に入れた。大会は8月12日に横浜そごうであったが、夏休み返上で、学生たち8名と悪戦苦闘してロボット名、薩摩IMO（Indoor Moving Object）を完成し、大会へ出かけた。

自信をもって臨んだが、大会会場での各校の試走を観て、愕然とした。薩摩IMOのベストタイムは3分半ぐらいだったが、最速のロボットは16秒ぐらいであった。

1回戦はパソコンを駆使しようとした沼津高専で、ピ



クリともしない相手に勝ち進んだ。2回戦は、前日はトラブルで苦しんでいたのに、見事に回復した詫間高専に敗れた。

鹿児島高専ロボコンの礎を築いてくれた、Mプロの皆さんには感謝している。彼らは「活動の記録」を残してくれたが、先輩の記録として、メカ研へ引き継いでもらった。

第3回大会は、全国高専が東京（代々木体育館）へ集合した。前日に予選会が行われ、鹿児島高専は残念ながら予選落ちし、本戦には進めなかった。

(2) 試行錯誤期（第4回～第8回）大会

回	年	大会名	概要
4	1991	ホットタワー	段ボールを台の上に積み上げる
5	1992	ミステリーサークル	バレーボールをサークルに入れる
6	1993	ステップダンス	階段昇降とラグビーボールゲーム
7	1994	スペースフライヤー	フライングディスクをホールへ入れる
8	1995	ドリームタワー	バレーボールをゴールに入れる

この間の大会面においていろいろの変更がなされた。

- 第4回大会から地区予選が始まった。更に大会日程が8月から11月に変更になった。また、使用電源が乾電池から直流安定化電源になった。更に、各校から複数のアイデアを提出させて、大会事務局でアイデアを決定し、各校に連絡するという方式になった。
- 学内のアイデアの募集は幅広くということで、全学的（学年、学科）に募集する形をとった。それらのアイデアを場合によっては、4案をそのまま提出することになり、必ずしも学校側として希望するアイデアでないものが決定されることもあった。したがってアイディとしても練れていないし、チームの技術レベルにも問題が多かった。その為に地区予選も1回戦敗退という結果を重ねて大変苦しい時代だった。学生たちはそれぞれ頑張ったことは勿論で責められない。学校側の支援体制も十分とはいえず、ロボコンは一部の教職員の犠牲的な協力に頼らざるを得ない状況であった。
- 第7回大会あたりからメカ研の活動が本格化してきた。また、機械2期生橋口さんを中心とする鹿児島在住の卒業生の関心も高まり、金銭的な面の支援をいただき心強く感じた。また、実習室の全面的な協力により、課題のモデル設備を作成して頂き、ロボットの練習の助けとなり、ロボット性能の改善に大変役立った。やっと高専ロボコンが全学的に認識されたのかなという思いである。

3. 発展期（第9回～13回）大会

回	年	大会名	概要
9	1996	テクノカウボーイ	自作の輪をパイロンに投げ入れる
10	1997	花開蝶来	自作の花と蝶をプランタに植える
11	1998	生命上陸	自作の生命体を島に上陸、誕生さす
12	1999	Jump to the Future	70センチの壁を飛び越し箱を置く
13	2000	ミレニアムメッセージ	4つのボールに造形物を置く

9回大会から14回大会までは自作のオブジェ等を用いて、各校の特徴を引き出す競技が主であった。鹿児島高専としても、メカ研が力をつけてきたので、アイディア枠の一つは、メカ研に与え、あと一つは、各学科案から選び、2つの案をNHKに申請することにした。実習工場の協力（特に上野技術職員の協力）により、レーザー加工機やNC工作機の利用が可能になり、部品の加工精度が高くなり、ロボットの完成度が格段に上がった。「テクノカウボーイ」、「花開蝶来」の2機とも、ロボットとしては完成度はほぼ十分だったといえるが、練習不足が結果につながらなかったのではないかなと思う。

11回大会の「生命上陸」では、初めて自動制御がマシンコントロールに取り入れられた。12回大会は、メカ研と機械工学科の2チームのマシンが共にベスト4まで進んだが、全国大会はあと一歩だった。

第13回大会（ミレニアムメッセージ）は21世紀へのメッセージを披露するというテーマであった。メカ研の「スペースマン2k」が4回戦で敗れたが、パフォーマンス賞を受賞し、念願の全国大会への切符を手に入れた。（詳しくは「高専だより44号」に特集があります）全国大会でも期待されたが、わずかの操作ミスで勝てた試合を失った。学生たちの無念さが痛いほどわかった。鹿児島高専にとっては記念すべき大会であった。

4. 成熟期（第14回～第17回）大会

回	年	大会名	概要
14	2001	Happy Birthday 39	27本ローソクをケーキゾーンに立てる
15	2002	プロジェクトBOX	箱の階段を下り箱をスポットに積み上げる。
16	2003	鼎	回転盤にオブジェを付け、その数を競う
17	2004	マーズラッシュ	火星に見立てた円中央に自動ロボッを近づける

14回大会の「Happy Birthday 39」は高専制度発足39年ということで、高専の誕生を祝して、ケーキに見立てたケーキゾーンに27本のローソク（円筒）立てるゲームであった。九州大会はメカ研のロボット名「昇陽」が準決勝に進んだが都城高専に敗れた。

この大会から、操縦方法が有線のリモコンから、無線操縦（赤外線、音波、可視光線）に変更された。

15回大会「プロジェクトBOX」は段ボールボックス36個を積み重ねた階段を下りて、更にその箱を3ヶ所のスポットに積み上げてその数を競う競技であった。Aチームの「凱旋門」が段差を本体の重心移動をさせずにロボットを階段から下すという画期的なアイディアで注目を浴びた。2回戦で熊本電波高専に敗れたけれど技術

賞を受賞し全国大会へ進出することになった。

この年にOBの「ロボコン等支援の会」、後援会と学校事務部との連携により、メカ研待望の【夢工房はやと】が構内に建設された。学生たちが何時でも自由に使える工房である。此れまでのロボコンチームが作業場所にと望んでいた施設である。

更に学校側の支援を統率する特命統括官として機械工学科の持原教授が任命されて、活動の全体をコントロールされることになった。OB会、学校側（事務部、技術室）、後援会が一体となってロボコンを応援して貰うことが、如何に大きな力になったか計り知れない。

全国大会でも「凱旋門」は一回戦を勝ち抜いたものの、2回戦で北九州高専に惜敗した。しかしマシンの優れた技術力が認められ【技術賞】を頂いた。詳しくは「高専だより」48号に特集が掲載されています。第16回はいまひとつ実力を発揮できずに九州大会を突破できなかった。

17回は全国にコマを進めたが成績は1回戦敗退におわった。

5. 伝統校へ 第18回～第23回) 大会

回	年	大会名	概要
18	2005	大運動会	梯子くぐり、平均台、ハードル壁のぼり
19	2006	ふるさと自慢特急便	ふるさとの特産品を障害を克服して運ぶ
20	2007	風林火山	騎馬ロボット同士の一騎打ち戦
21	2008	ROBO-EVOLUTION 生命大進化	歩行ロボットの障害物タイムレース。多足歩行から2足歩行へ変身する
22	2009	DACIN' COUPLE ダンシングカップル	2台の歩行ロボットがカップルとなりダンスを披露する
23	2010	激走！ロボ力車	二足歩行ロボットが人力車を引くレース

18回大会の「大運動会」はロボコン史上最も難しいと言われた競技である。ロボットたちは、梯子をくぐり、平均台を渡り、ハードルを越えて、最後に壁を登り、バトンゴールに差し込むという難題をクリアしなければならない。鹿児島高専Aチームのロボット名「無限」が並みいる強豪を退け見事に地区大会優勝を果たした。全国大会での活躍は報道等でご存じのとおりである。準決勝で津山高専と対戦し、優位に戦いを進めながらバトンを落としてしまい惜敗したが2回目の技術賞を貰った。

19回九州地区大会はA、Bチームが同校決勝戦を戦いAチームが優勝、Bチーム準優勝に輝いた。Aチームが全国大会出場し、Bチームも技術賞を獲得した。全国大会

では残念ながら成績を残せなかった。

第21回大会（生命大進化）はAチームが準優勝した。Bチームのロボット名「篤姫と機械な仲間たち」がアイディア賞と特別賞を受賞し、全国大会への切符を獲得した。全国大会でも時流に乗る「篤姫」大喝采を浴びてアイディア賞を受賞したのはご存じのとおりである。

22回大会「DACIN' COUPLE」でもBチームが準優勝で全国大会へ歩を進めた。

23回大会「激走！ロボ力車」での結果はご存じのように、永年の念願であった全国優勝をかなえてくれた。メカトロ研究部の活躍に惜しめない拍手を送る次第です。

ここ数年の鹿児島高専の戦績から、ロボコンの有力校としての伝統を築いたのではないかと密かに自負しているところでもあります。

6. おわりに

全国大会で勝ち抜くためには何が必要だったか考察すると、次のようなことが考えられる。

(1) メカトロニクス研究部に昇格させる。(1999年)

「ものづくり」に於いては技術の伝承と経験が欠かせない。初期のロボコンチームの学生は能力の高い人たちだったと思う。しかし、如何せん技術も経験もない。これでは、日曜大工的な物しかできない。メカ研を部に昇格させた。

(2) 工房の設置 (2001年)

ロボコンチームにとって、自由に使える工房は何より欲しいものであった。過去の学生たちは、作業場探しに苦労し、毎日製作準備と後片付けで大変苦労していた。その実情をOB支援の会及び後援会、学校側が察して構内に「夢工房はやと」を建設してくれた。これがどれほどロボコンの技術レベルの向上に役立ったか計り知れない。

(3) 学校側の支援体制の確立

「特命統括官」：ロボコン全体の統括に大きな力を頂いた。「技術室の全面的な支援」：課題の舞台づくりから、技術的なサポートは未熟な学生たちの良き指導者となった。「ロボコン等支援の会」、「後援会及び父母の会」：物心両面で学生たちに安心とゆとりを与えて頂いた。

これらの体制の整備によって、2000年～2010年の間に

○全国出場	8回	○優勝	1回
○技術賞受賞	2回	○アイディア賞	1回
○特別賞	1回		

以上の赫々たる戦果を示して、関係者各位に感謝の意をこめてご報告申しあげます。

高専ロボコン2010を振り返って

メカトロニクス研究部長
情報工学科4年 津曲 亮介

ーロボコン。夢を、感動を伝えるために高専生はロボットをつくる。この素晴らしさは他では味わえないだろう。今年の大会を振り返りつつ、少しでもそれを伝えられれば、と思う。

今年は2年連続全国出場後の年ということで絶対全国へ、という想いがあった。それが通じてか、地区大会で優勝し、全国出場を決めた（決勝では応援席をひやひやさせて申し訳なかった）。今年は地区大会最速ということもあり、周囲からの期待も高かった。朝から夜までご指導くださった先生方。いろいろな形でサポートをしていただいた保護者の方々。大会前日温かい声をかけていただいたOBの先輩方。高専連合会会長として会場にいらしていた校長先生（一番のプレッシャーだった）。私たちをどれだけ多くの人が支えているかを再確認し、力を貰った。大会では昨年度優勝校の香川高専託間キャンパスや、私たちと同じ最速記録の22秒をもつ奈良高専、和歌山高専と競い合うという、ある意味恵まれたトーナメントだった。実力的にはどの高専が優勝してもおかしくなかった（全試合で応援席をひやひやささせ本当に申し訳なかった）。そのなかで一番になれたことを私は誇りに思う。

また、全国には出場していないものの、Aチームも素晴らしかった。地区大会で激走賞と特別賞（ホンダ）のW受賞と、全国大会出場レベルの成績をあげた。今年は両チームが切磋琢磨したことで、どちらも何倍もよいロボットになったのは間違いない。

今年はこれ以上ない結果をあげることができた。しかし、これは私一人の力ではない。ロボコンはチーム競技であるということや、結果に値するだけの努力があったことを理解していて欲しい。

今年の競技課題、『激走！ロボ力車』は、シンプルな競技だけにどこか一カ所でも欠けると致命傷になる。皆自分の担当場所の力で1秒でもタイムを縮めようと必死だった。私がなにも言わなくても「次はここを改良します」「まだいいものを考えます」と、日々ロボットが進化していく。この決して奢らない姿勢が今回の結果に繋がったと感じる。一番驚かされたのは3年生以下の実力だ。地区大会後全くスピードが伸びなかったのに、4年生が工場見学旅行にいった一週間の間で4秒縮められるまでに早くなっていた。さすがにこれには驚いた。

彼らなら来年もきっとよい成績を残してくれるだろう。

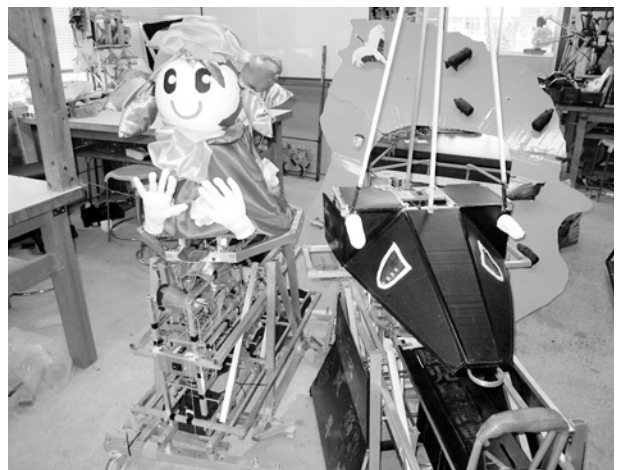
皆を信じてここまできてよかった。途中、このチームをまとめていけるのかと、何度も心が折れそうになった。でも、そのたびに誰かに助けられた。本当にありがとう。また、来年こそが真の山場だと思う。まだ鹿児島高専の達成したことのないロボコン大賞や、全国2連覇を目指して頑張してほしい。そして、私も部長は退くが、いつまでもロボコンに関わり続けたい。

最後に、私たちを応援くださった皆様、ロボコンファンの皆様、これからもメカトロニクス研究部をよろしくお願い致します。

…これを執筆中、3回ほど涙しました。



ロボコン2010



バララちゃん

学生会長を務めて

土木工学科 4 年 大山 裕太郎

こんにちは。今年学生会長を務めさせていただきました大山です。今年度の学生会長の任期も残すところもあとわずかというところまで来ました。

私は、1 年生の時に文化祭実行委員に入り、そこで先輩に声をかけられ 2 年生の時に学生会に入ることになりました。学生会に入ったころはまさか自分が学生会長になるだなんて思ってもいなかったの、今自分が学生会長をしていることがすごくびっくりです。学生会長選挙のときは、自分のクラスが学級閉鎖でとてもさみしかったのを今でも忘れません。なんとか選挙で皆さんからの票をもらい会長になることが決まりました。

そして引き継ぎ式のときに前年度の学生会長の米田さんから学生会長はどのような仕事をするのか聞くと、「毎日昼休みと放課後に学生会室に行くこと」と言われました。米田さんから「結構きついよ」といわれたのを覚えています。

そこから自分の公約でもある学校をきれいにという事で各クラスの掃除チェックなどして今まで汚かった自分のクラスも次第にきれいになっていくのでとても気持ちがよかったです。

ハイチの地震があった時には、学校の近くの AZ の入り口で、土曜日と日曜日にみんなで大きな声を出して募金活動をしたこともありました。みなさんご協力本当にありがとうございました。そのお金はしっかりとハイチの方々に送らせていただきました。

その他にも、クラスマッチや、車両登録、あいさつ運動などいろいろな仕事がありました。

そして今年は自転車防犯のモデル校に認定され、より一層自転車などの防犯活動に努める機会も増えました。

前期が終り、ついに後期に入りました。後期は高専祭など大きな行事がありましたが、高専祭は 2 人の実行委員長にまかせっきりで土木の応援団の副団長だったということもあり自分は何もしませんでした。そして高専祭が終り、実行委員も一段落つくと、放課後学生会室に行っても人が来ることはあまりなく、とてもさみしい学生会室でした。そこからだんだんと学生会室に行く回数も減っていきました。

後期中間のテストが終わり、ついに来年度の学生会長を決める、学生総会の時期が来ました。そこで無事に来年度の学生会長も決まりました。来年度の学生会長は、自分よりもしっかりしているのでものすごく安心してい

ます。

今までのことを振り返ると、とてもいろいろな事が経験出来たと思います。最初は本当に自分なんかには学生会長を務まるのか心配でたまりませんでした。しかしサポートしてくれた北園先生や各先生方、学生会役員のみんな本当にありがとうございました。人に頼ってばかりで 4、5 年生の学生会役員にはいろいろと迷惑をかけました。また、学生主事の岡林先生にもいろいろな事を教えてもらいもらい、ありがとうございました。樫根先生、濱川先生、山田先生には、校内美化や交通関係の仕事を手伝っていただきました。たくさんのアドバイスなど教えてもらう事がたくさんありました。本当にありがとうございました。

この一年は本当に濃い一年でした。仕事も一人じゃできないダメな学生会長でした。しかしこの経験は一生の宝になることは間違いありません。

今年一年間ダメな学生会長についてきてくださった学生会役員のみんな、各先生方、そして高専の全学生の皆さん本当にありがとうございました。

交通局長として

電子制御工学科 5 年 二階 拓馬

皆さん、こんにちは。平成22年度の交通局長を務めさせていただいている二階拓馬です。交通局では主に車両登録と学校行事等による交通整理を行ってきました。

今回は交通局が行っている仕事をおおまかではありますが記したいと思います。

まずは車両登録です。車両登録は年に2回、学生が通学に使用している車・バイク（250cc以下）・自転車を検査基準に基づいて検査を行い、シールを交付するという作業です。検査項目についてはライトが点灯するか、ブレーキはしっかりと効くか、反射板はついているのかなどがあります。このような登録をしっかりとしてもらうことにより盗難の防止、校内のバイク・自転車等の管理を行うことができます。これらの検査を行っても中には400ccのバイクで通学する学生や、改造・半ヘルなどを使用している学生もいましたが、今後は自分の身を守るためにも他人に被害を与えないためにもしっかりとした車両・格好を意識してほしいと思います。また、校内に盗難車がまぎれこんでいたり、準人駅で自転車等の盗難被害があったりと警察署の方にも何度もお世話になっています。盗難にしっかりとした罪意識を持っていたいただき、盗まれないように施錠を2個つけたりして1人1人が意識をしていってほしいと思います。

次に交通整理についてお話したいと思います。交通整理は入学式・卒業式などやその他学校行事が行われる際にやってきました。その中でも高専祭（体育祭・文化祭）での交通整理が1年の中で一番大変です。当日だけではなく前日・前々日からグラウンド等に駐車ラインを引き、スムーズに車を誘導できるよう準備しました。本番では戸惑ってしまうこともありましたが、各クラスの交通委員や交通局、先生方の力を借りて事故もなく無事に終えることができました。

このように交通の仕事は私一人ではできない仕事ばかりです。交通担当の山田先生・島名先生にはきちんとした指導をしていただき大変感謝しています。交通局の仕事はなかなか皆さんには気づかれにくい仕事ではありますが、少しでも私たちの仕事に気づいてくれればありがたいと思います。

今年度も残りわずかとなりましたが、しっかりと交通ルールを守り事故のないよう楽しい高専生活を送ってください。

文化祭を終えて

文化祭実行委員長
土木工学科 4 年 神田 貴久

僕は、2年生の頃から文化祭実行委員として活動していました。

先輩に誘われたのが実行委員になったきっかけでした。2年、3年と実行委員として活動して寝ることが出来ない日があったり、大変なこともありました。

3年の文化祭終了後に、何人かの候補の中から実行委員長をさせて頂くことになりました。当たり前のことですが、今までは、自分の部署の仕事しかしたことが無く、僕に実行委員や全校生徒をまとめることが出来るか不安でした。

今年は、例年と違った文化祭にするために僕の中で色々考えていました。正直、芸能人を呼ぶことも考えていましたが文化祭の予算だけでは少し難しいということで今年はあきらめました。どの仕事から進めていけばよいかわからず前任者の黒瀬さんに分らないことは聞きながら少しずつ進めていきました。

僕は、応援団もしていたので実行委員のみなさんにはいろいろと迷惑をかけてしまいました。そうこうしているうちに、10月も過ぎていき文化祭本番がすぐそこに来ていました。そこでまさかの問題が発生してしまいました。

季節はずれの台風接近です。誰かが10月に台風が来ることを予測していたのでしょうか。僕はまさかの雨男でもなく台風男だったのかと少し落ち込みました。

雨天の場合であれば文化祭は開催の予定で始めから進めていましたが、もちろん台風の場合は全然考えていませんでした。延期にする場合には、露店を開くクラスは文化祭当日に合わせて買う食材をどうするかが1番の問題でした。先生達とも何度も話し合い台風が来たら学校の渡り廊下で露店をする案も出ていました。しかし、思いが通じたのか文化祭の日が近づくにつれて台風がそれていきました。前日の準備のときには念のためにテントを立てなかったりしました。

大変なことも多かったですが、当日は晴天になりすぎて正直暑かったですが、何とか無事に文化祭を終えることが出来ました。実行委員や先生方のご協力が無かったら成功させることができませんでした。

皆さんが楽しいと思っていただけたなら、それだけで文化祭は大成功です！

最後に、高専祭の期間中は一生忘れることの出来ない時間でした。しかし、無難に文化祭を終わらせてしまったのが一番の心残りなので、来年は今までにない面白い文化祭を目指して欲しいと思います。

体育祭を終えて

体育祭実行委員長
土木工学科4年 下山 琢士

今年度の体育祭は、「早め早めに準備して、余裕を持って体育祭を迎える」、「みんなで仲良くする」の二つを目標に夏休みを返上して頑張ってきました。

後期がはじまると不安で寝むれない日が続いたり、体調を崩して保健室にお世話になったりしました。体育祭が近づくにつれて、仕事の量が急に増えバタバタしてしまう自分の計画性のなさを嫌というほど感じました。自分のせいでいろんな人に迷惑ばかりかけたと反省しています。また、今年の四年生はやんちゃな学生が多く、予想外のハプニングに対応出来なかった自分の無力さも感じました。反省しています。

体育祭を行うまでの道のりは、思っていたよりもはるかに険しかったです。いろんな相談に快く対応してくださった先生方や学生課の皆さん、不甲斐ない自分に何度も喝を入れて励ましてくれた北菌先生、頼りない自分に文句も言わずしっかり動いてくれた実行委員のみんなや適切なアドバイスをしてくれた浩樹さん、体育祭を成功させるために必死になってくれた応援団・櫓の幹部、応援団をしない自分に気を遣ってくれた4Cのみんな、いろんな人の支えがあったので最後までがんばれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

体育祭当日は、てるてる坊主を作ったかいがあり今年は晴れの中、大きなアクシデントもなく無事に終えることが出来ました。応援団が出来なかったけど自分にとって4年間で一番心に残った体育祭でした。他の4年生も一生の思い出になったじゃないかと思います。

実行委員長という大役は、苦しいことばかりで、正直何度も心が折れそうでしたが、今こうやって振り返ってみると、この一カ月は四年間で一番充実した一カ月だったと思います。実行委員長させてもらって学んだ経験を生かして2011年は就職活動をがんばろうと思います。



来年も晴れますように！

◎対都城高専との親善試合

第47回目の都城高専との親善試合を平成22年 5 月 8 日（土）に実施した。結果は次のとおり。

鹿児島高専会場

競 技 種 目	試 合 結 果												
サ ッ カ ー	第1試合	合	都	城	(3 - 4)	○	鹿	児	島				
	第2試合	合	都	城	(2 - 4)	○	鹿	児	島				
	第3試合	合	都	城	(0 - 3)	○	鹿	児	島				
	第4試合	合	都	城	(1 - 3)	○	鹿	児	島				
ハ ン ド ボ ー ル	第1試合	合	都	城	(13 - 16)	○	鹿	児	島				
	第2試合	合	○ 都	城	(15 - 7)		鹿	児	島				
	第3試合	合	都	城	(10 - 11)	○	鹿	児	島				
	第4試合	合	都	城	(12 - 14)	○	鹿	児	島				
	第5試合	合	都	城	(6 - 9)	○	鹿	児	島				
男子バスケッボール	第1試合	合	都	城	(31 - 44)	○	鹿	児	島				
	第2試合	合	都	城	(50 - 55)	○	鹿	児	島				
	第3試合	合	都	城	(68 - 85)	○	鹿	児	島				
	第4試合	合	都	城	(29 - 32)	○	鹿	児	島				
女子バスケッボール (中 止)	第1試合	合	都	城	(-)		鹿	児	島				
バ ド ミ ン ト ン	第1試合	合	○ 都	城	(2 - 1)		鹿	児	島				
	第2試合	合	○ 都	城	(3 - 0)		鹿	児	島				
	第3試合	合	○ 都	城	(3 - 0)		鹿	児	島				
ソフトテニス (男子)	第1試合	合	都	城 A	(0 - 3)	○	鹿	児	島 A				
	第2試合	合	都	城 B	(0 - 3)	○	鹿	児	島 B				
	第3試合	合	都	城 A	(0 - 3)	○	鹿	児	島 A				
	第4試合	合	都	城 B	(1 - 2)	○	鹿	児	島 B				
	◆ 個人戦 (男子)			1 位	濱園・竹下 (鹿児島)								
				2 位	小玉・平谷 (鹿児島)								
ソフトテニス (女子)				3 位	前田・島廻 (鹿児島)								
				3 位	森永・蘭田 (鹿児島)								
	第1試合	合	都	城	(0 - 3)	○	鹿	児	島				
	第2試合	合	都	城	(0 - 3)	○	鹿	児	島				
◆ 個人戦 (女子)				1 位	越智・今蘭 (鹿児島)								
				2 位	西田・國永 (鹿児島)								
剣 道	第1試合	合	○ 都	城	(6 - 3)		鹿	児	島				
	第2試合	合	○ 都	城	(1 - 2)	○	鹿	児	島				
	第3試合	合	○ 都	城	(3 - 2)		鹿	児	島				
	第4試合	合	○ 都	城	(3 - 0)		鹿	児	島				
	第5試合	合	○ 都	城	(2 - 1)		鹿	児	島				
水 泳	総 合 点		都	城	(120 - 326)	○	鹿	児	島				

都城高専会場

競技種目		試合		結果	
陸上	硬式野球	総合点	○ 都城	(196.25 - 124.75)	鹿児島
		第1試合	○ 都城	(6 - 5)	鹿児島
		第2試合	○ 都城	(0 - 2)	○ 鹿児島
	男子バレーボール	第1試合	○ 都城	(25 - 22)	鹿児島
		第2試合	○ 都城	(20 - 25)	○ 鹿児島
		第3試合	○ 都城	(25 - 13)	鹿児島
	女子バレーボール	第1試合	○ 都城	(25 - 17)	鹿児島
		第2試合	○ 都城	(25 - 9)	鹿児島
	卓球	◆ 団体戦			
		第1試合	都城	(1 - 2)	○ 鹿児島
		第2試合	都城	(1 - 2)	○ 鹿児島
		◆ 個人戦			
			1 位	松元拓磨(都城)	
			2 位	五反田浩志(鹿児島)	
			3 位	池江優佑(都城)	
			3 位	木村匠吾(都城)	
	テニス	◆ 男子団体戦			
		第1試合	都城 A	(0 - 3)	○ 鹿児島 A
		第2試合	○ 都城 B	(2 - 1)	鹿児島 B
		第3試合	○ 都城 C	(2 - 1)	鹿児島 C
	柔道	◆ 団体戦			
		第1試合	○ 都城	(4 - 0)	鹿児島
		第2試合	○ 都城	(4 - 1)	鹿児島
	弓道	◆ 男子団体戦			
		第1試合	都城	(23 - 28)	○ 鹿児島
		◆ 女子団体戦			
		第1試合	○ 都城	(20 - 16)	鹿児島
		◆ 男子個人戦			
			1 位	川元(鹿児島)	
			2 位	川辺(鹿児島)	
			3 位	田中(都城)	
		◆ 女子個人戦			
			1 位	上野(鹿児島)	
			2 位	黒原(都城)	
			3 位	福重(都城)	

◎第47回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会

種目	団 体 戦				個 人 戦		
	1位	2位	3位		1位	2位	3位
陸上競技	佐世保高専	有明高専	鹿児島高専		男子200m:大坪 純也	男子400m:加藤 壘	男子4×100mリレー: 江口・大坪・加藤・徳留
						男子走高跳:大園 晃平	男子4×400mリレー: 江口・加藤・松浦・田崎
ソフトテニス	鹿児島高専	北九州高専	大分高専		男子:濱園・竹下	男子:森永・島廻	男子:小玉・平谷
						女子:西田・今園	女子:越智・國永
バドミントン	有明高専	北九州高専	鹿児島高専	都城高専			
水泳	佐世保高専	久留米高専	熊本高専(八代)		男子800m自由形:西川 央哲	男子400m自由形:中村 彰	男子200m自由形:鮫島 佳
					男子200m背泳:西川 央哲	男子400m外リレー: 西川・草原・宮川・春田	男子100mバタ:宮川 大輝
					男子100m平泳:草原 大貴		
					男子400mリレー: 鮫島・西川・中村・春田		
ハンドボール	北九州高専	熊本高専(八代)	熊本高専(熊本)				
硬式野球	有明高専	熊本高専(八代)	北九州高専	大分高専			
バスケットボール(男子)	北九州高専	有明高専	久留米高専	沖縄高専			
バスケットボール(女子)	有明高専	沖縄高専	北九州高専				
卓球	有明高専	都城高専	鹿児島高専				男子ダブルス:宇治野・五反田
剣道	佐世保高専	熊本高専(八代)	鹿児島高専	久留米高専			
サッカー	鹿児島高専	大分高専	久留米高専	佐世保高専			
柔道	都城高専	北九州高専	熊本高専(熊本)				
バレーボール(男子)	佐世保高専	都城高専	鹿児島高専	久留米高専			
バレーボール(女子)	佐世保高専	有明高専	都城高専	久留米高専			
テニス(男子)	鹿児島高専	沖縄高専	佐世保高専	大分高専	男子シングルス:内門 大地 男子ダブルス:倉山・追立	男子シングルス:倉山 直晃 男子ダブルス:亀澤・内門	

◎ 第45回全国高等専門学校体育大会

(1) ソフトテニス

開催日:平成22年8月24日～25日

会 場:高岡スポーツコア高岡市テニスコート

結 果:団体戦 優勝

個人の部(男子) 準優勝

濱園・竹下組

個人の部(女子) 2回戦敗退

(2) サッカー

開催日:平成22年8月21日～24日

会 場:豊田市運動公園陸上競技場 外

結 果:準優勝

(3) テニス

開催日:平成22年8月20日～22日

会 場:石川県西部緑地公園テニスコート

結 果:団体戦 準優勝

個人戦男子シングルス 初戦敗退

個人戦男子ダブルス 2回戦敗退

(4) 水泳

開催日:平成22年8月22日

会 場:静岡県富士水泳場

結 果:リレー400m 準優勝

(西川、鮫島、中村、春田)

自由形800m 3位 西川

平泳ぎ100m 5位 草原

背泳ぎ200m 6位 西川

メドレーリレー400m 8位

(内山、小野、宮川、春田)

自由形200m 予選敗退

自由形400m 予選敗退

バタフライ100m 予選敗退

学校対抗 6位

(5) 陸上

開催日:平成22年8月11日～12日

会 場:富山県総合運動公園陸上競技場

結 果:200m 予選敗退

400m 予選敗退

走高跳 予選敗退

2. その他大会等受賞者一覧

大会名	学年・氏名	成績
高専ロボコン2010九州沖縄地区大会 高専ロボコン2010全国大会	メカトロニクス研究部	優勝
第43回九州沖縄地区国立高等専門学校英語 弁論大会	電気電子工学科3年 タムレ アヤ 高牟禮 綾	弁論部門 準優勝
第7回全国高等専門学校デザインコンペ ティション	土木工学専攻2年 オオタ トモヤ 大田 智也	環境デザイン部門 優秀賞
	土木工学専攻2年 バト ユウスケ 野元 雄介	
	土木工学専攻1年 ヒラハエ シコウ 平生 志康	
第21回廃棄物資源循環学会研究発表会	土木工学専攻2年 クロダ キョウヘイ 黒田 恭平	優秀ポスター賞
3次元デジタル設計造形コンテスト	機械工学科5年 イクノ コウヘイ 池野 昂平	優勝
	機械工学科5年 ダイバ シュンヤ 臺場 俊也	
	機械工学科5年 フクナガ リュウキ 福永 龍輝	
	機械工学科5年 マキ ヒロカズ 牧 博一	
かのや「ばら」と「海」フォトコンテスト 2010	機械・電子システム工学専攻1年 ショウフタニ ナオト 菖蒲谷 直人	チャレンジ部門 ばらの部入選
第19回かごしまフォト農美展	土木工学科4年 コバ ナグサ 木場 千草	入選
精密工学会九州支部第11回学生研究発表会	機械工学科5年 イデ ウエ タカヒロ 井手上 昂広	ベストプレゼンテーション賞
第4回国際マイクロメカニズムコンテスト	機械工学科5年 カンラザコ ケンタ 葛迫 健太	障害物走破マイクロメカニズム有線部門 自慢のマイクロメカニズム部門 特別賞
	電子制御工学科5年 ゴーターギア	自慢のマイクロメカニズム部門 特別賞
	機械工学科4年 サチト・メーヌカ	
	平成21年度電子制御工学科卒業 キヨヤマ サトル 清山 悟	
(社) 電子情報通信学会九州支部 第18回学生会講演会	機械・電子システム工学専攻2年 シタクボ リュウ 下窪 竜	学生会講演奨励賞

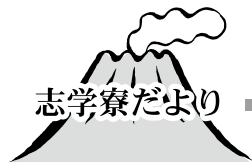
○特別賞

該 当 事 由	学年・氏名
東京大学大学院 新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 合格	電気情報システム工学専攻2年 トビサ ヨウヘイ 飛佐 洋平

大 会 名	学 年 ・ 氏 名	成 績
第 8 回読書感想文コンクール 読書感想文の部	情報工学科2年 ヒサトミ 久富 あすか	特選
	情報工学科3年 ニシオカ 千尋 西岡	入選
	土木工学科3年 カワモト ミチアキ 川元 通明	
	情報工学科5年 ナカオ シンイチロウ 中尾 真一郎	
	土木工学科1年 タケウチ ユウカ 竹内 優花	佳作
	電気電子工学科3年 カワジ コウダイ 河津 航大	
第 8 回読書感想文コンクール 小論文の部	電子制御工学科3年 イソグチ ユウタ 磯口 祐汰	特選
	電子制御工学科1年 フナクラ ショウタ 船倉 翔太	佳作
	機械工学科3年 アカギ リンヤ 赤木 凜也	
第 1 3 回校内英語暗唱大会	都市環境デザイン工学科 1 年 タカミ セイヤ 高見 誠也	優勝
	情報工学科 1 年 カワマタ ハルカ 川俣 悠香	準優勝
	都市環境デザイン工学科 1 年 ヒロタニ コウタ 広谷 洸多	3 位
	都市環境デザイン工学科 1 年 タケウチ ユウカ 竹内 優花	4 位
	情報工学科 1 年 ナカサコ セイヤ 中迫 聖也	5 位

3. 学習到達度試験成績優秀者一覧

	学 科	氏 名		学 科	氏 名
1	機械工学科	堤 亮太郎	9	電子制御工学科	小山 智樹
2	機械工学科	水元 瞬	10	電子制御工学科	ゴー フィ クー
3	電気電子工学科	今林 凌	11	情報工学科	東浜 将大
4	電気電子工学科	高牟禮 綾	12	情報工学科	井ノ上 大輝
5	電気電子工学科	田之上 博信	13	情報工学科	松元 拓也
6	電気電子工学科	宗像 純輝	14	土木工学科	岩下 将和
7	電子制御工学科	鮎川 秀平	15	土木工学科	上田橋 克
8	電子制御工学科	内村 聡克			



志学寮・雑感ファイナル

寮務主事 南金山 裕弘

早くも師走。後期も3ヶ月目が終わろうとしています。寮生の皆さんは残り2ヶ月の寮生活となりました。

インフルエンザ災厄は、まだ志学寮では出ていません。昨年の今頃は、学級閉鎖が連続して、遠隔地・離島出身の寮生の対応でバタバタしていたのですが、現在のところ、通学生1名の罹患報告があるのみです。このまま、無事に学年末を迎えたいものです。

前回、「高専だより」で報告したものに続き、施設関係では、学寮食堂のテーブル・椅子の更新、談話室等のTVの地デジ化対応、男子風呂場の改修など、今年度中に実行する予定です。また、トイレ汚水管については、取り敢えず、応急処置で対応していますが、改修工事をするので、現在、申請中です。このように、昨年度以来、いろいろと設備の更新や新設を行い、その金額は数千万円にもなります。学校全体でみても、かなりの割合です。それでもまだ、改修しなければならない箇所が多数あります。学寮設備の充実に向けて、これも関係各課のご尽力により実現するものです。寮生の皆さん、その気持ちに応えるべく、高専生としての品格を身に付けて下さい。これらの設備が、来年度、入寮してくる新入生にきれいな状態で受け継いでもらえるように大切に扱って下さい。

歳末、次年度の「入寮願」の用紙を希望者に配布しました。例年通りに、ペナルティポイントをもとに入寮の可否を審査します。一部、寮生会役員や班長など、ポイント数を緩和しますが、一般寮生については、あくまでもポイント数で可否を決定します。年度により、若干の違いはありますが、可否の境界線は0点です。つまり、ペナルティポイントが1点でもあれば、入寮することが出来ません。厳しいと思われる方も居られると思いますが、本志学寮は教育寮であり、上級生は1年生の模範となって高専生として必要なものを伝えてもらう大切な役目があるため、寮規則を守れない者は必要としていないのです。

私が初めて寮務主事補になったときに、当時の寮務主事の言われた言葉があります。「寮が良くなれば、学校が良くなる。」当時は、まだ専攻科がなく、1・2年生全寮制で、全校学生1000名に対して寮生は600余名。半数以上が志学寮で生活していたわけです。前述の言葉は、志学寮で低学年時にしっかりと指導することにより、学校そのものが良くなっていくとの考えから発せられた言

葉だと思います。私は、この言葉を旨に、寮務主事として寮生と向き合ってきました。その思いが、彼らに伝わっていれば良いのですが…

前回、「今年の新入生は、例年の学生とはまた違った感覚をもった世代のようだ」と書きましたが、それは当たっていたようで、昨年にはほとんど無かった喫煙や学外での万引きが頻発し、そのほとんどが1年生という状況です。事件が起こる度に、注意・指導するのですが、無くなるどころか増加しています。ただ、昨年度に多かった盗難は激減しました。高額な現金を持たないようにすること、金庫など鍵の掛かる場所で保管することなど、繰り返し指導した効果があったようです。もちろん、盗む者が悪いのですが、その犯人を見つけ出すことは困難です。特に、被害者が警察に届け出れば、その時点から学校側は何も出来なくなります。(持ち物検査をしたりすることは、操作妨害であると注意を受けています。)

平成22年度も、残りわずか。あと1回、学年末試験が残っています。これまで3回の定期試験前に、学寮チュートリアルを実施してきましたが、その参加者数はわずかで、誰も来ない日もあったくらいの状況でした。昨年度の学年末も惨憺たる状況で、ある寮生に聞くと、「再評価試験があるから、学年末試験の点数はどうでもいいんです。最後には単位が降って来る。」という言葉が返って来ました。果たして、今年度末には、どのような結果となるのでしょうか？

最後になりましたが、この3月をもって、私の寮務主事としての任期は終了します。この2年間、寮務主事補・委員の先生方、寮務係をはじめ学生課の皆さん、財務・施設関係の各係の皆さんには、本当にお世話になりました。寮生のためのご尽力、ありがとうございました。無事にこの任を終えることが出来そうです。

そして、昨年度・今年度の寮生会役員みんな、ありがとうございました。今の志学寮があるのは、諸先輩たちの想いを引き継いでいるみんなが居たからです。また、後輩たちに、その想いを伝えていって下さい。よろしくお願いします。

ではでは。

専攻科の近況

専攻科長 原田 治行

今回は、前回の高専便り63号で報告した後に、本校主催で開催された第4回国際工学研究集会（ISATE2010）で専攻科生に対して行われたPBL（Problem Based Learning）授業のワークショップ（研究集会、体験型講座）の状況と、4年生対象に専攻科の説明会を開催した様子について紹介します。

(1) PBL授業のワークショップの状況

昨年の9月28日から30日まで、ホテル京セラを主会場にして第4回国際工学研究集会が開催されました。最終日の30日に本校の専攻科棟2階の共用教室で専攻科生に対してPBL授業を行う手法を教員に紹介するワークショップが実施されました。受講した学生は、鹿児島高専と熊本高専の専攻科生17名です。講師は、リパブリック・ポリテクニクの教育発展センター長であるGlen O' Grady氏です。少し、リパブリック・ポリテクニクの紹介をします。2003年創立のシンガポールにある教育機関で、約1万3000名の学生が在籍しています。応用科学スクール、工学スクール、情報コミュニケーションスクール、分科技術スクール、スポーツ・健康・レジャースクール、ホスピタリティスクールの6つのスクールがあります。その他に、文化コミュニケーションセンター、コミュニケーション・情報デザインセンター、教育発展センター、革新起業センター、科学数学センターの4つのセンターがあります。

また、シンガポールには、リパブリックの他に、シンガポール、テマセクのポリテクニクがあります。2005年にシンガポールの前述の3つのポリテクニクと、九州・沖縄地区10高専は交流協定を締結し、活発な交流活動を実施しています。さらに、2009年には、国立高等専門学校機構はシンガポールの3つのポリテクニクと学術交流協定を締結しました。

話を本題に戻します。PBL（Problem Based Learning）は30年ほど前にカナダの医学系の大学で開発された学習法で「問題解決型授業」のことです。最近、欧米の大学で急速に普及しています。日本では、高専や大学が創造性やチームプロジェクト推進力の育成をねらい工学系の授業に取り入れています。

当日は、講師のGlen O' Grady氏が、まず、PBL授業と通常の講義との違いを、実例を示しながら説明をしました（写真1）。その後、課題を出し、学生は4つのグループに分かれて、講師からの幾つかの知識の提供や指

示に基づいて自主的にインターネットを使って分析し、各グループの案をまとめてプレゼンテーションをし、各グループ間で議論しました（写真2）。そして、最終的に、参加した教員と講師の間で意見交換が行われました。また、PBL授業は、すべて英語で行われたので、英語の内容が理解しにくい場合に備えて、熊本高専の英語担当の教員1名と、本校の英語科の坂元先生と塚崎先生が参加されました。



写真1. PBL授業と講義との違いを説明する様子



写真2. PBL授業を実施している様子

(2) 4年生対象の専攻科説明会の様子

説明会は、昨年と同様に、後期中間テスト期間に開催しました。機械・電子システム工学専攻については室屋専攻長が、電気情報システム工学専攻については今村専攻長が、土木工学専攻については堤専攻長が行いました。各学科からの参加者は、機械工学科8名、電子制御工学科12名、電気電子工学科8名、情報工学科7名、土木工学科3名、合計38名の参加がありました。

参加者の中には、専攻科入学希望者、大学編入学希望者、進学先を決めかねている学生、就職希望者や、就職

か進学か決めかねている学生がおり、質疑応答が行われて有意義なものとなりました。説明会の様子を写真3に示します。説明会の後、アンケートに答えてもらいましたので、主な内容を以下に紹介します。

まず、説明会を聞いた後の、気持ちを尋ねました。その結果を表1に示します。現在、20名の学生が専攻科に進学を希望していますが、まだ、13名の学生が進路について迷っているようです。

次に、教員からみて専攻科教育が魅力的と思う項目を5つあげて、その中から参加者が魅力的と思う項目を複数選んでもらいました。その結果を表2に示します。

一番多かったのが、③番の「学士の資格を取得するまでの費用が大学編入学するより大幅に安いこと」でした。次に、①番の「本科の教育の延長線上にある専攻科の教育」、④番の「特別研究を行うことで、研究能力や表現力およびコミュニケーション能力が身に付く」、⑤番の「大学院への進学のしやすさ」の順で、一番少なかったのが②番の「TOEICに関して英語力が身に付く」でした。

また、自由記述で、国立大学編入のほうが魅力的と思っている場合について、その理由を書いてももらいました。

一番多かった内容は、5年間同じ環境で勉強したので、新たな環境で勉強し、新たな交友関係を築き大学生活を送りたいというものでした。このことを一番大切に思っている人には、専攻科は魅力がないのかも知れませんが、スキルアップ（技術に関する知識、技術、経験、資格などを習得・取得する）や、キャリアアップ（スキルアップの結果、よい職業について、よい待遇につく）を一番に考えている人には、専攻科は魅力的と思います。専攻科に進学して、スキルアップしてキャリアアップにチャレンジしてみませんか。



写真3. 専攻科説明会の様子

表1. 今日の説明会を聞いて、今の気持ちを聞かせてください。

項目：今日の説明会を聞いて、今の気持ちを聞かせてください。	人数
①専攻科進学希望であったが、益々、専攻科に進学したくなった。	16
②大学に編入学希望であったが、益々、大学に編入学したくなった。	3
③大学に編入学希望であったが、専攻科に進学したくなった。	3
④専攻科進学希望であったが、大学に編入学したくなった。	0
⑤就職希望であったが、専攻科に進学したくなった。	1
⑥就職希望であったが、益々、就職したくなった。	0
⑦まだ、進路について迷っている。	13
⑧ その他	2
合計	38

表2. あなたが専攻科教育に対して魅力的と思っている内容を、下記の項目から選んでください。（複数選択可）

項目：あなたが専攻科教育に対して魅力的と思っている内容を、下記の項目から選んでください。（複数選択可）	人数
①多くの大学が、高専からの編入学生の数が少ないので、高専からの編入学生用のカリキュラムを用意していないところが多いが、専攻科は本科の実験実習を基にした教育の延長であり、専門をさらに深められるので、企業から高い評価を受けている。	21
②エンジニアとして企業が要求しているTOEICの点数は600点ぐらいである。専攻科の修了要件はTOEIC400点相当であるので、もう少し頑張れば、600点をクリアできる。	5
③大学編入学と比べて教育費が非常に安い。「学士」の資格を取得するまでには、大学編入学よりも約80万円安い。	31
④特別研究では、指導教員からマンツーマンで2年間指導を受けて、ひとりで論文をまとめて学会で発表することを義務付けられているので、表現力やコミュニケーション力がつく。大学では、4年生から1年間で卒業論文を書くが、複数で研究する場合が多く、また、ほとんどの大学で、学会での発表が義務づけられていない。	18
⑤国立大学の卒業生の約70～80%が大学院に進学する。自分の希望する研究室に入るためには、クラスの学生と競争しなければならないが、専攻科生のほとんどが推薦で大学院に入学している（東大、名古屋、九大、北陸先端、豊橋、長岡技術大等）。特に、専攻科生特別推薦枠があるので、希望する研究室に入りやすい。	14
⑥ その他(自由記述)	2

贈る言葉

機械・電子システム工学専攻長 室屋 光宏

卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今回初めての専攻科の担任（専攻長）として、皆さんとはおつきあいをしてきましたが、本科の担任とは勝手が違い迷惑を多々お掛けしたかもしれません。まずは、お詫び申し上げます。

さて、今回修了される皆さんは第10期生ということになります。そこで、1つの区切りとなる今回はあらためまして学習教育目標について考えてみたいと思います。これはどのような学生を育成していくのか目標として掲げるものですから、いずれもかなり壮大で抽象的な表現となっていますが、私なりに解釈した考えを述べてみます。

まず、「人類の未来と自然との共存を目指す技術者」についてです。これは教育目的の「環境に配慮したものづくりができる技術者育成」で冒頭に挙げられるように肝である「環境」に関わるものかと思いますが、とりあえずは日頃の生活や行動で意識できているでしょうか。省エネやゴミ分別など、常識的なことですから大丈夫だと思います。

次に「グローバルに活躍する技術者」です。最近の若者は海外へ赴任しながらないとか、海外への留学生が減少しているとの報道をよく見聞します。しかし、国内の少子高齢化や多国間との自由貿易への流れから、世界を見据えて仕事に取り組んでいくことは必至かと思われます。心構えはできたでしょうか。

3つめは「創造力豊かな開発型技術者」です。技術者として創造性を発揮していくことを求められることは多いかと思いますが、創造力が身に付いたかどうかは判断しづらいと思います。ただ、創造性を発揮するためには専門以外の幅広い知識や経験も必要かと思っています。学業以外でも有益な経験はできたでしょうか。

最後に「相手の立場に立ってものを考える技術者」です。技術の進歩は社会に利便性をもたらしますが、その反面として新たな問題も引き起こします。一部の者だけがその恩恵を享受し、対応できずに取り残される者が出てくることもしばしばです。特に弱い立場に立って考えられる技術者となって欲しいと思います。

以上、皆さんにとってはいわずもがなであったことばかりかもしれませんが、特に最後の目標に関しては人としての基本かと思っています。人に優しい技術者となって下さい。

皆さんの今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。

贈る言葉

電気情報システム工学専攻長 今村 成明

電気情報システム工学専攻の修了生の皆さん、修了おめでとうございます。また、保護者の皆様、ご子息の修了、心よりお祝い申し上げます。

本科1年生からの7年間、長いようで短く、あっという間だったと思います。また、専攻科に進学してからは、ほぼ研究漬けの毎日で、思うような研究結果が出ず悩んだこと、実験がうまくいって興奮したこと、それによって理不尽なことで叱られたこと、その他、様々な事があったかと思っています。専攻科修了後は、皆さん、就職、進学とそれぞれの道へ進むことになりますが、社会に出て、大学院へ行っても活躍してくれることを期待しています。

さて、先日、高校の同級生5人で会う機会がありました。20年ぶりぐらいに会う人もいて、とても懐かしく、楽しい一時を過ごしました（若干、飲み過ぎましたが…）。同級生の中に、高校時代は英語が苦手だった人がいたのですが、今では、英語、フランス語と3ヶ国語を話せるようになっており、数年前にフランスへも留学していたという話を聞き、大変驚きました。海外でも活躍している彼が、何かの拍子に「人間死んだら、骨と皮だけ。皆、一緒。」と言っていました。彼らしい豪快な言葉だなと思いますが、そのぐらいの気概で、知り合いがほとんどいない海外でも頑張っていたのだなと感心した次第です。

一般的に高専生は「英語が苦手」と言われていますが、皆さんは専攻科に入り、かなり英語に力を入れて勉強してきたと思います。皆さんなら、海外へ出ても頑張っていけると期待していますので、日本に留まらず、海外へどんどん進出して下さい。また、海外での仕事もそうですが、国内の仕事においても新しい土地で新しい仕事を任されることもあるかと思っています。その時は、「人間死んだら、骨と皮だけ。皆、一緒。」と環境の変化に委縮せず、頑張ってください。ただし、あまり頑張り過ぎると病にかかってしまいますので、無理のないように。

最後に、心と体の健康には気をつけ、また元気な姿を見せに来て下さい。

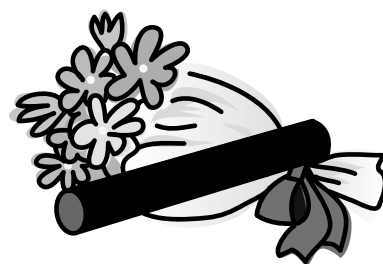
贈る言葉2011

土木工学専攻長 堤 隆

このたびは専攻科土木工学専攻のご修了おめでとうございます。本科から数えて7年間あるいは4年間の隼人での生活もいよいよ終わりを迎えます。学舎には楽しかった事、悲しかった事あるいは悔しかった事などそれぞれが思い出を刻んでいる事と思います。それらを通して培った心の豊かさあるいは強靱さのようなものは、授業や特別研究で学んだ知識や問題解決能力と同様に社会を生き抜く大きな力になります。自信と誇りを胸に社会に羽ばたいてください。

さて、この2年間、私は土木工学専攻長とともに国際交流委員というもう一つの顔を持っていました。特にISATE2010ではシンガポールや香港からのお客さんを迎え入れる仕事を担当していました。何度か顔を合わせるうちに彼らとも親しくなります。土木工学を専攻する私は我が国のコスト構造改革に代表される公共事業削減を愚痴ると、「Tack（私のハンドルネーム）、俺の国に来いよ。Construction（建設）の仕事ならいくらでもあるぞ！」。

かつては黒四ダムや太平洋ベルト地帯を結ぶ高速道路や高速鉄道など、巨大地震が頻発し軟弱地盤や脊梁山脈・海峡の多い我が国特有の事情を克服して高度経済成長の基盤を作った日本の土木技術。いまやネガティブキャンペーンとも思える世論のバッシングの前に先人の培った技術を継承する若者の数は少なくなってしまいました。しかし、今なお快適な社会作りのために我が国が蓄積した技術を求めている現場が海外にあります。やがて、皆さんに海外勤務の機会が到来したときは、皆さんの持つ技術をさらに磨いてその国の社会基盤整備に貢献して頂きたいと思います。国際的地位が低下しつつある我が国を再び世界のひのき舞台に押し上げるためにも、海外の人たちから感謝される仕事を大いに期待しています。



メンタルヘルスと成績

学生何でも相談室長 松田 信彦

学生の中には、高専に入学した当初は、それなりに良い成績を取っていたのに、気が付けば成績が落ちているというものがしばしばいます。当然、その中にはただ学業をサボって遊んでいた、何か他のこと（例えば部活など）に打ち込むあまり、学業がおろそかになったというものもいるでしょう。

しかし、実は成績が低下する原因のひとつに、メンタル面での問題があることがあります。本人は特に気が付いていない場合でも、目に見えないストレスなどが、知らず知らずのうちに勉強のやる気をそいでいる場合もあるのです。それを、「いや、自分はあまり勉強せずに、部活ばかりやっているから」とか、「ちょっとサボっただけで、また勉強すればすぐに追いつくはずだ」といって、自分の成績が下がったことに理由をつけ、その状況に納得しようとしてしまうことがあります。

しかし、よく考えてみてください。例えば熱心に部活をしていても、クラスでトップの成績を取っている学生もいます。遊んでいても、赤点を取らない程度に勉強している学生は多くいます。いろいろ理由をつけて、自分の成績が下がっていることに納得している学生の中には、ひょっとすると、メンタル面に問題があって、勉強に集中できないという人もいるかもしれません。

勉強しないといけないと分かっているのに、何故か勉強に手がつかない。明日提出しないといけないレポートがあるのに、ついゲームをしてしまう。いわゆる「逃避」（あるいは「先延ばし」）と呼ばれるこういった行動も、ストレスが原因であることが多いのです。もちろん、単なるストレスだけでなく、「うつ病」といった精神疾患や、「ADHD」などの発達障害の症状としても、そういうことがあるとされています。

いずれにせよ、勉強に身が入らない、勉強に興味を持てない、やらないといけないと分かっているのにできない、などの様々な状況で、学業がおろそかになり、成績が下がっている学生は、「ただ単に、なまけているだけ」とか「根性がない」とか、「能力が足りないから」といって、現状から目をそらすのではなく、一度、相談室に来てみてはどうでしょう。あるいはカウンセラーの先生に、お話だけでもしてはどうでしょう。ひょっとしたら、心の中のちょっとしたストレスが、カウンセリングを受けることで、すっかり取れてしまうかもしれません。それによって、また新たに学業に対する意欲が

湧いてくるかもしれません。

相談室には、あるいはカウンセリングには、何か深刻な悩みがないと来てはいけないということはないのです。ちょっと勉強でつまづいているなあ…これだけでも、十分に来る理由になるのです。そして、成績が泥沼にはまる前に、問題の芽を摘み取れば、赤点や留年という問題からも解放されるかもしれないのです。

ところで、2，3年生で実施しているクレペリン検査というものがあります。これは以前も、この高専だより（63号）で紹介いたしました。この結果は学生には、比較的簡単な結果シートが返却されますが、教員には細かな分析データが結果として渡されます。担任は学生指導にそれを活用する場合もあるのですが、最近、その結果を見て、ふと気づいたことがあります。この結果にはメンタルヘルスの観点から、配慮・やや配慮・良好と分類されて結果がでてきます。これは普段、私たち相談室のメンバーが学生たちと接していて、そういうことを感じたことのない学生でも、「配慮」となる学生もおります。そして、その「配慮」となっている学生で、実は成績面でもつまづいているケースが多いのです。もちろん、まったく成績的には問題のない学生もおりますので、絶対的なものではないのですが、メンタル面でのトラブルが成績にも影響を与える可能性を示唆しています。

これを読んでいる学生はもとより、教員や保護者の方々も、成績が下がったのは、ただ本人が怠けているだけだ…と決めつけずに、一度、相談室に相談してみてください。ストレスというのは、意外に本人は気づいていないものです。まして周囲の人は気がつきにくいものです。しかし、誰しも多かれ少なかれストレスを抱えているのも事実です。ちょっとした心のストレスを取り除くだけで、また勉強に対する意欲が出てくるかもしれません。

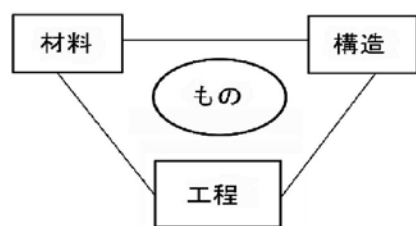
デザイン工房での研究活動

塚本 公秀

機械工学科棟改修工事のため学生会館2階の仮実験室から、実習工場南に実験室を割り当てていただきました。卒業研究と実験用ですが、専攻科生3名の研究・実験室となっています。本校のJABEEプログラムでも重要な学習目標となっておりますデザイン能力の開発のための教育教材の研究を行っているため“デザイン工房”と名付けました。全研究生に1台の専用パソコン（FEM解析用の64bit機が3台を含む6台）と共有の複合プリンター、レーザープリンター、研究室共有のファイルサーバーを置いております。

さて研究の一端を紹介致します。現在学生と取り組んでいるのはバイオリンの工学的解析です。一流奏者が使うことで有名なストラディバリやガルネリの製作したバイオリンは16世紀のものです。職人の手により伝統的芸術品としてその製造技術が受け継がれてきています。バイオリンは同じ木製弦楽器のギターやマンドリンに比べて楽器自体が小さいにもかかわらず大きい音が出ます。この謎にも近年工学的な解析がされて、発音のメカニズムが明らかになりつつあります。一方バイオリン自体も工業技術の進歩と共に電子楽器としてのエレクトリックバイオリンやアコースティックバイオリンなど様々な形態が開発されています。

私達の製造する“もの”は工学技術の観点から捉えら



と、材料から形をつくり組み合わせたものです。そのため材料や構造、加工方法が異なれば“もの”も違っ

たものになります。しかし“工程（加工方法）”による違いはなかなかわかりにくいのです。コピー商品のことを思い浮かべていただくと判りやすいと思います。伝統的芸術品のバイオリンも同じです。名工と言われる人が作ると弾きやすく素晴らしい音色がでるのです。価格は入門者用の数十万円からプロの演奏家用の数十万円までありますが、価格が妥当か素人はわかりにくいものです。

本研究室では、バイオリンに工学的な解析を行い、実験で検証しています。例えば、ギターやマンドリンなどとは構造が違って、バイオリンは25kgの張力で弦が張ら

れたまま保存されています。数mmの板でできたバイオリンに常時25kgの力が働いているのに400年以上壊れないのは不思議だと思いませんか。

情報技術の進歩で容易に使えるようになったFEM解析技術を応用してパソコンでシミュレーションしています。このように工学的な目で解析すると400年も前に完成した構造や形状が力学的に非常に強い構造をしていることが証明されます。改めて職人の技に感動しています。

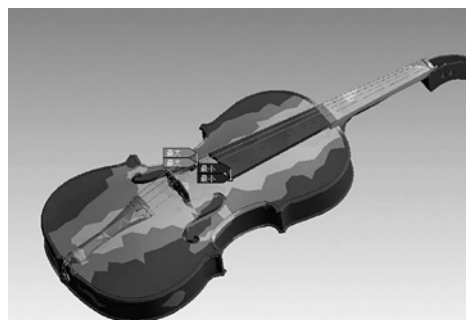
この他、実際に入手できる資料をもとに、実際にバイオリンを製作しながら資料からは得られないノウハウを発見してきました。良い音色の楽器と、そうでない音色の楽器ではどのような違いがあるのか。特に形状、材質の違いにより音色にどのような差が生じるのかを、製作した楽器の音色のFFT解析を行って検証しています。

ただバイオリンの評価は音色に限らず弾き易さ、ニスの色、木目など外観などさまざまな面で評価されています。このような主観が支配するバイオリンの総合的な評価を工学的評価で数値化することは非常に困難です。とくに音色の問題は個人差があり専門家でさえ評価が分かります。

高専は生産技術者の養成が目的ですので、“もの”の構造と加工方法を研究を通して解ってもらうことがデザイン能力養成の要と考えています。



デジタルモデル（コンピューター上のバイオリン）



バイオリンの内部の応力分布

桜島における土石流土砂を用いた コンクリートのアルカリシリカ反 応性とその抑制対策

都市環境デザイン工学科 池田 正利

南九州には、火山ガラスを基質とする火山岩や火山灰が骨材に含まれる場合がある。これらの骨材をコンクリート用の細骨材として用いた場合、アルカリシリカ反応を引き起こし異常膨張することがある。そこで、事前に骨材のアルカリシリカ反応性を確認し、適切なアルカリシリカ反応抑制を講じる必要がある。桜島の河川に流出した土石流土砂は、火山岩や火山灰を含み反応性の骨材とされ、これまでコンクリート用細骨材として用いられた事例はない。この土石流土砂に適切なアルカリシリカ反応抑制対策を講じることにより、土石流土砂は海砂の代替骨材として有望な資源と考えられる。

本研究は、アルカリシリカ反応に関する従来の研究を概観するとともに、桜島の河川に流出した土石流土砂をコンクリート用細骨材として用いる上での課題および反応性を有する骨材に対する適切なアルカリシリカ反応抑制対策を講じることが本研究の目的とする。

本研究では、土石流土砂を用いたコンクリートは、海砂を用いたコンクリートに比べて単位水量や単位セメント量を低減できることや火山性骨材特有の骨材中に含まれる軽石の量によるフレッシュコンクリートの性状に及ぼす影響を確認した。また、硬化コンクリートの強度と軽石の含有量との関係を明らかにした。

土石流土砂のアルカリシリカ反応性は、 Sc/Rc 比が3.8と反応効率が大きい骨材である。そこで、アルカリ量のシキイ値、他骨材とのベシマム混合割合、骨材の微粒分(0.15mm以下)がアルカリシリカ反応に及ぼす影響について検討を行った。

次に、土石流土砂のアルカリシリカ反応抑制効果の検証では、普通ポルトランドセメントを使用した土石流土砂は、鋼材の腐食発生限界とされる $1.2\text{kg}/\text{m}^3$ を添加してもコンクリートの膨張率は小さいこと、外部から浸透する塩化物やコンクリートに内在する塩分と膨張率の関係を促進試験で行ったところ、高炉セメントB種(高炉スラグ50%以上)を使用すれば、アルカリシリカ反応による膨張を抑制できることが分かった。

これより、桜島の河川に流出した土石流土砂をコンクリート用細骨材として用いることは十分可能であるとの結論が得られた。

画像認識研究のご案内

電子制御工学科 福添 孝明

私は大学院で「親和的情報空間における人物認識の研究」というテーマで博士論文を執筆し学位を取得した。親和的情報空間とは、渡邊睦教授が提唱する概念で「空間に画像認識装置を設置し、その状況を自発的に理解し、人間に適切なサービスを行なう。」ものである。この構成要素として、人物の追跡・同定・内部状態推測を主として研究を行なった。

人物同定を行なうには固有の特徴が必要である。一般的に顔画像などを用いて識別する事が多いが、カメラに対する向きによっては取得できない場面がある。私は身体形状や空間的習慣性など常時取得可能な特徴群を、統計的手法を用いて人物同定する方式を提案した。画像とは2次元平面上の濃淡集合であるが、人間はその集合から意味を抽出することが可能である。しかし、どうやって抽出するのか？ということを見ると意外と難しい問題であり、人間の思考力の柔軟性を再認識することが多い。

本校に着任してから、新たに取り組む長期研究テーマを模索していたが、これまでの研究と趣味を生かし、低高度航空撮影技術の研究を始めることにした。スローガンは「素人でも視野は鳥になれる」とし、鹿児島空港を備える霧島市の麓にて、自作航空機が自由に舞う日を目指して研究に取り組みたい。



上昇するしかない高専制度 「気骨ある卒業生たち」続々編

元ドイツ語担当教官 政所 利忠

土木工学科第六回生・上潟口 徳次郎 氏

現在、ベトナムのハノイでインフラ整備、国づくりを手伝っている。過去30年に亘って開発途上国の都市計画、上下水道、医療、看護制度などの生活基盤づくりをそれぞれの国情に応じて指導してきた。現在までにイラク、ナイジェリア、オーストリア、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ラオス、バヌア、アフガニスタン、ベトナムなどに駐在、国際協力機構（JICA）に派遣されて、あるいは日本の企業を代表して、あるいは世界保健機構（WHO）と協力してインフラ整備に当たってきた。とりわけ看護制度の組織化、エイズ対策プロジェクトづくりには重点を置いて長い期間を費やした。

高専在学中の彼の勉学は途方もなくゆったりとしていた。寮生活でものんびり、悠々せまらず。三年時に朝の出席点呼の時間がきても登校して来ていない。担任の筆者が寮まで走って行ってみるとベッドにまだ寝ていた。

「徳次郎君おはよう！起きろよ」。寝たまま黙って筆者をにらみ上げている。「おはよう、起きるか」。でも返事もせず、にこりともせず横になったままなので「みんなが待っているぞ」といって筆者は教室へ戻った。

両親がまことにおおらかだった。父兄懇談会時の父親に筆者が「徳次郎君はもうちょっと意欲を出して欲しい」と懇談を始めると、破顔一笑して「兄ほどやる気がないのでしょかね…」とおうようそのもの。兄の耕太郎君は同じ土木工学科の一級上で、父親は全学の後援会長だった。母親が父兄懇談に出席すると父親以上に屈託なく「オッホー…」と笑顔に終始した。担任の筆者も優・良・可の成績など気にしなくなり気楽になれた。

五年生になってクラスメートたちが企業の採用試験を受け始めた頃になって担任の筆者に「僕も勉強する」と言う。兄の耕太郎君は一年前に五洋建設に就職していた。あきれた筆者が「今頃になってどうしようと言うのかい」とたずねると「アメリカのカンザス州立大学に編入する。編入試験の為の成績証明や在学証明を英文で創って欲しい」。英語科主任の唐牛教授に作成して頂いた。

カンザスからの便りも相変わらず、のんびり、悠々せまらず。講義を聞き取るのに苦労していると伝えてきた。筆者はその後、文部省派遣の在外研究のためドイ

ツ・オルデンブルク大学に滞在し、二人はお互いに海外体験を交換し合った。三年でカンザス大を卒業した彼は帰国して藤田工業に就職、中近東からヨーロッパへ横断する国際・自動車高速道路建設プロジェクト担当としてイラクに派遣された。さらに二、三年経つと彼から「外務省の国際公務員試験（Junior Professional Officer／Associate Expert）に合格した。今はオーストリアのウィーンで国際保健機構（WHO）と連携した低開発諸国の医療組織整備を中心とする生活基盤づくり、インフラ整備に当たる準備をしている。高専で学んだドイツ語が役立っている」と連絡をもらった。

その後の彼は30年以上に亘る職業人としてのキャリアを海外で過ごしている。その活躍はめざましい。低開発諸国十余の国々に駐在、職種も土木技師、国連機関職員、合弁会社社員、国際協力機構（JICA）と提携した技術協力プロジェクト・コーディネーターとして広範な活躍をしてきている。

具体例をあげる。医療や看護の質が低かったラオスでは医療・看護教育を強化改善する必要があった。その基盤となる法律や規則もなく、医療・看護教育研修の内容も不備だった。彼は主として看護業務の基盤づくりを手伝った。

基盤づくりは日本とタイの法律や規則を拠るべき基準にした。医療・看護師業務は世界的に共通するところが多い。例えば先進国ほとんどに看護師協会があり、それぞれ看護の質の改善と普及の活動を展開していることから情報は容易に入手できた。でも作業は手間と時間を必要とした。規則案を日本語で作成し、それを英訳し、さらに現地の言葉に翻訳し、環境に合った規則にしていくなのだが、言葉が一番の障害であった。タイの言葉は語彙が少なく、一つの用語を表現するのに複数の単語を連ねて造語するなど工夫が必要であった。国際的な仕事をするには英語能力は必須であった。

当時のラオスでは全ての分野で法律や規則の整備が必要であった。以上のように携わってきた仕事はエンジニアリングを超える領域に亘っているが、彼自身はエンジニアリングの延長と思っている。技能・技術は常に発展的に進歩せざるを得ない。彼が携わってきた仕事は広範な意味のエンジニアリングが基礎となっている。

フィリピンでは保健省に対してHIVを含む性感染症（エイズなど）の診断技術の移転と感染予防活動の協力を行なった。エイズはHIVウイルスに感染し、免疫力が落ちてさまざまな感染症に罹り死に至る病気であるが、フィリピンには他の性感染症もあった。診断技術の移転には、厚生省の研究機関、日本の大学、製薬会社の

研究者が現地に派遣されて携わり、感染予防には、国際医療とH I V／エイズに当たる保健所の医師、教材・ビデオなどの製作を専門とする技術者たちが当たった。彼の役割はこれら全体の運営管理と調整であった。同じ分野で活動するアメリカ、オーストラリア、国際保健機構（W H O）との連携にも当たり、在マニラ日本大使館が実施する草の根資金協力の資金をエイズ対策分野で活動する現地のN G Oが得られるように協力も行なった。

寮制度の伴う高専五年間を振り出しにした過去30年を振り返ると携わってきたエンジニアリングとは彼にとって何だったのだろうか。イラクでの国際道路建設は確かにcivil engineeringであり、Hochbau&Tiefbau（地上・地下への建築物構築）であった。医療・看護業務整備やエイズ対策業務はエンジニアリングの領域を超えているようにも思えるが、技術・技能領域のインフラ整備である。領域を区分する明確な境界はない。人々の生きる術を整備・改良するインフラ整備は広い意味のエンジニアリングであるといしか言いようがない。

高専卒業直前のホーム・ルームのクラス検討会で「エンジニア（Engineer, Ingenieur）とは工学の領域のみならず、人生全般に亘って独創・創造の能力を養い、自己の生きてゆく道を切り開ける人」と結論づけたことを思い出す。卒業式で全学を代表して同じクラスの吉福 司君（現在、日建建設）が答辞を読んだが、彼もこの結論を援用して「エンジニアとは…」と述べたのであった。

開発途上国では経済が拡大し、国が発展している最中で景気がよく、活気があり、熱気さえ肌で感ずる。それぞれの国の社会、習慣、言葉、食べ物、家族、人間関係、物の考え方、等々を知るのには興味深い。それをできる環境にいるのは楽しい。一方、国際的な仕事の相手、職場のスタッフ、駐在する地域の人々を理解してゆく過程は楽しいことばかりではない。しかしこのような環境での仕事は今後の日本国が生きてゆく上にとっては重要度が増すばかりと思う。次は近隣のビルマ、カンボディアへ行ってみたい。

機械工学科第二回生・里中 忍氏

熊本大学工学部長を務める里中氏は高専発足の初期の典型的に理想的な学生の一人であった。開聞中学を最上位で卒業し、高専入学後も常にクラスの最上位を占めていた。学生全員が積極的に学び、礼儀正しく、素直に寮生活を楽しんだが、彼も申し分のない優秀な学生であった。

卒業すると教官たちからつよく就職を勧められたが、

勉学の世界でもっとチャレンジしたくなり、鹿児島高専からの大学編入学者第一号となった。当時は大学編入の試験に関する情報はなく、試験内容の予想もできなかったが、特別な準備もせず熊本大学生産機械工学科に編入できた。同大学を卒業して、さらに大阪大学大学院・工学研究科修士課程・機械工学専攻に入学、修了と同時に株式会社・日立造船に入社、入社三ヶ月で大きなプロジェクトに参加、ごみ焼却炉での発電設備熱計算を担当、社内の技術者間の連携も経験し、貴重な体験を得た。三たび勉学・研究へのチャレンジ精神やみがたく、大阪大学大学院・工学研究科博士課程・機械工学専攻に入学。多くの文学書も読み、南アルプスにも登った。修了して博士号取得、熊本大学助手、助教授、教授。

大学の役職としては学科長、工学部教務委員長、工学部副学部長、熊本大学知的財産審査委員会委員長、熊本大学イノベーション推進機構副機構長など歴任、平成22年11月から同大学工学部長に選出され、工学部のみならず大学全体の教育、研究、社会貢献などを中心とする運営に当たり、如何に学生、教職員が元気になるかを考えている。

現在に至るまでの三十年間の専門分野は博士課程修了までは切削加工、熊本大学教官となつてからは溶接・接合、超音波や赤外線を利用した非破壊検査を領域とした。専門を変えたことが思考方法を幅広く豊かにし、さまざまなチャレンジができた。信頼される論文作成を心掛け、研究者として信用されていると自負している。

学生に対しては、成績（優、良、可）や単位数より、「本質を理解することが重要だ、成績の良い学生より、頭のいい学生を目指せ」と語りかけている。

国際会議には約20ヶ国30ほどの都市で参加、同会議の実行委員や司会も複数経験。ブタペスト市民とは英語が通じず、ドイツ語が役立った。国際溶接学会（I I W）ではCommission-3の日本側Delegateとして活躍した。1998年に文部省在外研究委員としてオハイオ州立大学に客員教授の身分で10ヶ月滞在、多くの研究者と知り合い、現在も交流が続いている。

所属学会：日本溶接会議（理事、第3委員会委員長）、溶接学会（評議員、軽構造接合加工研究委員会委員長、九州支部商議員・支部長）、日本非破壊検査協会評議員、自動車技術会九州支部理事、熊本県溶接協会顧問、熊本県溶接技術競技大会審査委員長。

著書：溶接接合便覧（岩波）、機械製法Ⅱ（朝倉書店）工学倫理（理工学社、九州工学教育協会賞受賞）、異材接合の力学Ⅱ（産報）[いずれも分担による共著]、その他。

土木工学科 第六回生・木原 正人氏

卒業と同時に千代田化工に入社、十七年間の殆どをサウジアラビアで石油精製プラント建設に携わった。この領域で千代田化工は世界のトップをゆく企業であり、社員は選り抜かれた頭脳集団であった。同期に採用された四人の出身はそれぞれ鹿児島高専、京都大学、埼玉大学、日本大学出身・米国留学帰国生であった。仕事内容は四人全く対等の扱いであった。サウジアラビアでは千代田化工がプラントを一括して引き受けて企画・設計という中心的頭脳部分を担当し、現場の実際の工事はレバノンや日本のゼネコンが引き受けていた。彼は外構部分と付帯設備を担当し、まず等質・均一な砂粒からなる砂漠の地盤調査・改良を行なったのち、現場の工事を行なう下請け業者の指導に当たった。プラント設備の外構（外まわり）や付帯設備とはいえ、高専で習得した土質や建築の知識を実際に生かして設備を構築して行けるのは楽しく面白かった。必要に応じて一級建築士の資格も取った。

バブル景気が盛りを過ぎ、下降期に差しかかると頭脳集団である千代田化工社員には頭脳と技能の蓄積を買われて投資会社や証券会社から誘いの手が伸びるようになった。景気上昇期にはプラント建設などのように設備建設や製造を行なう企業は業績が著しく増加するが、景気後退期になると仕事量は減る。

そのような時期に彼のチャレンジ精神が芽生えた。かねて期するところがあって会社を辞し、帰国、夫人の出身地の北九州で不動産鑑定士の試験を受験、合格した。年に一回実施される同試験は合格率は現在でも約8%という厳しいものだが、高専で習得した基礎知識、千代田化工で獲得した地質や土地とその評価に関する知識、一級建築士としての技能などが役立ち、一次の短答式試験と二次の論文式試験を通過し、合格できた。鹿児島高専卒では一期生の前田豊氏（前田総合鑑定所・所長、始良町）に次いで二人目の合格者だった。現在、北九州市八幡西区に「不動産鑑定士事務所／一級建築士事務所・オフィス21」を開き、その所長である。土地とその組成についての評価、土地に建物を構築した後の評価、それらに関する行政や法律の知識などを生かしての仕事だが、行政官庁や公共事業などから依頼される規模の大きい仕事にやりがいを感じている。

彼の子どもは二人とも北九州高専に通っている。長男は物質化学工学科の三年生、長女は電子制御工学科一年生だ。二人とも専攻科に進む予定。全国の高専では兄弟二人、三人と揃って入学している例、さらに親子二代続けて入学する例が目立つ。本稿で取り上げた例でも森山

兄弟（土木第三回生・森山克美氏、九州共立大学教授。土木第六回生・森山正実氏、日本下水道事業団）や上潟口兄弟（土木第五回生・上潟口耕太郎氏、五洋建設。土木六回生・上潟口徳次郎氏、国際協力事業団、ハノイ）がある。北九州高専でも兄弟組や親子二代組が目立っている。大学卒業者の就職率が極端に落ち込んでいるのに対し鹿児島高専や北九州高専の卒業生たちの場合は先輩たちが活躍の実績を示している企業から引く手あまた、就活の悩みはない。先輩たちが企業で実績を上げている原因の一つを彼は次のように分析している。大学工学部卒生の場合、二年生までは基礎的勉強に励むことができるが、三年生になると就活に忙しくなり、落ち着いて勉強できないのではないかと。それに比べて、高専の場合、五年生制度で実習時間も豊かにあり、まじめに取り組みさえすれば基礎的勉強ができ、エンジニアとしての基盤づくりができる。さらに高専の寮制度の中で学生たちは三年間ないしは五年間も「同じ釜の飯を食う」同胞として助け合い、卒業後に遠距離電話がかかってくるのも最初の「もしもし」の一声を聞いて瞬時に相手が誰であるか直感できるほど親しくなっていく。企業に入っても同胞の後輩たちが後に続いて同じ企業に入社できるよう責任感も手伝って実績を挙げる。

終章（上昇的改革）

卒業生たちの活躍状況14人分を「退職教員だより」として連続四回に亘って掲載させて頂いた。彼等の飛躍的活躍の例を数え上げればキリがない。前編で前置きしたように、この報告はドイツ語担当教師であった筆者が後期高齢者となった現在も交流できている卒業生たちの活躍状況を取り上げた。鹿児島高専卒業生全体という視点からは客観的に正当な統計資料に基づくものでない。偶然性に基づく資料で公平さを欠く。

取り上げた卒業生たちは卒業の前・後に長期の冒険的世界放浪を行なった、他校へ転・編入した、転職を繰り返した…等々で、高専制度設立の主旨にそった高専卒業生の主流の活躍とは異なっている。彼等自身にはそのような非主流あるいは傍系としての強い遠慮がある。

それにもかかわらず、彼等は高専育ち固有のエンジニアの姿勢を備えている。高専卒業生として主流・本流の道を進み、言わば、ホーム・グラウンド（home grounds）で活躍している卒業生たちに比して、彼等は

アウェイ（away）で戦っている、と言えよう。しかし、彼等にはアウェイで戦ってきたからこそ、主流の一本道を突き進むのとは違った複眼的視座で得た視野が開けている。

その彼等が母校に強い思いを抱いている。母校が本来すでに備えている実力、能力を認識し、高等教育機関として制度的に上昇の道を突き進んで欲しい、ということである。それは必ずしも大学化を目標としているわけではない。大学（University）は中世時代からの歴史の経緯と伝統を持っており、その目標は Philosophieren（哲学的に考察・探求する）であり、真理を探求することに重点が置かれる。高専は大学の特化したもので、その目標はエンジニア（Engineer、Ingenieur）の養成とエンジニアリング（工学、技術、Engineering、Ingeniositaet）の追求にあり、近代以降に生まれた概念である。現代の表現に換言すれば、技術者としての創造・独創の能力を養い、人生に自立的姿勢で立ち向かえる人を養成することにある（この部分は本稿・後編の〔検証をおわって〕を参照）。エンジニアリングという表現に代表される技術や工学は時代と共に進歩する。従って高専制度も時代の転換と共に発展的に進化するべきであり、歴史の経過もそれを示している。（注1を参照）

本稿の後編で取り上げた田中純一氏はドイツの高専（日本とほぼ同じ時期に設立されたFachhochschule。注1を参照）の殆どが上昇的に大学（Hochschule）に編成されてきた事情を挙げて「母校もその上昇への努力をしてよいはず。エンジニアとして企業界に生きるということは専門領域で世界のトップ・レベルの競争に組み入れられるということだ。将来の卒業生は「エンジニアリングの能力+国際市場に通用する語学力」の基礎能力を備えて卒業すべきである。母校ならそれができる。エンジニアとして企業人になったら、数年間でエンジニアリング界の専門英語のみならず産業界の英語とか、特許申請手続き等の英語もできなければならない。

換言すれば、英語教育は外国語教育という考えに立つよりも、母国語に次ぐ必須の国際語と考えるべき。TOEICの能力達成はもちろん、少なくとも英語の授業は直接法で実施すべきである。母校の教官陣なら直ぐにでも実行できる。例えば直接法の一つであるTPR・Method（Total Physical Response Method）なら中学生にでも導入できるし、古くから実施されている。我が国のかなりの大学が外国語を直接法で、専門学科も英語で教えている。卒業生たちは第一線に立てるエンジニアを志すなら卒業後数年でエンジニアリング界のビジネス英語を使いこなす必要に迫られるのだ」と思いを述べる。彼はドイツやスイスの重電気メーカーの東京工場代表であった時、首都圏の幾つかの大学で、企業側を代表し工学系学生に講義や講演を行っており、静岡理工科大学（静岡

県袋井市）の大学院設立委員のメンバーも務めた。現在の彼はペルツァー（Pelzer、革製品等の車両装備品を作る国際企業）という企業でドイツ本社の幹部要職にあるが、それ以前、スイスやドイツの重電機メーカーの東京支社長を兼ねて務めた。国際企業間コンサルタントを目指す彼が転職前に自分の後任を探すのにニューヨークやロンドンの人材市場にまで手を伸ばして探したが、日本人でエンジニアリングの国際マーケットに通じ、専門領域の英語とドイツ語を使いこなせる人物を見つけだせなかった。それほど専門職能力と国際的に通用する語学力を持つ人材は払底している。それゆえ彼は日本のエンジニアの語学力強化を主張する。

現在、宮崎国際大学・学長で機械工学科・第一回生の隈元政行氏（本稿の後編に掲載）はかつて宮崎県高等学校の教師として一年生から三年生までの英語の授業をすべて直接法で行ない、一つのクラス全員を国立大学に合格させるという偉業を成し遂げた。パルテック社長で電気工学科第三回生の高橋忠仁氏（本稿の前編に掲載）は社員160人のうちの10%以上を世界十カ国の外国人から採用している。土木工学科第二回生・前田良刀氏（本稿の続編に掲載）は九州共立大学工学部大学院設立企画委員を務めながらBritish Columbia大学客員教授でもあった。土木工学科第六回生の上潟口徳次郎氏はベトナムのハノイで国際協力機構（JICA）に派遣されてインフラ整備を手伝っている。日本の企業の数社は社用語を英語にしている。以上のようにエンジニアには語学力、少なくとも英語力は必須である。

彼等の母校への思いを整理すると、独立行政法人となった鹿児島高専が高等教育機関として制度的に上昇することである。大学設置基準に従わざるを得ないかも知れないが、数年間をかけて学生全員の英語能力を充実させるだけでもそれは可能なはず、と願っている。

〔注1〕 国によって異なるがドイツでも技術や工学の中身が進歩するに伴って必然的に1800年代後半から1900年代前半にかけてPolytechnikum（高等工業学校）であったものが1960年代にFachhochschule（高等専門学校、あるいは専門大学）に発展し、さらに1990年代にHochschule（大学）へと編成された。



退職のご挨拶

一般教育科理系 藤崎 恒晏

大阪万博が開かれた昭和45年（1970年）4月1日に数学教員として本校に採用され、この3月31日で定年退職を迎えることになりました。教員のスタートは、大学4年のときの鹿児島市立鹿児島商業高校の非常勤講師でした。1年生のクラスに、数学を週当たり5時間授業しました。大学時代に、非常勤講師として数学を教える機会に恵まれたことは貴重な体験でした。当時の鹿児島商業高校の諸先生方から、教師としての心構えを多く学ばせていただきました。また、新米教師の授業にもかかわらず、生徒たちは数学を真剣に学んでくれたことに深く感謝しています。鹿児島商業高校の非常勤講師と本校の勤務年数を加えると教職生活は42年間となります。

本校では、1年生から3年生までの数学を主に担当しました。高専の数学教材は多岐にわたっており、授業の準備で学生時代の勉強不足を大いに痛感いたしました。数学と応用数学で取り扱う教材は、基礎数学、線形代数、微積分学、微分方程式、統計学、複素関数、ラプラス変換、フーリエ解析などです。高校の数学レベルから大学の2、3年で履修する教材もあり、なかなか満足できる授業はできませんでした。本校の学生は、非常に優秀で勉学意欲も高く、楽しく授業ができました。授業以外にも担任の仕事、校務分担、クラブ活動の顧問、学生寮の宿日直などありました。さらに、教員として教育指導や学生指導のほかには研究活動もありますが、浅学非才ため、すべてを完璧にこなすことはできませんでした。

教職員を始め、保護者の皆様からの暖かいご支援のお陰で、41年間を無事に過ごすことができましたことを心から感謝いたしております。

最後に、鹿児島高専のますますの発展と教職員各位のご多幸とご健勝を祈念いたします。

本当に有難うございました。

退職のご挨拶

都市環境デザイン工学科 内谷 保

この度、平成23年3月31日付けをもちまして定年退職を迎えることになりました。昭和53年10月に本校へ赴任して以来、30数年がたちました。この間16回もの担任を受け持つことができ、学生とのコミュニケーションとスキップを心掛けて来ましたが、私なりにはほぼ実践できたのではないかと満足しているとともに、本当に楽しい教員生活を送ることができました。ただ、担任としての責任を十分果たせたかどうか、学生にとって信頼できる担任であったかどうかは、彼等の心の中に期待したいと願っています。

今回、無事に定年退職を迎えることができることに對し、教職員をはじめ卒業生及び在校生諸君に感謝と御礼を申し上げますとともに、鹿児島高専が今後も益々発展することを祈念して、退職のご挨拶とさせていただきます。

退職のご挨拶

総務課 小田原 正享

私の社会人（公務員）としての一步は昭和45年5月に九州芸術工科大学（現九州大学芸術工学部）に採用されたことから始まりました。

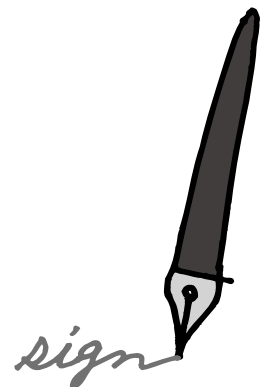
その後、縁あって昭和51年10月に鹿児島高専に転任しました。途中、人事交流で鹿児島大学へ3年間転出しましたが、鹿児島高専では約30年、庶務系、会計系、学生系とほとんどの課・係で仕事をさせていただきました。このように3機関で約40年、健康で大過なく仕事をさせていただきましたのは、適切な指導・助言をいただいた多くの良き上司・先輩、困っているときに助け支えてくれた同僚・後輩のお陰だと思っており、この紙面をお借りして皆様に感謝したいと思います。また、丈夫に生んで育ててくれた親と長い間バックアップしてくれた妻のお陰かなと思っています。

鹿児島高専に赴任した昭和51年は、機械工学科2学級、電気工学科1学級、土木工学科1学級と現在のように情報工学科、電子制御工学科、専攻科はありませんでした。もちろん建物也没有。また、厚生会館、普通教室棟もなく広い敷地にゆったりと建物が建てられており、校内が非常に綺麗に整備されていました。

その後、仕事を進める中で教職員が非常に仲が良く仕事がスムーズに運んだことが思い出されます。当時は3課（庶務課、会計課、学生課）あり、事務部が管理棟1、2階にまとまっていたこともありました。仕事といえば、文書の作成は手書き、印刷はガリ版での印刷、計算是算盤と今では考えられない作業を行っていました。その後数年で文書作成はワープロからパソコン、印刷は輪転機、複写機、計算是電卓と急激に進化し、事務の簡素化・効率化は目に見張るものがありました。

国の時代は刻がゆったりと流れていたような感覚でしたが、平成16年度に国立学校が法人化され高専機構として動き出した時から新しい仕組みの中で急速に変革が求められ、これまで以上の創意工夫が必要になりました。このことから、教職員は色々な仕事に取り組んでいます。個々の負担が非常に多くなっています。無理をして健康を害することになっては元も子もありません。セーブを掛けることも大事かと思います。どうぞ健康には留意され頑張ってくださいと思います。

最後に皆様のこれまでのご厚情に感謝申し上げ、今後のご健勝とご多幸、併せて鹿児島工業高等専門学校の益々のご発展をお祈り申し上げ退職のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



平成21年度永年勤続表彰 (退職時) について

永年勤続表彰は、退職の日において、在職期間が30年以上の方を表彰するものです。平成21年度永年勤続表彰式については、平成22年3月31日（水）に校長室で行われました。表彰者は次の2名の方です。

所 属	氏 名
一般教科理系	山崎 亨 教授
事務 部	上原 今朝生 事務部長



平成22年度教育功労者表彰について

この教育功労者は、本校の教育、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた方を表彰するものです。

教育功労者選考委員会委員及び各学科等の長から推薦のあった方について、平成22年8月9日（月）に教育功労者選考委員会を開催し、選考の結果、次の6名の方が平成22年度教育功労者に決定しました。この表彰式が、平成22年10月8日（金）に校長室で行われ、それぞれに表彰状及び記念品が授与されました。

所 属	氏 名
一般教科文系	松 田 忠 大 准教授
機 械 工 学 科	三 角 利 之 教 授
機 械 工 学 科	椎 保 幸 准教授
電気電子工学科	加治屋 徹 実 教 授
電子制御工学科	岸 田 一 也 准教授
ソフトテニス部外部コーチ	石 田 興 一 氏

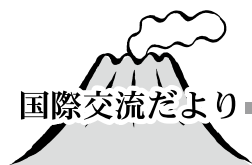


平成22年度永年勤続表彰について

永年勤続表彰は、勤労感謝の日において、在職期間が20年以上の方を表彰するものです。平成22年度永年勤続表彰式については、平成22年11月18日（木）に校長室で行われました。表彰者は次の6名の方です。

所 属	氏 名
機 械 工 学 科	南金山 裕 弘 教授
電気電子工学科	中 村 格 准教授
電子制御工学科	宮 田 千加良 教授
情 報 工 学 科	豊 平 隆 之 准教授
学 生 課	脇 園 好 光 学生係長
技 術 室	脇 部 政 利 第三技術班長





国際交流だより

国際交流・留学生担当 精松 伸二

これまで掲載されてきた「留学生だより」を標記の如く「国際交流だより」と改称し、正にグローバルな視点から多くの情報を発信できるようにご報告致したいと思います。前号の「高専だより」で、本校外国人留学生在が関係した4月～7月までの活動を掲載致しましたが、それ以降の活動を下記項目(1)で報告致します。そして項目(2)では、国際的な活動として、海外インターンシップ、海外出前授業、学生交流等を列挙致します。特に、本校は学年ごとに段階的に学生交流を推進し、「グローバルに活躍する技術者」の育成を目指しております。早期に動機付けをする意味で、本年度の1年生を対象に海外での語学研修を実施しようと目下検討中です。

海外で学生交流を体験した学生の報告文を是非一読してください。

(1) 留学生関係活動

*学内

- ・ 8月3日(火) 21:25～21:55
第4回留学生会合
- ・ 9月15日(火) 16:30～17:20
教務主事との面談 5Iカオヤン君・精松
- ・ 10月4日(月) 21:20～22:00
第5回留学生会合
- ・ 8日(金) 20:30～21:50
留学生パーティ
- ・ 14日(木) 21:20～21:50
第3回チューター会合
- ・ 28日(木) 20:00～23:00
第6回留学生会合
- ・ 11月18日(木) 17:30～19:00
里親の会 大会議室
- ・ 12月9日(木) 21:30～22:00
留学生会合
- ・ 16日(木) 9:00～13:00
セント・フランシス学院(マレーシアマラッカ市)の高校生10名と引率の先生方5名との学生交流 学生会、留学生

*霧島市内

- ・ 11月6日(土)～7日(日) 霧島ふるさと祭り
(土) 3Mアリ君、4Cティー君(日) 5Sギア君、4Mメーヌカ君、3Sクー君、精松
- ・ 12月3日(月) 18:00～20:00

セント・フランシス学院訪日団歓迎会 精松

*霧島市外

- ・ 8月21日(土)～25日(水)
夏季九州地区高専留学生日本文化研修(有明高専)
4Cティー君
- ・ 9月25日(土)～26日(日)
知覧町(内菌様)でホームステイ
5Sギア君、4Cティー君、3M アリ君、3Sクー君
- ・ 10月2日(土)～3日(日)
南さつま市(久保様)でホームステイ
5Sギア君、4Cティー君、3Sクー君
- ・ 10日(日)～11日(月)
南さつま市(久保様)でホームステイ
5Sギア君、4Mメーヌカ君、4Cティー君、3Sクー君
- ・ 12月11日(土)～12日(日)
九州沖縄地区留学生交流研修会(久留米高専)
4Cティー君、3M アリ君、3Sクー君、精松
- ・ 29日(水)～31日(金)
冬季九州地区高専留学生日本文化研修(有明高専)
4Cティー君

(2) 国際交流関係活動

- ・ 3月8日(月)～26日(金)
海外インターンシップ参加(フィリピン)
専攻科1年(機械・電子)満菌 友宏君
- ・ 4月21日(水)～25日(日)
BCITとの国際学術交流協定締結
赤坂校長、植村教務主事、松田忠大国際交流委員、坂元国際交流委員
- ・ 8月8日(日)～18日(水)
第3回テマセク・ポリテクニク学生交流
参加者:16名 学生14名、引率者:堤 隆国際交流委員、精松
- ・ 8月31日(火)～9月6日(月)
西オーストラリア州政府教育省、
ケント・ストリート・シニア ハイスクール、カーティン大学訪問
(学生交流、交流協定等について)
参加者:植村教務主事、松田忠大委員、椎機械工学科准教授、精松
- ・ 9月4日(土)～12日(日)
カセサート大学工学部、付属小・中学校、出前授業
(ロボット工学、手作りロボット講座)引地国際交流委員

- ・ 9月12日（日）-17日（金）
アジアの学生の高専体験プログラム（沖縄高専、熊本高専）参加学生：5 I篠原 弘光君、4 I鎌倉 綺さん
 - ・ 9月17日（金）国際化教育推進委員会（熊本高専）
松田忠大国際交流委員
 - ・ 9月15日（水）-24日（金）
2年生海外語学研修（カナダ・バンクーバー、ノートルダムリージョナルセカンダリースクール）本校参加者：44名 学生42名、引率者：三原国際交流委員、塚崎2年情報担任
 - ・ 9月28日（火）-30日（木）
第4回国際工学教育研究集会（ISATE2010）
 - ・ 平成23年3月14日（月）-22日（火）
1年生海外語学研修（西オーストラリア州パース市、ジョン・フォレスト高校）を実施予定
- その他、
- ・ 8月5日（木）-18日（水）
いちき串木野市サリナス市姉妹都市協会
第11回米国派遣助成事業
3E大久保 勇佑君
アメリカ カリフォルニア州 サリナス市にてホームステイ

第3回テマセクポリテクニク 学生交流

4 I 鎌倉 綺

初めての海外。「男子の多い高専だし仕方がない」と諦めていたけれど、女子が一人ということにはやはり不安があり、行く前には申し込んだことを何度も後悔した。

今夏、私は鹿高専とシンガポールのテマセクポリテクニク（TP）との交流の一環でシンガポールへ行った。

本交流は双方交流という形で去年より行われており、今年3月にはTPの学生が鹿児島を訪れていた。その時できた友達と会えることを楽しみに、今回参加を決意した。

出発の日がやってきて、不安と楽しみを胸に日本を発った。昼前に日本を出たけれど、シンガポールに到着したころにはあたりは既に暗かった。たった1時間ではあるが初めて時差というものを体験し、海外に来たのだと実感した。

空港ではTPの学生が歓迎してくれた。荷物を待っているとき、ゲートのほうから「AYA-！」と私の名を呼ぶ声がした。声の先では、3月に鹿児島を訪れたTPの学生数名が大きく手を振ってくれていた。とても嬉しくて、「来てよかった」と思えた。

それから約10日間、TPの学生が交代でシンガポールを案内してくれた。TPの学生は私が理解しやすいように、簡単な単語を使ってゆっくり話してくれたり、私の乏しい英語を理解しようと親身になって聞いてくれたりした。また、英語はもちろん、マレー語や中国語も少し教わった。日本語が少しわかる学生もいて、会話をしていると英語と日本語が入り混じり、とても面白かった。言語の壁などないような気がした。

多すぎて書ききれないほど様々な所へ行き、様々な体験をし、様々なことを感じた。滞在期間は10日に満たなかったが、本当に充実していた。

そして、一緒に行った日本の学生・TPの学生・先生方、皆とても親切で、行く前に不安に思っていたのが嘘のように、寂しさを感じることはなかった。

帰国して早いもので4カ月がたった今でも、メールやインターネットを通じて連絡を取り合っている。もちろん言語は基本的に英語。面と向かっている時と違って身ぶり手ぶりができないので、読むのも書くのも一苦労だ。

けれど、この繋がりが切れることのないよう、次会えることを楽しみに、これからも続けていきたい。

カナダ・バンクーバーを訪れて

情報工学科 2 年 室屋 知佐

今年の夏、私は初めて日本を離れ、約10日間の短期留学を経験しました。珍しい動物をたくさん見つけることが出来たり、日本では見られないような景観やメープルの葉を見ることが出来たりし、また、友達もたくさんでき、とても楽しかったです。カナダの学校で授業を受け、カナダの家庭に帰宅するという、今まででは考えられないような生活を送った毎日は、想像以上に充実していました。

一番印象に残っているのは、ホームステイです。対面したときは、緊張して” Nice to meet you.” と言って、握手をするのが精一杯で、” What’s your name?” も一度では聞き取れず、これから本当に大丈夫かと不安だったことは言うまでもありません。しかし、気づいた時には、身振り手振りを大いに活用しながら、物事や感情を伝えることが出来るようになっていて、自分でも正直驚きました。ホストマザーとさまざまな香辛料の匂いについて、いい匂いとか、そうじゃないとか言い合ったり、日本での生活について語ったり、歳の近い女の子とアイドルの話で盛り上がったり、冗談を言い合ったりもしました。一番、私が嬉しく感じたことは、家族団欒の空間に溶け込むことができ、その中で会話したり、一緒に笑いあったりできたことでした。その時、中学校から今まで、英語を勉強してきて、片言でありながらも英語が話せるようになってよかったと、改めて実感しました。話す言葉が違い、生活も全く異なる人たちと、ほんのわずかな時間でも、心を通わせられたことを私は誇りに思います。ホストファミリーと別れるとき、” またいつでも来ていいからね、ここはあなたたちのカナダの家だから。” と言って、ミサンガのようなものを出して

無事に帰れるようにと、私たちの手首に結んでくれました。そのミサンガのようなものは、私が家について、車から降りたと同時に外れていたことに、翌日気がつきました。こういうことってあるんだな。と、感動したのを覚えています。

約10日間という、長いようで本当に短い期間の中、多くの人の親切に触れ、人同士、文化や生活、風土が違っていても、温かい触れ合いをもつことが出来ると実感しました。そして、これからもっと多くの国の人たちと交流をもてていけたら嬉しいなと思います。



釜山情報大学交流報告 張百基、権泳一教授の退任式に参加して

東南アジア地域交流専門委員会 塚本 公秀

この数年間釜山情報大学(BIT)との交流が薄れてきており、BITの様子が良く判らない状況が続いていますが、2010年8月25日に本校とBITとの交流を永年に亘り推進していただいた張百基教授と権泳一教授が退職されました。このままでは交流消滅も懸念され、BITの現状視察と今後の展望把握を目的に、両教授と縁の深い塚本、赤沢両名でBITを訪問しました。

一昨年より交替された新総長のソヨンボン先生に表敬訪問をし、現在の事務部長と両教授を交えて交流について現状と今後について話し合いをしました。その席で、BITが「近年の若者の就職難で大学の教育がより実践力重視の教育に変化したこと」、「それに伴い学科編成が大きく変化したこと」、「学生交流が中国重視になってきたこと」など貴重な情報を得ました。その後両名は、BIT大ホールで行われました9名の退任記念式典に本校代表として参加し、本校有志の教員一同の記念品を贈呈してきました。

さて、本誌をお借りして両先生の本校における業績を紹介したいと思います。

先ず、張百基教授は1992年来校以後、学生交流と教職員交流との両方に大きく関わって頂きました。

学生交流としては、1993年に2名の学生同士の相互交換ホームステイ交流に始まり、1999年の交流協定締結以降、ホームステイ交流に参加した総計50名近くの本校学生達全てのBIT側窓口としてお世話を頂きました。また教職員相互交換ホームステイの労もとって頂きました。そして何より特徴的なことは、学生達が相互交換ホームステイというプログラム形態をとってきたことでした。

交流参加学生で専攻科に進学した学生のうちTOEIC400点以下の学生は皆無であったことなど多くの教育効果を上げてきたことは、張百基先生の本校への貢献として書き加えたいと思います。

また教員交流としては1995年より赤沢先生主催で行われていました教員セミナーの水曜コロキウムに招待講師としての講演をきっかけに、両校間での相互開催が始まった共同フォーラム開催のBITの実行委員長を長く努めても頂きました。1992年の本校教員3名での訪韓に始まり2004年までの共同フォーラムで総計20名を超える本校の教員の交流がありました。

次に、権泳一教授は学生交流では、親日家として、毎回の交流の際に張教授とともに本校学生の受け入れ家庭探しに奔走して頂きました。共同フォーラムではBIT側の総括責任者を毎回務めて頂き、さらに講演も行っていました。

これまで教職員の研究交流と学生の相互交換ホームステイ交流を通して両先生にお世話になった方々には懐かしく感じられることと思いますが、今後とも両先生の益々のご活躍を祈念したいと思います。





贈る言葉

土木工学科 5 年担任 山内 正仁

卒業おめでとう。高専を巣立っていく学生諸君に心よりお祝いを申し上げます。また、保護者の方々には、大切なお子様たちの学校教育の場として本校を選んでいただいたことに、心より御礼申し上げます。

5 年間という学校生活を終え、進学、就職と君たちはそれぞれ自分自信が選んだ道を歩んでいきます。難関を突破して高専に入学してきた君たち、専門的な知識、技術を得るため学校生活を送ってきた君たち、一生の宝ともいうべきたくさんの仲間たちを得、楽しい経験、辛い経験、たくさんの経験をしてきた事だろうと思います。これらの経験は必ず、これからの人生のヒントとなり、役に立つはずです。これらたくさんの経験を糧にこれからの長い人生歩んで行ってください。

毎年の事です、君たちも就職、進学と、進路が決まるまで大変苦勞をしたことでしょう。しかし、厳しい就職環境の中、高専への求人率は就職難の時代とは思えないほど高く、就職内定率も高い状況を維持しております。より専門的な知識、技術をもち、即戦力で使える人材を企業が求めている傾向もあるでしょうが、先輩たちの功績が大きいことも確かな事実です。

しかしながら、職場に入った後、頼れるのは自分の実力です。高専で学んだ知識と経験と実績を活かして自信を持ってがんばってもらいたいと思います。5 年間どのように過ごしてきたか結果が出るのは実社会に出るこれからです。君たちの活躍はさらに後輩の道を拓くことにも繋がっていくのです。

最後に卒業生のこれからの健闘と幸多からんことを祈り、また卒業までに多大なご協力を頂いた教職員、関係者の方々、そして何よりも保護者の方々に各科の担任を代表して御礼申し上げます。

高専生としての 5 年間

機械工学科 5 年 松元 遼太

私が鹿児島高専に入学してから 5 年がたとうとしています。入学当初 15 歳の私には 5 年生と教職員の違いが分からず、みな“オジさん”に見えました。また辺りを見回しても男だらけ(特に機械科)で風変わりな人間が多いことに驚嘆したことを覚えています。このような環境の中、私はいつしか 5 年生へと成長し過去の自分と照らし合わせ、自身も高専の人間になったのだと身に染みて感じているところです。

高専生活にも慣れてきた 2 年生頃、私は高専の日々に嫌気がさしていました。それというのは高専という自由な校風からかクラスの授業中のぐだぐだした雰囲気や、しまりのない態度が横行しており、目的意識のないままに流される日々を過ごしていたからです。私自身もそのような雰囲気に飲み込まれアツくなれる何かを見失いかけていたのだと思います。そんななか私に向上心を与えてくれたのが部活でした。私はメカトロニクス研究部に所属しロボコンをしていました。2 年生の九州大会の時、私はロボットの一部分の設計製作を行い試合に挑みました。結果はあっけなく 2 回戦敗退。試合に負けて初めて自分の根拠のない絶対的な自信を見事に打ち砕かれました。このときの経験が当時の私に大きな影響を与えそれまで以上に部活や高専生活に熱を入れるきっかけになったのだと思います。

ロボット 1 台といえどもそれに携わる人間は多数います。誰か一人でも手を抜いたり、諦めたりしてしまえばその時点でロボットとしても、チームとしても機能しなくなります。これはロボコンに限った事ではないでしょう。応援団にしても、はたまた日頃の授業にしても同じ事が言えるのではないのでしょうか。

特に最近感じるのが専門科目や卒業研究での知識不足です。低学年時に習った基礎科目が高学年時の専門科目や卒研で急にリンクし出します。ちょうど低学年時の怠惰な生活を送っていたころの科目というのはきれいさっぱり頭の中から消えてしまっているのです。低学年の皆さんにはぜひ目的意識を持って日頃の高専生活を満喫していただきたいと思います。何か一つでもアツくなれる何かを見つければ残り的高専生活はまた違った形で過ごすことができるでしょう。何もしないでな—な—と過ごすのはもったいないと思います。

後悔だらけの文となりましたが最後に、5 年間ご指導していただきました機械工学科を中心とする先生方、ま

た5年間学舎を共にした友人、家族にお礼申し上げます。私は来年度専攻科に進学するので在校生の皆さん、残り的高専生活をともに精進していきましょう！

高専での5年間を振り返って

電気電子工学科5年 浦辺 大史

鹿児島高専に入学していなかったら、今の自分はないと思います。

中学生の頃、僕が数ある進路の中から鹿児島高専を選んだ理由はただひとつ、「大学受験をしたくないから」でした。高校受験で、もうすでに勉強をすることにうんざりしてしまっていた僕にとって、大学受験をすることなく有名企業に就職できる鹿児島高専は、とても魅力的な学校に見えました。

しかし、現実には甘くありませんでした。入学してすぐに異変に気付きました。男くさい教室、変わったクラスメイト、難しい専門教科、厳しい成績評価、自由すぎる校風、変な先生、寮のおいしくない魚料理、消えていくクラスメイト、多すぎるレポート、少なすぎる女子比率…。ここまで普通じゃない学校もそうそう無いと思います。入学してすぐに後悔しました。

しかし、不満の多い高専での学生生活を送っていく中で、いろいろな事を学ぶことが出来ました。

まず、勉強は己を磨くためにするものなのだと知りました。高専は確かに大学受験がありませんが、それは、裏を返せば5年間の高専生活のうちに社会に出て通用するような力を身に付けなければならないということでした。中学生のころの自分の考えは甘く、間違っていたと気付くことが出来ました。

そして、人とのつながりの大切さを知りました。クラスメイトとは入学してからずっと、皆で苦労も喜びも共にしてきました。3年生のころには軽音楽部に入部し、部で活動が続けていったことで、たくさんの友達に恵まれました。辛い時に救ってくれたのは、いつも傍にいてくれた仲間でした。

他にもたくさんのものをこの5年間で得て、少なからず成長できた気がします。良くも悪くも、今の自分があるのは鹿児島高専を選んだ結果だと思います。「他の学校へ行けば良かった」という後悔も少しはあるけど、今は鹿児島高専に来てよかったと思っています。ここにきたことで出会えたすべての人に感謝しています。

高専での5年間を振り返って

電子制御工学科5年 中野 人夢

入学から早5年、いつの間にか卒業です。僕達のクラスはいつの間にか高専用語辞典に「伝説のクラス」として載っていました。これからその「伝説のクラス」の5年間を語りたいと思います。

44人でスタートした1年生、クラスマッチでは高学年を抑えて優勝、応援団の時には応援団員全員が数万円する短ランとボンタンを揃えるなど初めて会ったはずなのに最初から団結力が強く、テンションがかなり高いクラスでした。今思えば、この時既に「伝説のクラス」の片鱗が顔を出していたのかもしれません。

授業中一番騒がしかった2年生、先生方に「お前らがなぜ優秀なのかよく分からん」と言われたこともあった気がします（笑）。僕はこの年、夏休みにカナダへの語学研修に参加しました。この研修で自分の英語力がどれだけ足りないのか痛感させられました。この年を境に英語に対する意識が大きく変わったと思います。そしてこの年、電子制御工学科が体育祭の応援団の部で初優勝を果たし、「伝説のクラス」が遂に覚醒しました。

教室が異常に汚かった3年生、教室が売店に近いこともあり、ゴミ箱は常に満杯、何人かの机の横には専用のゴミ袋など今思えばよくあんな状態の教室に一年間も居られたなと思います（笑）。ある意味この教室の状態も「伝説」の一つかなと個人的には思っています。しかし、やはり「伝説」になるだけあり、こんな状況でも今まで通りの力を発揮し、体育祭では応援団の部で二連覇を果たしました。

5年間でもっとも充実していて、もっとも早く時間が過ぎた4年生、この年一番心に残っているのは、やはり皆で合宿し、試行錯誤して本番を迎えた体育祭です。前年を越える為、応援団の部で三連覇を成し遂げる為に応援団と櫓絵、共に全力で頑張りました。特に団長や副団長、列隊長の皆は何ヶ月も前から演舞の構成を考えて練習を重ね、櫓絵のメンバーも毎日夜中まで残って頑張っていました。体育祭当日は大雨でしたが、全力で自分達の全てを出し切ることが出来たと思います。全力で頑張った結果、応援団と櫓絵の部で共に優勝を果たし、「三連覇と二冠」という伝説を達成することが出来ました。あの時の達成感と感動は一生忘れないと思います。何かを全力でやり切ることの大切さと素晴らしさを改めて実感した一年でした。

そしてそれぞれの進路を決めることになった5年生、

就職活動や進学先の決定、卒業研究とあっという間に時間が過ぎていきました。沖縄旅行にジュースじゃんけん、etc・・・ここでは語り切れないような様々な「伝説」と言える出来事のあった学年でした。僕はこの「伝説のクラス」で5年間の高専生活を送れたことを誇りに思います。

4月からは「伝説のクラス」のメンバーもそれぞれ新たなスタートを切ります。僕も本校の専攻科に進学し、高専という他の学校とは違う環境の中で培った知識や経験をこれからの人生に大いに役立てながら頑張りたいと思います。

最後に、5年間一緒に過ごしてきたクラスの皆、苦楽を共にしてきたハンド部の仲間達、勉強だけではなく、様々な役立つことを教えてくださった先生方にこの場を借りて感謝の言葉を述べたいと思います。

本当にありがとうございました。

先生方には来年度からもこれまで以上にお世話になると思います。改めてよろしくお願いします。

それぞれの道に向かって

情報工学科5年 脇田 靖弘

5年前、僕はこの鹿児島高専に入学し、今年で成人を迎えました。

今思えば入学当初、いきなり新しい環境に入って5年間頑張れるかなと思っていましたが、案外あっという間でした。ピカピカとは言いがたい1年、染まり始めた2年、実験の恐ろしさを知った3年、高専祭の主役となった4年、ラスボス（卒研）と死闘を繰り広げた5年、本当にいろんなことがありました。

特に、僕の心に残っていることが4年時のことです。4年まで応援団を毎年やっていて、列隊長になり、指導することの大変さを知りました。でも、その中で勝利への一体感や分かち合う喜び等、数々の得る物がありました。しかし、得る物もあれば失ったものもあった、僕の4年時はそんな1年でした。私ごとですが、応援団の扇子はこれからも使っていただけると嬉しいです。

さて、僕たちのクラスでは、1、2、3、4、年において全てに別れがありました。単位が足りなくて旅立った者、夢をかなえるためにほかの学校へ行った者、就職した者、実験についていけずに諦めた者、いろいろな人がいました。でも、彼らは後悔だけはしてないと思います。新たな道で頑張っているのですから。

これから僕たちは5年間、もしくは2年間付き合った友達と別れ、それぞれの道へ進んでいきます。でも絆は消えません。その絆さえあればどんな苦難でも乗り越えられる気がします。だから胸を張って、未来を切り拓いていこうと思います。最後ではありますが、僕たちの支えとなってくれた方々に感謝を表します。

ありがとうございました！

高専生活を振り返って

土木工学科5年 川畑 拓海

自分にもとうとう卒業の日が近づいてきました。入学当初は卒業なんて他人事だと思っていたので、自分自身驚いています。時の流れというものは、流れる川の如くとどまることを知らないようです。それはさておき、突拍子もなく原稿を頼まりました。思い出話を書くのも、それはそれで一興ですが、どうせ書くなら何か少しでもためになるようなことを書こうと生意気にも思い、パソコンと相対しています。と、いう訳なので…ここでは自分が高専生活で思ったことや感じたことを徒然なるままに書きつくりたいと思います。

先程からなんやかんや書いていますが、結局のところ、一番書きたいことは高専の校風についてです。おそらく、高専に入学すれば誰しも感じるところであろうとは思いますが、高専というところは他校に比べても非常に自由度が高いです。休みも多ければ、制服もありません。私も入学当初は自由な校風に少し舞い上がっていましたが、5年の今思うと、『自由』という意味をはきちがえていたのかなと感じます。私が思うに、高専の自由な校風は学生である私達に『自主性』というものを強く問うているのだと思います。このような主旨のことは学生主事の方がよくおっしゃっていたような覚えがありますが、高学年になり、ようやく気づきました。また、この『自主性』というものは怖いもので、良くも転べば悪くも転じます。自主的に勉学に励めば、オフィスアワーズや図書室、パソコン室などサポートするシステムは充実しているので、ある程度学力はつくでしょう。しかし、逆もまたしかりで、遊びに励めば、これまたサポートする施設が隼人周辺に充実しているので学力がつかないまでも、楽しめます。何が良いか、何が悪いか判断するのも自分自身なので後悔のないように。ただし、勉強も遊びも一辺倒は良くないです。

とは、言ったものの学生の本分は勉強です。学生には

様々な誘惑がつきまといいますが、『敵は我なり。』という言葉もあるように自分自身に打ち勝ってほしいものです。また、誘惑に打ち勝った暁には克己の精神が身に付いていることでしょう。何にせよ、高専生の可能性は無限大なので、後輩の方々は頑張って自分の道を自分自身で切り拓いていってください。最後に、このような執筆の機会を下さった方々、そして、高専でお世話になった全ての方々に感謝します。ありがとうございました。

専攻科を修了するにあたって

機械・電子システム工学専攻2年 別府 勇貴

学位の試験が終わり一息つきながら執筆しています。専攻科に入ってから瞬く間に時間が過ぎた気がします。1年生の時は授業に追われ、2年生の時は就職活動と学位論文に追われ、とても内容が濃かった2年間だったと思います。その中でも、就職活動は自分を見つめなおすきっかけにもなり、また多くのことを気づかされました。自分にとって就職活動は大きなターニングポイントになったと思っています。

専攻科に入ってから勉強にはとても苦労しました。専門のみではなく、専門外の授業や環境に関する授業が多くありました。また、プレゼン形式の授業もあり大変苦労しましたが、現在では、それのおかげで実力がついたと思います。研究においては精神的にも鍛えられ、大変自分のためになったと思います。特に、自分が相手に伝えたいことを伝える難しさを知りました。

話は大きく変わりますが、私にはこの高専に入学してから、7年間高専生活を共にした仲間が7人います。決して皆が皆、仲が良かったわけではないけれど、たくさん楽しい思い出ができました。時にはケンカもしたけど、今ではそれも思い出の一つです。またクラスの垣根を越えて、皆でキャンプ行ったり、登山に行ったり、飲み会したりと楽しい思い出がたくさんできました。専攻科の皆ありがとう。

専攻科を修了するにあたって多くの人に感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りて…。ここまで育ててくれた両親へありがとう。楽しい思い出と、つらい時にいつも助けてくれた友達にありがとう。最後まで見捨てないで面倒を見てくれた先生方へありがとう。私のおしゃべりにいつでも付き合ってくれた技術室の先生方へありがとう。本当に私は周りの色んな人に助けられて生きているんだと思います。大げさかもしれないけど、高専生活7年間でこのことに気づけたことが何よりの財産です。

あとは、この高専で学んだ多くのことを糧にして、また新たな道へと進みます。

本当にありがとうございました。

修了するにあたって

電気情報システム工学専攻 2 年 外園 裕仁

現在、進学先が決まり、学位試験も終わり、残りは特別研究の発表と修了式を迎えるだけになりました。楽しく過ごした 7 年間の高専生活が、もう終わろうとしています。専攻科は高専生活の 7 年間のうち 2 年間なので、早く過ぎ去ったように感じられます。本科での思い出と言えば応援団とドイツへの修学旅行がとても印象に残っていますが、ここでは専攻科について話そうと思います。

専攻科では本科で学んだことよりも進んだことを学ぶことができました。1 年生のときは人数が少ないので、他の学科から専攻科に来た人たちと一緒に同じ講義を受けて勉強をし、交流を深めるのはいい刺激になりました。また、必修科目が多かったので、レポートや試験が大変でした。

2 年生になると、講義は選択科目が多くなり、単位を取得していれば、空き時間を多く作ることができます。多くの人はその時間作り、特別研究などに有意義に使っていました。私は大学院に進学するので興味のある講義を受けています。特別研究では自分で研究計画を立てて研究を行い、学校の間接発表や電気学会の研究発表したことはとても良い経験となりました。また、学位の取得には特別研究の成果を論文として提出し、その論文に対して試験が行われ、合格しないといけません。自分で行った研究について 1 人 1 人違う問題が出題され、学力を試されるので、高専生活の中で一番緊張しました。

専攻科では高専全体での行事が少ないので少し残念でした。しかし、専攻科で計画を立てて、山登りやキャンプをしたことはいい思い出です。

最後に、高専生活で一緒だった同級生、先輩や後輩、お世話になった先生方に心から感謝します。7 年間本当にありがとうございました。

専攻科を修了するにあたって

土木工学専攻 2 年 松元 皓隆

土木工学専攻に入学して、早 2 年が過ぎようとしています。はじめは、本科を卒業と同時に社会に出ようと思っていた私でしたが、5 年次に経験した研究活動がきっかけとなり、もう 2 年間頑張ってみようと思えました。

専攻科の授業では、より専門的で高度な学習を受けることができました。専門教科については少人数制ということで、質問がしやすく、静かで緊張した空間での授業でした。これは本科では味わえない特別なものでした。共通科目については他学科との合同授業ということで、他分野視点の意見や考えなどを聞くことができ、土木技術者を目指す私達としては、良い経験となったと思います。

また、専攻科は研究活動を中心とした時間割となっており、自分の研究だけに集中することができ、心行くまで時間を費やすことができました。私の研究は、食品廃棄物の臭気物質の特定とその臭気除去に関することを行ってきましたが、その過程でたくさんの困難とぶつかりました。やはり一番の困難は「自分で考える」ということでした。既存研究がないということで、たくさんの分析を重ね、得られた結果をもとにメカニズムを追求し、論理的に考察をするというのは本当に大変でした。また、私は鹿児島大学で主に研究活動を行ってきました。週に 3～5 日間程度、通っていたため、高専に在学しながら、大学生気分も味わうことができました。はじめは、知らない場所、知らない人達との研究でとても嫌でしたが、今思えば、本当に良い経験になったと思います。

専攻科修了と同時に私の研究活動も終了します。これまで、研究室の先生方、鹿児島大学の先生方をはじめ、たくさんの方々に、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。現在、無事に学位試験が終わり、一息つきたい時期ではありますが、まだ研究活動は終わりではありません。専攻科修了まで、まだ多少の時間があります。これまで以上に濃い研究を行い、専攻科生活の集大成を仕上げたいと考えています。

そして、春からは社会人になります。鹿児島高専で学んだ知識・技術、経験を活かし、社会に貢献できる技術者になりたいと思います。

最後に……。

これまで私を育て、支えてくれた父と母には、とても感謝しています。

本当にありがとうございました。

－ 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 －

〈機械工学科〉

東洋インキ製造株式会社
東海旅客鉄道株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
株式会社日立プラントテクノロジー
株式会社シマノ
三菱重工業株式会社（３名）
京セラ株式会社（３名）
旭化成株式会社
株式会社コスモテック
株式会社テクノ21グループ
日本オーチス・エレベータ株式会社
株式会社ＩＨＩ
シチズン時計鹿児島株式会社
東芝エレベータ株式会社
関西電力株式会社
株式会社サンテック
不二製油株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社飯塚製作所
ANAテクノアビエーション株式会社
サントリープロダクツ株式会社
本田技研工業株式会社
鹿児島高専専攻科（８名）
札幌工科専門学校
大阪府立高専専攻科（２名）
日本建築専門学校
千葉大学

〈電気電子工学科〉

中部電力株式会社（２名）
東芝エレベータ株式会社
株式会社日立プラントテクノロジー（２名）
株式会社日立国際電気
雪印メグミルク株式会社
九州電力株式会社（２名）
関西電力株式会社（３名）
南日本くみあい飼料株式会社
オムロンフィールドエンジニアリング九州株式会社
旭化成株式会社
ミヤマ工業株式会社
富士電機システムズ株式会社
大阪ガス株式会社
九州旅客鉄道株式会社
メタウォーター株式会社
東京エレクトロンF E株式会社
株式会社N T T ネオメイト
三菱重工業株式会社
東京電力株式会社
吉野プラスチック株式会社
京セラ株式会社
東海旅客鉄道株式会社
鹿児島高専専攻科（６名）
九州工業大学（２名）
長岡技術科学大学（３名）

－ 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 －

〈電子制御工学科〉

I H I プラント建設株式会社（2名）
飛鳥電気株式会社
ミヤマ工業株式会社
東京電力株式会社
タイヨーインタナショナル株式会社
関西電力株式会社
ダイダシ株式会社
キャノンファインテック株式会社
東海旅客鉄道株式会社
安川コントロール株式会社
ANAテクノアビエーション株式会社
京セラ株式会社
パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社
NOK株式会社
日本貨物鉄道株式会社
独立行政法人国立印刷局
パナソニックエレクトロニクスデバイス株式会社
株式会社モレックス喜入
NTTコミュニケーションズ株式会社
株式会社メディアネットワーク
京セラコミュニケーションシステム株式会社
三菱電機株式会社
セイコーエプソン株式会社
株式会社明電舎
株式会社メイキコウ
CTCテクノロジー株式会社
信州大学
鹿児島高専専攻科（6名）
豊橋技術科学大学（2名）
鹿児島大学
九州工業大学（5名）
九州大学（2名）
熊本大学
久留米高専専攻科
札幌市立大学
電気通信大学

〈情報工学科〉

アイ・ティー・エス・ジャパン株式会社
トヨタテクニカルディベロップメント株式会社
京セラ株式会社（2名）
株式会社富士通鹿児島インフォネット
株式会社南日本情報処理センター
メタウォーター株式会社（2名）
コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社
富士通株式会社
日本放送協会
東芝ITサービス株式会社
日本特殊陶業株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
株式会社富士通九州システムズ
ユニバーサルソフト株式会社
株式会社日立アドバンストデジタル
株式会社沖電気カスタマアドテック
鹿児島高専専攻科（9名）
豊橋技術科学大学
鹿児島大学
熊本大学（2名）
九州大学
九州工業大学（2名）

－ 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 －

〈土木工学科〉

株式会社日本ピーエス
株式会社新日本技術コンサルタント（２名）
三軌建設株式会社
川田建設株式会社
九州電力株式会社
コーアツ工業株式会社（２名）
ライト工業株式会社
株式会社ヤマウ
大阪ガス株式会社（２名）
日特建設株式会社
NEXCO西日本株式会社
日鉄パイプライン株式会社
NTTインフラネット株式会社
林建設株式会社
株式会社ブリッジエンジニアリング
株式会社ヤマサキ
小野田ケミコ株式会社
東海旅客鉄道株式会社
株式会社NIPPO
電源開発株式会社
株式会社JPハイテック
三菱重工業株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
株式会社ピーエス三菱
鹿児島高専専攻科（８名）
豊橋技術科学大学
長岡技術科学大学
熊本大学
宮崎大学

〈機械・電子システム工学専攻〉

シチズン時計鹿児島株式会社
株式会社トクヤマ
富士通株式会社（３名）
東京エレクトロン九州株式会社（２名）
株式会社森精機製作所
株式会社オーレック
日本オーチス・エレベータ株式会社
ミヤマ精工株式会社
旭化成株式会社
旭化成ケミカルズ株式会社
日立建機株式会社

〈電気情報システム工学専攻〉

東芝プラントシステム株式会社
愛知電機株式会社
神戸情報大学院大学
九州工業大学大学院（４名）
東京大学大学院
九州大学

〈土木工学専攻〉

株式会社ガイアテック
九鉄工業株式会社
東京電力株式会社
福地建設株式会社
J F E シビル株式会社
九州旅客鉄道株式会社
長岡技術科学大学



鹿児島高専を卒業して

平成18年度 機械・電子システム専攻修了
ソニー株式会社 吉田 智

年月が過ぎるのは早いもので、私が鹿児島高専専攻科を卒業して6年が経とうとしています。中学校を卒業し15歳で親元を離れ寮生活をスタートさせたのが2000年4月。それから本科での5年間は、当時は非常に長く、卒業後は非常に短く感じています。本科を卒業後、2005年4月に専攻科(機械・電子システム工学専攻)に進学し、専攻科での2年間は研究に没頭し、限られた時間の中で、研究熱心な先生方、優秀な先輩方や後輩達と楽しく、時には厳しくもありながら充実した毎日を過ごすことができました。専攻科を卒業後、研究という終わりのない領域をさらに探求したく、2007年4月、東京大学大学院新領域創成科学研究科に進学し、学術分野だけでなく“人と人の繋がり大切さ”や“何があっても諦めない気持ち”を学びました。大学院を卒業後、進学するか(大学院 博士課程へ)就職するか岐路に立ち、何度も自問自答を繰り返し悩みぬいた中で就職という道を選び、2009年4月より、ソニー(株)にて液晶TV (BRAVIA) の外装設計に携わりつつ現在に至ります。

今回は高専便りの頁を借りて、主に在校生と先生方(保護者の皆様も)に鹿児島高専卒業生として助言できることがあればと思い執筆依頼を受けさせて頂きました。私が高専(本科)を卒業してから現在までに痛感した2つのことを皆様に発信させて頂きたいと思います。

1. 英会話力

まず一つ目は、やっぱりか。と思う方も多くいらっしゃると思いますが、英会話力です。ここでは英語力と英会話力は切り離してお考え下さい。もちろん、英語を喋るからには英語力(文法・リスニング・リーディング)が必須となりますが、英会話となるとちょっと変わってきます。言語問わずきちんとした文法で会話のできる子供はいませんが、意志疎通を図ることは容易にできます。言葉を発してコミュニケーションをとろうとする姿勢が一番大事なのです。英語を話す上で、おのの持つ英語力(たとえば、TOEICの点数など)はコミュニケーションをとるためのツールであり、実際に問われるのは話し手の意図や意志になります。その上で、英語で何か言う訓練をすることが非常に大切です。私が在学していた時は、英会話という授業がありましたが、訓練をする場所としては非常に適しています。英語を話すことを恥ずかしがらず、英語で何か言うことで自身の

英語に対するハードルを再設定することが出来ます。

2. 向上心

二つ目は、向上心です。社会に出て仕事をしていると、予期せぬ事や失敗の繰り返しです。高専時代のテスト期間のような緊張感が毎日続くこともあります。今の業務では、海外とやりとりをする事が大半で、時に挫けそうになることもあります。短期的な目標をしっかりと定めそれに向かって邁進することで何とかやり遂げています。在校生の中には日々同じリズムで進む学校生活に退屈を感じている学生もいるとは思いますが、一度止まって考えてみて下さい。退屈と思う環境を自分で作ってしまっていないかと。自分の経験では大抵の場合がそれに当てはまります。先のことを考えるのは難しく時間も要するので、まずは今日・明日・来週でもよいので、目標を定めて行動してみてください。少しでも学校生活が豊かになると思います。そして、これらが大きな向上心となって、自分自身の指針を見つける時に大きな手助けになってくれると思います。

以上、長文かつ駄文になりましたが、卒業生のつぶやきにお付き合い頂きありがとうございました。原稿執筆にあたり、貴重な場を与えて頂いた、田畑隆英先生にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

最後に、在校生へ。

Do your best any time, and it must be first class.

(いかなる時もベストを尽くせ。そして一流であれ。)

就職後に思うこと

平成19年度 電気情報システム工学専攻修了
福田 祐貴

私は平成20年度にKCCSに入社しました。同年7月にKDDIへ出向し、現在auのエリア設計を行っています。総務省主体の周波数再編に伴い、新システムへの移行期間の最中であり、忙しい毎日を送っています。

私の現在の仕事内容は、CDMAの周波数再編に伴うエリア設計や次世代のLTEのエリア設計と基地局パラメータの設計など、顧客の通話品質へと直結する仕事と同じ仕事を行っているプロジェクトチームの統括です。

高専時代に体験することがなかった仕事ばかりで、最初は戸惑うことも多かったですが、新しい事に挑戦できる為、楽しく仕事しています。新しい仕事をする中で

あっても高専時代の幅広い分野に渡る授業とそこで得られた知識が基礎となり、業務やシステムの理解を容易に行うことができ、システムの入替りの速い通信分野ではプロジェクトを進めていくなかで非常に有難く思っています。

私が仕事をするようになって改めて大事だと感じることがいくつかあります。

一つ目は、知識の広さです。学生時代に行っていた研究に近い内容を会社に入ってからも行えるかと言うと、多くの人はそうではないと思います。私は高専時代の卒業研究は画像圧縮の研究を行っていましたが、今の仕事は電波伝搬のシミュレーションと無線機・携帯端末間のシーケンス制御とシステム改良・機能追加です。しかし、高専時代に様々な授業から得た知識や研究の自らの自分の納得できるまで調べるという習慣が役に立っています。これは広い分野を学ぶことができる高専だからこそ持てる、一般の大学生に対するアドバンテージだと思います。在校生の皆さんはこのアドバンテージを生かせるように授業から多くのことを学んで欲しいです。

二つ目は、計画力です。仕事には必ず期限があります。プロジェクトを進めるため、期限や優先度の違う多くの仕事を行うため、人員を含め資源を有効利用するためには、進捗計画を立てること、チームをマネジメントすることが必要不可欠になります。私自身も計画というのは高専時代にはあまり意識していなかったことなので、苦労していることでの一つです。授業では教えて貰えないことなので、先生に聞いてでも計画力・マネジメント力を身につけておくと会社に入ってからとても有利です。

三つ目は、語学力です。海外製の無線機やツールの仕様書やマニュアルは全て英語です。依頼を行う際も英語で行う必要があり、伝えたいことを英語にできない事で非常に苦労しています。専攻科の修了にはTOEIC400点が必要なので専攻科生の皆さんは英語の勉強をがんばっていると思いますが、授業で英語を教えて貰える学生時代に勉強しておくことをお勧めします。

四つ目は、報告・連絡・相談を行うことです。卒業研究などでも報告・連絡・相談等は行っていた事ですが、入社後の研修で最も重要な事として言われることです。仕事は一人ではできません。仕事の進捗報告や意見を述べることはもちろん、困っていることを相談し、助け合うことが何より必要です。失敗したときのリカバリーも早く済みますし、責任の分散になるため、相談する癖をつけておくことをお勧めします。

現状、不景気で暗い話題が多い中、進路を決めること

は非常に大変だと思います。企業も、より良い人材を求めているので、自分だけの何かを身につけられるよう学生生活を有意義に過ごしてください。

社会人として大切なこと

平成21年度 機械・電子システム工学専攻
児島 諒昭

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

卒業式・終了式時期に配布される「鹿児島高専だより」への執筆ということで、私の近況報告を交えながら、今後の皆さんの将来の手助けになるようなアドバイスを書き綴ろうと思います。

鹿児島高専を卒業してから、早1年が過ぎました。私は卒業後電力会社に就職し配電保守に配属され、お客さまへ安定した電気の供給に務めています。私の所属している配電保守は、今年新入社員300人程度が配属され1年間という長い研修期間がありました。おそらく他の企業でも、これほどの大人数で1年という研修期間を設けている企業はないと思います。この研修を終える頃には、現場の即戦力として働ける程度の技術力・知識力を身につけていることが目標です。

それでは社会人として、1年を通し大切だったことを以下に挙げます。

○積極的に学んでください。

同期には恵まれています、これだけの同期がいれば自分に与えられる研修時間は限られてきます。

そこで学びたいという意識を持ち、積極的な姿勢で研修に臨まなければ、同じ研修を受けていても周囲の同期に日々差をつけられる一方です。同期は良き仲間であり、良きライバルでもあるのです。学生の頃は机に座っていれば先生方から技術・知識を与えられる受け身の状態でした。しかし、社会人は学ぶために積極的に自ら行動しなければ技術・知識は身につけません。一人前になるためには、それなりの地道な努力が必要なのです。社会人とは、日々勉強です。ですから予習・復習も大事です。予備知識を知っているか知らないかで、仕事への取り組み方が違ってきます。仕事を効率的に行うことができるだけでなく、技術・知識の身につけ方も変わってくるからです。

また、尊敬する先輩方を早く身近で見つけることも大事です。尊敬する先輩方がいることで、将来自分に後輩

もしくは部下ができたと考えた時、尊敬できる先輩上司になりたいかを、常に目標を立てて日々の心構えや過ごし方も変わってくるからです。

○今まで付き合いしてきた友人を大切にしてください。

高専時代の友人は、ほとんど県外に出ておりめったに集まることができませんが、年に一回は同窓会を開き集まるようにしています。

また、たまに連絡を取り合いお互いの近況報告もしています。学生時代を共に過ごした仲間は、本当にかけがえない真の財産だと思っています。そんな仲間がいるだけで、どれだけ心の支えになり仕事への活力になったか感謝しています。

○学生時代にさまざまな経験をしてください。

現在私という人間が形成されているのは、学生時代に多くの経験を積んだからだだと思います。

学校生活では部活動や学生会・寮生会・体育祭でのリーダーに就いたり・学会発表、学校生活外ではアルバイトや親睦旅行を通して、多くの体験から自分の感性が磨かれたと思います。

学生として、日常生活を有意義に過ごすこともその一つだと思います。そのおかげで、先輩方や同期とのコミュニケーションに悩むこともなく、良好な人間関係を築きあげていると思われます。

それと学生時代からの趣味があることで、仕事以外の時間を充実して過ごすことができ、仕事に対するモチベーションも変わってくると思います。そこで、学生時代から気分転換になる趣味を持つことをお勧めします。

○語学力を習得し身につけてください。

私は普段英語を話す機会があるわけではありませんが、今般での日本は海外に目を向けなければ仕事として全社的な視野から厳しい危機意識の基で、ライバルの動向が恐怖です。すでに国内では飽和状態で、今後は海外で戦わなければ企業として生きていけないのが現状です。そこで、学生時代に英語力を身につけておけば活躍できるフィールドも広がり、企業から重宝される存在になると確信しています。

情報力の根源は、自らの体験・知識ではなく、豊かな感性で問題意識を持って好奇心旺盛となることだと思います。およそ物事は、前進と反省・積極と消極、両方相まって完全なのです。必ずしも頭が良いか悪いかではなく、積極的であるか否かによって決められ、人生の百般の真理であるように…。

最後に一度しかない学生時代を大いに謳歌してください。勉学やスポーツ、遊びにアルバイトなど大いに励ん

でください。学生生活で築き上げたものは、必ず今後の人生の糧になります。

社会人となって

平成21年度専攻科 土木工学専攻 修了

中原 広貴

私は、専攻科（土木工学専攻）を卒業し、現在鉄道会社に勤めております。

入社後の新入社員研修を経て、現在は建設工事に配属され、日々先輩社員や上司の厳しい指導のもと鉄道土木に関する知識・技術力を身につけています。建設工事が担当している土木工事として、橋梁の新設や改築、耐震補強、新駅建設などがあります。私は現在「こ線道路橋」と呼ばれる、道路が線路を越えるための橋梁の新設に携わっています。主に行っている業務として、施工業者と工程の打ち合わせ、工事進捗状況の資料作成などを行っています。

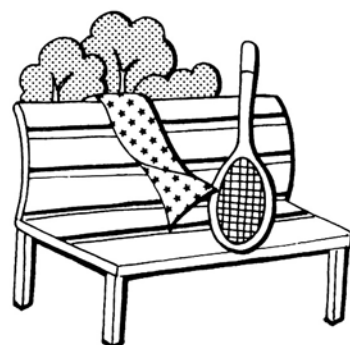
建設工事で鉄道に近接した工事を行うので、ちょっとした油断から運転事故や労働災害が発生してしまいます。また、工期も長期間を要するため、事前の打ち合わせや書類の読み合わせなどはとても重要だと思います。作業内容で危険作業はないか、列車の運転を支障しないような対策が取られているか、また保安要員等は適正に配置されているかなど毎回の打ち合わせには緊張感を持って取り組んでいます。

施工業者と当社で考え方が違うところもあり、工事の進め方で折り合いをつけるのに苦労することがあります。しかし、自分もこのプロジェクトを進めている一員だと思えば、工事がだんだんと完成に近づくにつれて嬉しくなり、仕事にすごくやりがいを感じます。1人で現場を担当するにはまだまだ技術や知識、度胸が足りませんが、担当現場を少しずつ自分が主体となって進めていき無事故でしゅん工を迎えることが今の私の目標です。

修了して感じていることとして、学生時代にもっと勉強しておけばよかったということが挙げられます。しかし、高専時代に使っていた教科書やノートは現在もすべて取っていて、分からないことがあるたびに読み返すようにしています。一度は学んだ内容なので、理解しやすく今の自分を助けてくれる教材として大いに役立っています。また、業務を行っていく上で他系統（電気、機械など）との関わりがすごく多いです。本科・専攻科では他系統の幅広い知識・技術者としてのあり方などを学ぶ

機会が多くあったので、今後の業務の中でも役立っていくと思います。

まだまだ一人前には程遠く、褒められることより叱られることの方が断然多いですが、最近は仕事を楽しめるようにもなってきました。こつとしては、何をするにも目標を持って取り組むことです。小さな目標でもいいので、日々設定した目標を達成することで、昨日の自分より今日の自分は成長しているというように考えています。その結果、少しずつではありますが、上司や同期から質問されたことに対して答えられるようになってきました。在校生のみなさんも充実した日々を送れるよう、学生生活を楽しんでください。



多方面からの支援に感謝

機械工学科 塚本 公秀

一昨年、平成21年度の新エネルギー（燃料電池・太陽電池）を応用するための基礎技術に関する人材育成プログラムで講師を務めたことで、電気自動車の重要性に啓蒙されました。時代のテーマとして機械工学科の学生に電気自動車についての学習機会を与えたいと教材開発を計画しました。鈴鹿サーキット4時間耐久レース参加を教育の動機付けとして卒業研究テーマとして計画しましたが、実際にマシンを作るとなると製作費が膨大になります。レース用のインホイールモーター（モーター組み込みの車輪）を購入しましたが百万円を超えました。資金的に一教員の力では大変困難であるため躊躇しておりました。

そうした中、専攻科1年生の必修科目である「環境創造工学プロジェクト」において「ソーラーカーの設計・製作」というテーマでPBL科目が開講されておりました。そこではすでにソーラーパネルが購入されており、車体の設計も学生達によって行われておりました。

そこで、この科目と連携する形で新たに「鹿児島高専ソーラーカープロジェクト」を立ち上げました。実際の作業では、主要なモーター、パネルと車体の設計図を用いて、特別研究として機械・電子システム専攻の堤君と卒業研究として機械工学科の阿久根君らでレースカーの製作を試みました。懸案事項であった資金については、赤坂校長から校内助成金（教育経費）を頂けることとなり、なんとか競技車両製作の目処が立ちました。作業を開始してからレース本番まで三ヶ月の期間しかありませんでした。また製作場所が必要でしたが池田機械工学科長のお力添えにより施設係から公用車庫を借りることができました。

さらにレース出場のための身体検査やライセンス取得の費用が必要になりましたが、これは後援会からの資金援助を受けました。さらには鈴鹿で行われるため競技車体200キロに加えて備品・工具の運送が必要です。これは熊本大学の参加車両と共同運搬することで大型トレーラーを3日間貸し切ることができました。

レースにはドライバーとして堤君と電気情報システム専攻の米田君と椎先生、ピット要員として技術員の上野さんと私で参加しました。最も難関と思われた前日の車検もパスし、海外からの参加車や車体価格一億円以上と言われるオリンピッククラスの車両が高速走行している同じサーキットコースを4時間走り抜きました。大学、高

専、高校クラスのエンジョイⅡクラスで参加25台中21位という結果でした。

「レースでは何が起こるかわからないからおもしろい」とスポーツの世界では言われますが、今回鈴鹿で本格的なモータースポーツに参加でき、完走した感動を得ることができました。この成功には多くの関係者の支援がありましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

鈴鹿4時間耐久ソーラーカーレース完走 4ヶ月間の製作記

機械・電子システム専攻1年 堤 功之祐

ソーラーカーの制作に誘われたのは5年次の秋の終わりだったと思う。専攻科では1年生のPBL（問題解決を通じた学習）としてソーラーカーに取り組んでいた。しかし、車の製作は難航し、先行投資の部品と設計図が残されることとなった。

私に求められたのは、これらの資材を生かして車両を製作し、レースに参加することだった。新しい卒研生が入る4月から本格的な活動開始となり、製作担当は私も入れて二人だけということになった。

実際にソーラーカーを作ると、予期せぬ事態がいくつも起きた。

まず問題になったのは時間があまりに少ないことである。参加するレースは8/1の開催であった。単純に4ヶ月しかないのだが、この間に中間テストと期末テストが行われるので、実作業時間は更に短くなることが必至であった。

設計についても問題があった。車両の構造についての規制が抽象的な書き方なので、私の設計が適合しているのか不安が残った。また、人の乗る車両の製作経験がないのでどの程度の強度があれば十分なのか見当をつけられなかった。

レースへの参加で問題となったのは技術的難しさのほかにもあった。Dream CupはFIA（国際自動車連盟）の定めるライセンス（レース専用の免許）やメディカルフォーム（ドライバーの健康診断書）など、馴染みのない手続きが必要だった。

四苦八苦しながらも、なんとかレースに間に合わせることができた。

会場に着いてみると周りのチームとの差に圧倒された。高校生のチームもあったが、ピットには20人以上もいた。社会人チームは5～6人ではあるが10年来の経験を積んだ車両を丹念に調整していた。年季の入った車両にもかかわらず、第一線級の高性能車両であった。我々はピット2名とドライバー3人。車両はかわいいと呼ばれるくらい小さかった。

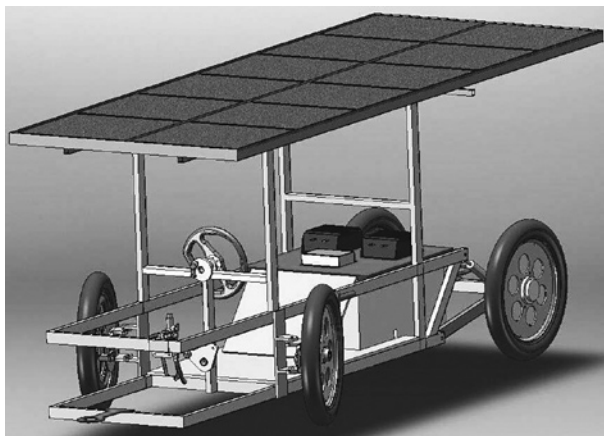
ルールに忠実に装備を選択したかいがあって、車検はスムーズに進んだ。しかし、フレームの強度不足を指摘され、検査員のアドバイスに従って夜を徹しての補強作業を行った。

レース当日は快晴で、スタート直後の混乱から抜け出

した後は、穏やかに走ることができた。

4時間ものレースは、まったく予想していなかったさまざまなことを教えてくれた。ひとつは水分補給の必要性である。もうひとつはコミュニケーション手段の必要性である。事故などの情報がピットから伝わらないのは危険なので、無線機が必要だった。

レースを終えてみれば、車両自体には余力があった。他車のように車の状態を知らせてくれるセンサーを使っていれば、もう少し積極的なレース展開に持ち込めたであろう。来年度もこの地に戻り、もっと良い成績を出す様子を思い浮かべながら、鈴鹿を後にした。



3D-CADによる車体の設計図



レース中のソーラーカー

広報委員会の活動について

広報委員会委員長 大竹 孝明

広報委員会の委員長を担当して3年目となりましたが、委員会の担当事項も広報誌、ホームページ、「鹿児島高専の日」や「高専ロボットと音楽会」のイベント等、非常に幅広くなり、広報委員会委員の皆様には大変ご協力を頂いているところです。

広報（PR）につきましては、学内の全ての事柄に関係し、皆様方のご協力が不可欠ですので、本校及び地域の活性化のため、今後ともよろしくお願いいたします。

今年度の主な活動内容と、代表例として「第2回鹿児島高専の日：小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2010」」についてご報告いたします。

1. 平成22年度の主な活動内容

- ① 「鹿児島高専紹介パンフレット（学校案内2010）」、「ポケットパンフレット（学校案内 平成22年度）」の発行
- ② 「平成22年度 学校要覧」、「2010 学校案内 中学生のみなさんへ」の発行
- ③ 「第3回高専ロボットと音楽会」の開催：6月20日（日）、鹿児島市民文化ホール（鹿児島市）
- ④ 「小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2010」」：鹿児島市科学館との共催、8月22日（日）、行政法人科学技術振興機構（JST）「地域の科学舎推進事業地域活動支援」事業
- ⑤ 九州沖縄地区高専「科学技術教育支援WG」会議への出席：8月23日（月）、24日（火）北九州高専
- ⑥ 鹿児島高専だより第63、64号の発行
- ⑦ 入学者募集ポスターの作成・配布
- ⑧ かごしま県民大学連携講座による公開講座等の実施及びPR
- ⑨ 「第20回九州沖縄地区高専フォーラム」への出席及び発表：12月11日（土）、名護市 沖縄高専
- ⑩ 「全国オーロラ講演会2010 in 鹿児島「オーロラってなんだろう？」」の開催：12月23日（木）、霧島市
- ⑪ 「第16回高専シンポジウム in 米子」への出席及び発表：1月22日（土）、米子市

2. 「小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2010」」について

鹿児島高専では、鹿児島市立科学館との連携（共催）により、工作実験教室や科学実験教室及びロボットの

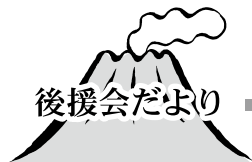
動作説明等の各種イベントを通じて科学に対する興味や関心を高め、夢や創造性を育む機会を設ける事業を計画してきました。今回、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の平成22年度地域活動支援の「地域の科学舎推進事業」に“小中学生のためのものづくり・科学教室「鹿児島高専の日2010」”のテーマで申請し、昨年度に引き続き採択されました。本企画を、鹿児島高専を地域へ広くPRし、科学技術者育成を行う本校への志願者増に向けた広報活動の一環とも位置づけ、科学実験教室や展示等を企画し、平成22年8月22日（日）に鹿児島市立科学館にて実施しました。

今年度の活動内容については、表1に示すように、科学実験教室とロボットによる演奏・紹介や各科の科学実験、学校紹介等を企画しました。イベント終了時（16時）に1234名の入館者、科学実験教室の受講者が69名であり、学内及び市立科学館等、各方面の協力で無事に終了することができました。受講者及び一般来館者へのアンケートでも、良い企画であり、来年度の継続を希望するという意見が多かったようです。

本事業は、JST、鹿児島市立科学館、技術室、広報委員会委員や企画係をはじめとした事務部等多くの支援を頂きました。ここに、深く感謝の意を表します。

表1 「鹿児島高専の日2010」の活動内容

Ⅰ 小学校5,6年生及び中学生を対象とした科学実験教室(事前応募)	
①ウインドカー工作教室、	②電子回路実験教室
③UFO キャッチャー作成教室	
④ライントレーサロボットプログラミング製作教室	
⑤ソーラーエコハウスデザイン工作教室	
⑥ソーラーカー工作教室	
Ⅱ ロボットによる演奏・紹介や各科の科学実験、学校紹介等(鹿児島市立科学館の一般来館者)	
1. 演奏ロボットによる音楽会	
2. 学生が製作した高専ロボコンのロボット展示および紹介等	
3. 一般教育科(物理)、機械、電気電子、電子制御、情報、都市環境デザイン工学科による実験及び展示	
①鹿児島発惑星行き～はやぶさはもどった、あかつきは旅立った～	
②水素でうごくクルマ	
③体験！エレクトロニクスショー	
④体験しよう！電子制御の世界、⑤ネットロボ	
⑥人が憩えるまちづくりをめざして	



後援会に携わって

副会長 長谷川 悦子

早いもので、後援会に携わって4年が過ぎようとしています。

そして後援会副会長という役をお引き受けしてから3年目となり、私のような者でよかったのかと思いつつ、高専という馴染みの薄かった学校のことを学びながら、後援会の役割について考えてきました。

お陰様でたくさんの方との出会いがあり、意見の交換をしながら後援会としての取り組み方を学ばせて頂きました。

やはり一番に考えることは「学生たちのために何ができるか」ということだと思います。

昨年度は、先生方の要望もあり、就職活動に役立つ「性格診断テスト」の経費を予算に組み入れました。

後援会費の運用については、いろいろと難しい問題もありますが、学生たちの頑張りを応援できるような使い方をしていきたいとは思っております。

また、後援会の活動の一つに支部会がありますが、昨年11月26日に行われた奄美支部会に出席させて頂きました。

昨年の10月、奄美大島は豪雨災害にみまわれ、通信もしばらく途絶えていたということで、奄美の学生たちは不安だったり、心配していたことと思います。

実際に道路を走ってみると、まだあちらこちらで土砂崩れの跡があり災害の怖さを目の当たりにしました。

しかし、保護者の方々は本当に温かく迎えて下さり感動いたしました。

奄美大島の高専生をもっと増やしたいという熱い思いを話して下さり、途絶えていた保護者会も復活させたいということで、後援会の方でも何かお手伝いが出来ないかまた考えていきたいです。保護者の方々の積極的なお話を伺って、こちらのほうがエネルギーを頂いて帰ってきました。

このように後援会に携わっていると、高専生みんなが我が子のように感じて、みんなそれぞれに充実した学生生活を送り、進学・就職に頑張っているのを感じています。

高専との出会いに感謝

機械工学科5年理事 茶園 かおり

高専と出会って7年。後援会理事としての5年間で、次男の卒業と共に終わります。

この7年間、アッという間に過ぎた気がします。

思えば、長男が中学3年の夏、父親が急死。

中卒で働くことを考え始めた長男の元へ、同僚の方から「親父は、お前たちが高専に入学することを望んでいました。」という事が伝えられました。

その時から、息子たちは高専入学を意識するようになりました。

縁あって、長男と次男が高専に入学することができました。

入学式の日桜の美しさは、今でも脳裏にやきついていきます。それが、高専との出会いでした。

主人が息子たちに託した高専と、わたしも関わりたいと思い、次男入学の際、後援会理事を引き受けさせて頂きました。

初めての理事会、学校関係者や先輩理事の皆様のなかに入り、ものすごく緊張しました。

そんななか、学校の情報は聴きもらしたくないと思い、三主事の先生の話には、一心に耳を傾けたように記憶しています。

理事会も、回を重ねるうちに、先輩理事の皆様と知り合いになり、情報交換などができるようになりました。

理事として5年。授業参観、支部会、保護者懇談会など、様々な行事に参加し、高専について知ることができました。また、保護者の皆様とも知り合うことができました。

名ばかりの理事で、何もお役に立てませんでしたが、クラスの保護者の皆様の温かい支えがあったので、5年間続けてこれたと感謝しています。有り難うございました。

高専と出会えたお陰で、常務理事の岩元様はじめ、多くの理事の方々と接し、励ましと力をもらいました。有り難うございました。

7年間、息子たちに関わってくださった先生方、大変お世話になりました。

先生方のご指導で、物作りの技術を身につけて頂きました。有り難うございました。

父親の一言が、高専との出会いに繋がったことを感謝しつつ、これからの人生を歩んでいって欲しいものです。

最後になりましたが、鹿児島高専と後援会のますますのご発展をお祈りいたします。

思わぬ再会から

電気電子工学科 5 年理事 蓑田 慎一

平成18年4月、長男が高専に入学しました。

入学式から帰ってきた妻から、いろいろ報告を聞いていると、「担任は、英語の先生でプロフィールはこれよ。」と、渡されたプリントを見ると、嵯峨原昭次先生と見覚えのある名前と経歴に驚きました。なんと、30年振りに目にした高校の同級生だったのです。思わず妻に、確認しました。

「やせていた？」

「ううん、どっちかというとポッチャリ。」「???…」

話がかみ合わないので、思い切って電話をしました。やっぱり間違いなく同級生でした。すぐに再会し、変わった風貌にお互いに驚き、懐かしい話で盛り上がりました。

長男のことをお願いして帰ろうとしたら、「蓑田君、理事を引き受けてくれないかな？」これも「縁」です。先生が担任のうちは、と引き受けたのですが、結局5年間務めさせていただきました。

理事としては、出席出来ない時は代わりに妻が授業参観とか講演会などの行事に関わらせてもらいました。クラスのお母さん方と担任の先生と御弁当を食べながらの座談会とか、楽しいこともありました。校内清掃とかご協力いただき、ありがとうございました。あまりお役には立てなかったことは、申し訳なく思っております。

でも、理事をしたことで、高専の先生方が学生一人一人に熱心にご指導していただいていることや、行事や後援会活動を通して理解することができました。

5年間お世話になりました先生方、常務理事の岩元さん、理事の方々、野球部の保護者の方々、ありがとうございました。

長男も卒業後社会人として出発します。5年間共に学んだクラスメイトとその保護者の皆様が幸せであるよう願います。

最後に、次男も高専生として学んでいます。これからも、保護者として後援会活動、クラブ活動(野球部)を応援していきたいと思います。

親子共々楽しかった5年間

電子制御工学科 5 年理事 二階 直美

息子が高専に入学が決まった時、本人は勿論、親の私達もビックリしました。その時の様子は今もはっきり覚えてます。それがもう、5年も前の事とは…月日が経つのは早いものですね。

高専といえば普通の高校とは違う何かがあると思うのですが、まず感じた事は1年生は寮に入らないといけない、という事でした。うちは高専まで5分程度です。それでも入らないといけないという事に戸惑いましたが、本人は寮での生活がとっても為になったそうです。先輩との繋がり、同級生との繋がり…寮に入る意味がよくわかりました。

うちのクラスは子供達が仲が良く、とっても楽しく5年間を過ごせた様です。昨年の高専祭(4年生)では応援団・櫓絵どちらも優勝する事が出来、とっても喜んでました。どちらもとり組んでる姿を見て凄いな〜と感心させられました。

進路については、息子は4年生の夏までは大学への編入を希望してましたが、結局は就職希望に変わり4月末には内定をもらいました。世の中が厳しいこの時期でも、高専で5年間一生懸命学べば、最後には自分の望む就職が出来る事を身をもって実感したようです。

私は2年からクラスの理事を引受け後援会や先生方と関り、様々な事を学ばせて頂きとても良かったと思ってます。また、クラスの保護者の方々にはいつも協力して頂いて大変助かりました。

授業参観や保護者懇談会などにはいつもたくさんの方が出席してくれたり、4・5年生の時に開催した保護者懇親会の時も多くの方が出席して下さい、とっても楽しい時間を過ごす事が出来ました。皆さんにはとても感謝しています。有難うございました。

親子共々何かと成長出来た5年間でした。本当にお世話になり有難うございました。

最後に一言、子供達が迷惑をかけた先生方、本当に申し訳ありませんでした。そして、最後まで暖かく見守って頂き有難うございました。子供達には高専で過ごした5年間は一生の宝物になると思います。

想い出

土木工学科 5 年理事 宮木 里美

息子が中三の冬休みの前、最終面談で、高専はハイレベル！志望校の変更を指導された。

「だめ元で受けさせてください。」とお願いした。ロボコンで高専の名前は知っていた、というより私自身高校で電車通学している時、同じ車両に高専生が乗っていて、「かっこいいー！」と友人とキャキャーいっていたことが脳裏に淡い想い出としてあった。

もし、息子が高専に行けたらー。

当初、本人はさして興味はなさそうだった。

ただ、数学が好きというところが最大の称賛で、高専の事、ホームページで「見て見て、こんな学科やクラブがあるよ」と彼の耳元で、目の前で宣伝しまくった。

まるで私が受験するかの様に、まさにあこがれの君は、こういう高校に行っていたのかと再発見しワクワクした。

ようやく、志望校に高専と書いてくれた息子だったが、三者面談でのイエローカードに愕然。高専の事を調べれば、調べるほど、高専の魅力にとりつかれた自分。

こうなったらイメージトレーニングしかないとおもい、雪のちらつく寒い日に高専へ行き、自分がPTAで高専に来ている絵を頭に描いた。

さて、あっという間に五年が過ぎた。今年息子は土木科の専攻科に進学することになった。今思えば、いつもジャケットを着こなしていたあこがれの君は、専攻科生だったにちがいない。この原稿を書きながら、私の脳は活性化し、3？年前のころにタイムスリップ。

このことは、家族にはじめてのカミングアウト。

この機会を与えてくれた息子よ、ありがとう。

理事を卒業して

情報工学科 5 年 保護者

5 年前に我が子が高専の門をくぐって、今卒業の時を迎えようとしています。あっという間に 5 年間を終えて、同時に親の理事も満期となり、ホッとしているところです。

子供の入学と同時に理事を引き受けました時は、これから 5 年間もクラスでたった 1 人やっっていかなければならない不安と心細さでいっぱいでしたが、理事会に出席するみなさんも同じ境遇の方たちで、とても温かく親切にいただきました。

理事になれば、子供は学校にお任せ状態で保護者会にも積極的に参加していなかったかみしれず、学校の様子など全く理解していなかっただろうと思います。理事会に出席して、学校の先生方と理事とで真剣に話し合いを重ねる中で新たな提案が生まれてくる事もたくさんありました。

みな学校のため、学生を思っの事であり大変意義のある事でした。校長先生をはじめ先生方にもお忙しい中会議に足を運んで下さった事、感謝しています。

三役会の方々も三役会での話し合いや、支部会を開いた際には離島まで足を運んで親睦を深めて下さった事頭が下がる思いです。そして固くなりがちな理事会を持ち前の話術で盛り上げてくださりありがとうございます。

また、学生たちもロボコン全国大会優勝とのことで大変喜ばしく、他の部活でも外部講師を招いて指導を行っており良い結果を残している事が分かります。これからも頑張っいただき、全国に高専の名を広めていっほしいと願います。

5 年間、娘とともにお世話になりましてありがとうございました。

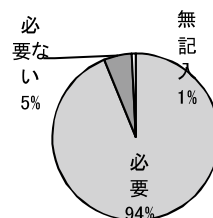
☆1年生授業参観・懇談会アンケート集計結果☆

①今回のこのような会は必要ですか？

当日参加＝159名

Q1全体懇談会について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	27	25	15	30	24	121
必要ない	0	3	1	1	2	7
無記入	0	1	0	0		1
計	27	29	16	31	26	129

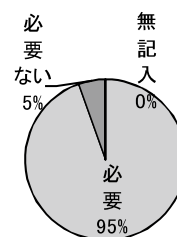


意見詳細

- ・単位説明は必要ない。大体分かるし読めば分かります。
- ・知らなかった事等の資料や話が聞ける。
- ・必要とは思いますが平日はなかなか参加出来ない。
- ・学年別で学年の情報を知りたい。
- ・学校の状況が分かるので良い。(他2名)
- ・内容が聞こえなかった。
- ・状況報告が聞けるので必要。

Q2授業参観について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	26	26	16	31	23	122
必要ない	1	3	0	0	3	7
無記入	0	0	0	0	0	0
計	27	29	16	31	26	129

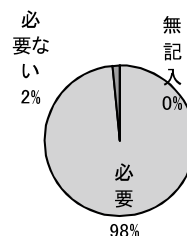


意見詳細

- ・子供の授業風景が見れるので。(2名)
- ・どのような授業を受けているか興味があります。
- ・なかなか学校の様子とか話さないの・・・。
- ・5年生の研究を見れて分からないなりに面白く良かった。質問とか出来たら良かったのですが・・・。
- ・親・子で現状が話せたら良いのでは？
- ・学科の説明分かりやすかったです。
- ・子供たちの様子が分かる。(他2名)

Q3クラス懇談会について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	27	27	16	31	26	127
必要ない	0	2	0	0	0	2
無記入	0	0	0	0	0	0
計	27	29	16	31	26	129

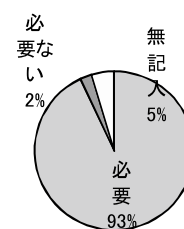


意見詳細

- ・クラスの状況が分かるので。(他1名)
- ・少しでも親同士が交流出来たら良い。
- ・年2回しかない機会ですからクラスの雰囲気とか知りたいです。
- ・年3回は必要である。
- ・学科の説明は良かったです。
- ・年2回でもクラスの保護者の方と懇談できるのは良い。
- ・和やかなクラス懇談会が出来たらもっと良いかなと思います。
- ・先生の事が分かる。
- ・楽しく話を聞けました。
- ・同じ中学出身の方がいないので必要。

Q4個人面談について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	24	27	14	30	25	120
必要ない	1	2	0	0	0	3
無記入	2	0	2	1	1	6
計	27	29	16	31	26	129



意見詳細

- ・先生に聞きたいことが直接出来て良い。(他1名)
- ・1年の頃は何がどうだか分からない為必要ない。
- ・寮生活がある分、気になることがあるのであった方が良い。(他1名)
- ・今のところ必要性を感じない。
- ・今の子供の様子が分かるので必要。
- ・寮に入る1年生はまだ必要なのでは？
- ・なかなか子供から学校、クラスの様子を知ることが出来ないの。
- ・「前回受けなかった方対象」ということでしたので今回受けられなかったが毎回対象にすることはできないのでしょうか？

②保護者からの要望を受けて、年度初めの早い時期、また梅雨時を避けて今年度5月15日(土)に保護者懇談会が開催されました
Q1開催の時期について

●丁度良い 115名

●もう少し後が良い 13名

詳細↓

5月下旬	1名			
6月	初旬 6名	中旬 3名	下旬 1名	
7月	初旬 3名	中旬 0名	下旬 0名	

理由)

- ・初めての試験の後が良い。勉強の取り組みが悪い場合の早目の対応が出来るので。
- ・少し学校生活に慣れた頃。(他2名)
- ・まだ学期が始まったばかりでよく分からない。
- ・担任の先生がまだ子供について把握していないと思うので。
- ・仕事の都合で。

●その他 1名

理由)

- ・いつ頃とは決まてはいないのでその時の状況で参加出来たら良いと思う。

Q2その他・ご意見など

- ・懇談会は何をするのでしょうか？
- ・この時期の個人面談は先生も子供の事をまだよく知らない状態で親も何を話したらよいか分からなかった。
- ・週末の金曜日がいい。

③学校に対する要望など

- ・単位等の説明を受けよく理解出来ました。
- ・寮生活の事も子供に聞くと煩がられあまり話をしてくれないのでこのような機会に話を聞かせて頂けると助かります。
- ・担任の先生がとても心配りして下さる為に安心しております。悩みは尽きませんが・・・
- ・高専祭の内容(時間・中身等)が前もってお知らせ頂けたらありがたいです。(他1名)
- ・今年の体育祭が雨のため開催か分かりませんでした。中学等は連絡網がありましたがこれは無理でしょうか？
- ・初めての事が多くて文化祭、体育祭などの行事がよく分かりません。
- ・毎月の学校行事、学級通信みたいな物が欲しい。メールでもよいので。(他2名)
- ・あまりにも自由すぎて子供にけじめが無いように思います。
- ・初めての体育祭ですが学生主体とはいえあまり良い雰囲気に見えませんでした。
- ・正門の警備について誰でも入れる状態で大丈夫なのか心配だ。(他1名)
- ・体育祭で服装とか自由すぎてもう少しきちんとした体育服とか着たらどうか。出る種目が1つでもあると楽しみがあるのだが。

④後援会に対する要望など

- ・お忙しい中子供達の為に御尽力下さりありがとうございます。
- ・後援会の方々のおかげで様々な事柄が上手く運営されていると思います。ありがとうございます。(他2名)
- ・案内係ですがペナルティ清掃を月1回ではなく何回か行って欲しい。
- ・学校、行事関係等詳しい情報が少ないと思います。1年の保護者は特に分かりません。
- ・役員の方々は大変ですが頑張ってください。

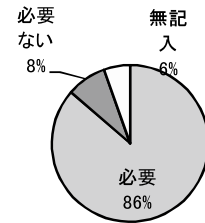
☆2年生授業参観・懇談会アンケート集計結果☆

①今回のこのような会は必要ですか？

Q1全体懇談会について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	20	19	20	16	20	95
必要ない	0	4	3	0	2	9
無記入	3	0	0	1	2	6
計	23	23	23	17	24	110

当日参加＝138名

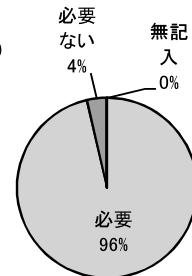


その他・意見詳細

- ・1年生だけで良いのではないのでしょうか。
- ・大変有意義な話をたくさん聞かせてくれてありがとうございました。
- ・毎回同じような話で必要ない。
- ・学校からの説明を聞くだけで懇談会ではないと思う。
- ・学校の様子を知る機会があるのはいいと思う。(他1名)
- ・子供からの情報がほとんど無いので出席させていただくと色々話が聞けて良かった。
- ・学校内の状況や就職、進学状況を知り得て助かります。
- ・毎回出れるとは限らないのでいつもあればいいかな。
- ・前回と違う内容も知る事が出来て良かったです。(忘れていた事もありました)

Q2授業参観について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	22	23	22	17	22	106
必要ない	1	0	1	0	2	4
無記入	0	0	0	0	0	0
計	23	23	23	17	24	110

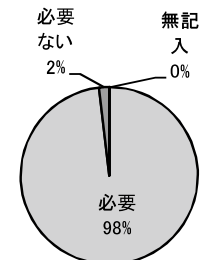


その他・意見詳細

- ・子供の様子、授業の雰囲気を知れるのでありがたい。(他7名)
- ・学校に伺う事も少ないので参観は楽しみにしております。
- ・授業態度が悪いと聞いていたので気になっていた。
- ・子供からの情報がほとんど無いので出席させていただくと色々話が聞けて良かった。
- ・毎回出れるとは限らないのでいつもあればいいかな。
- ・1年生のみ必要。
- ・見てみたい！！

Q3クラス懇談会について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	23	23	22	17	23	108
必要ない	0	0	1	0	1	2
無記入	0	0	0	0	0	0
計	23	23	23	17	24	110

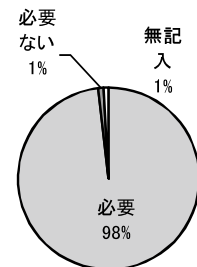


その他・意見詳細

- ・時間がもっとあれば良いのですが。仕方ないですね。
- ・年1回位でよいかな？クラスの状況などを知りたい。
- ・クラスの親御さんにお会いする機会も無いので必要だと思います。
- ・クラスの方のお名前がなかなか覚えられないのでこういう機会にいろんな方とお話ができるので。
- ・子供からの情報がほとんど無いので出席させていただくと色々話が聞けて良かった。(他1名)
- ・年に数回しか話を聞く事が出来ないで良い機会です。
- ・毎回出れるとは限らないのでいつもあればいいかな。
- ・クラスのコミュニケーションの場となり保護者の方々のお顔を拝見することで繋がりができてくるような気がする。

Q4個人面談について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	23	23	22	17	23	108
必要ない	0	0	1	0	0	1
無記入	0	0	0	0	1	1
計	23	23	23	17	24	110



その他・意見詳細

- ・学校での子供の様子を知る良い機会になっています。
- ・希望者だけで良い。(他1名)
- ・懇談会、授業参観とは別の日に時間を取って欲しい。
- ・もう少しゆっくり話をしてみたいです。
- ・寮に入っており日頃の様子が分からないので聞く機会になる。
- ・出来るだけ希望者が全員出来るようにして欲しいです。
- ・子供からの情報がほとんど無いので出席させていただくと色々話が聞けて良かった。
- ・とても不安な事ばかりなので色々先生に直接お願いがしたいので必要。(他2名)
- ・とても重要である。担任と子供の話が出来るので楽しみである。
- ・毎回出れるとは限らないのでいつもあればいいかな。
- ・出来れば必要を感じた時に予約なり取って面談できたらと思います。
- ・学校での様子とか勉強内容とか詳しくお聞きする事ができ、これからも必要だと思います。
- ・気になっている事を担任の先生に直接話せる場があるのは良いのではないかな。

②保護者からの要望を受けて、年度初めの早い時期、また梅雨時を避けて今年度5月15日(土)に保護者懇談会が開催されました。
Q1開催の時期について

●丁度良い 100名

●もう少し後が良い 6名

詳細↓

5月下旬 1名

6月

初旬 2名

中旬 1名

下旬 1名

7月

初旬 1名

中旬 0名

下旬 0名

理由)

●無記入 4名

理由)↓

出席していないので何とも言えない。

Q2その他・ご意見など

- ・懇談会でこういった事が話し合われるかが分からないので内容が分かれば参加したいです。
- ・出来るだけ金曜日を利用して頂けると子供を連れて帰れます。
- ・たまたまですが娘の学校行事とかぶり1人ずつ都合を聞く訳にはいかないと思いますが違う日だったらなあと思いました。(両方行きましたが)

③学校に対する要望など

- ・体育祭の放送や進行などが全く分からなかったです。もっと分かりやすい放送が欲しかった。
- ・子供の様子がなかなか分からないので情報はどんどん欲しいです。
今回のような会、HPでの情宣など…何でも欲しいです。
- ・授業参観は実習も見たいです。
- ・寮生ですがペナルティも郵送で周知して欲しいです。(マイナスを取り戻せる時期内に)
- ・今まで通りでいいです。
- ・TOEICを受験させて頂いてますが点数を知りたいです。成績表に点数を明記して頂けませんか。
- ・寮について聞きたい事があるが機会が無い。質問がある位なら自宅通学を！という事なのかな？
- ・授業態度にもクラスの特徴があった様に思います。お忙しい中この様な機会を設けて頂きありがとうございます。
- ・予防接種の同意書は頂いていません。
子供に配布されると親元に届くのが遅くなりますので出来ればお知らせ頂きたいと思います。
いまだき保護者は殆ど携帯電話を持っているので緊急の周知事項はメールを活用して欲しいと思います。
- ・遠い所から足を運ぶ方が多い中、個人面談を希望した場合に帰りが遅くなってしまうので、もし先生の都合がよろしければ午前中に面談して頂きたい。
- ・草払い等の清掃活動に協力したいが物理的に無理で心苦しく感じていました。(霧島地区の方ばかり負担をかけるので)
本年のように予算が許されるなら業者さんに依頼して頂ければ有難いです。
- ・教室がよく分からない。
- ・盗難について再度良い案を考えてもらいたい。
- ・クラスの窓(カーテン)、天井、設備…少し整えてあげて欲しい。ロッカーもボロボロですね…
- ・学習面だけでなく生活面でも指導して頂きたい。(人として大切な事)
- ・自由な雰囲気は良いのですが校則(ルール)を守る事も大切だと思います。

④後援会に対する要望など

- ・部活の外部コーチの件なのでこれに書く事が正しいのか分かりませんが外部コーチが活かされている部とそうでない部があると思います。初め聞いた時にとても良い取り組みだと思ったので残念です。
- ・準備等大変な事でしょう。いつもご苦労様です。お陰様で良い参観が出来ました。
- ・役員の方はお忙しい中ありがとうございます。(他6名)
- ・メカトロニクス部に子供がいますが今年はたくさんさんの予算を頂きありがとうございました。
- ・ネームはとても良いと思います。(他1名)
子供がお世話になっている方の顔が分からないのでお礼を言える良い機会になりました。
- ・後援会の行事等こまめに連絡して頂いてありがたく思っています。これからよろしくお願いします。(他1名)
- ・遠いところでも保護者懇談会をやって頂いてありがたく思っています。
- ・支部会が語学留学の帰省と重なり行けませんでした。何日か家を出てしかも外国から帰って来る日には子供から話を聞きたいです。日をずらしてもらえると助かります。
- ・昨年度は無かった資料(クラブ、同好会名簿や学級役員一覧)、部活の成績などがあり良かったです。
- ・頑張っている様子が分かり安心しました。
- ・いつも丁寧なご説明と準備をありがとうございます。毎回感謝しています。

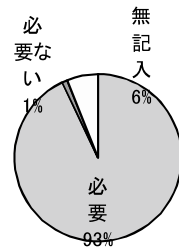
☆ 3年生授業参観・懇談会アンケート集計結果 ☆

① 今回のこのような会は必要ですか？

当日参加＝132名

Q1全体懇談会について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	23	22	13	19	15	92
必要ない	0	1	0	0	0	1
無記入	2	1	1	1	1	6
計	25	24	14	20	16	99

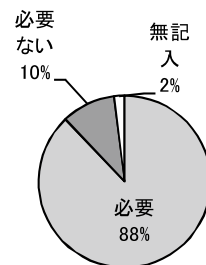


その他・意見詳細

- ・学校の様子や分からない事などを知る事が出来た。
- ・全体的な学校の流れ、様子が分かるのでぜひやってほしい。
- ・年1回ならやって欲しい。
- ・学校に入れる機会であり親としては少し安心する。学校の意見も聞けて良いと思う。
- ・個人的には必要ないかなと思い授業参観から参加しました。
- ・学校との接点が少ないので情報が欲しいので必要！
- ・なかなか出席出来ないので回数が多い方が良い。

Q2授業参観について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	20	22	11	18	16	87
必要ない	5	2	2	1	0	10
無記入	0	0	1	1	0	2
計	25	24	14	20	16	99

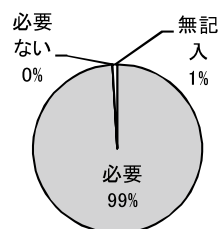


その他・意見詳細

- ・子供達の授業風景を見る良い機会だと思います。(他4名)
- ・子供の服装などを見るのに良い機会だと思います。出来れば体育はやめて欲しい。
- ・今回は体育だったので少し残念でした。
- ・授業参観は子供が嫌がる。
- ・保護者が大勢来ると授業の邪魔になるのでは？
- ・体育の授業参観はどこへ行けばいいのか迷いました。出来れば教室での授業が良かったです。
- ・3年生については専門の授業や実験等、高専らしさの感じられる授業を見てみたかったです。(他1名)
- ・あまり必要ないのではと感じました。
- ・1,2年だけでもいいのではないのでしょうか。
- ・日頃、家では見られない表情が見えます。3年生迄は要実施希望。
- ・今回はおもしろかったです。
- ・子供達の授業の様子、また実験棟での様子も見学できて良かったです。
- ・専攻科の方の説明、話がとてもすばしかったです！
- ・今年度は卒業などの方も見学できて、又、専攻科生の生の話も見聞きできてとても良かった。
- ・がんばってるなあと感じました。
- ・授業参観だけでなく専攻科の見学もさせて頂き普通では見られない学校の様子、専攻科生の様子が分かりとても良かったです。

Q3クラス懇談会について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	25	23	14	20	16	98
必要ない	0	0	0	0	0	0
無記入	0	1	0	0	0	1
計	25	24	14	20	16	99

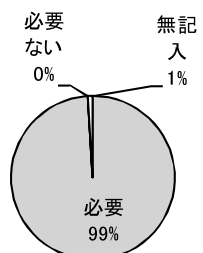


その他・意見詳細

- ・担任の先生のお話を聞くことがないのでぜひやって欲しい。(他1名)
- ・クラスのお母さん達と接する機会がないので必要！
- ・どちらとも言えない。
- ・クラスの状況をもう少し知りたいでした。
- ・なかなかクラスの親とも会えないので会ってコミュニケーションをとったりできる場だと思います。(他2名)

Q4個人面談について

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	25	24	14	20	15	98
必要ない	0	0	0	0	0	0
無記入	0	0	0	0	1	1
計	25	24	14	20	16	99



その他・意見詳細

- ・今度の子供の進路や学校での様子を先生から聞きたい。
- ・学校での様子が聞けるのでぜひ必要です。(他1名)
- ・学校から近いと時間が遅くなるのが問題。
- ・勉強、生活面、学校での様子を教えてもらいたい！
- ・PTAの日に集中して行わないでその前後(当日も含めて)の平日でも行って欲しい。(待ち時間が長いので)

②保護者からの要望を受けて、年度初めの早い時期、また梅雨時を避けて今年度5月15日(土)に保護者懇談会が開催されました
Q1開催の時期について

●丁度良い 87名

●もう少し後が良い 9名

詳細↓

5月下旬 0名

6月

初旬 1名

中旬 1名

下旬 0名

7月

初旬 2名

中旬 2名

下旬 1名

理由)

- ・もう少し学校に慣れた頃で。
- ・個人的に忙しい。
- ・仕事をフルでやっているのでは有給があってもなかなか取れない為、月をまたいでなら取れると思うから。
- ・前期の成績結果がわかってから。

●無記入 3名

理由)↓

何とも言えない。

Q2その他・ご意見など

- ・早い時期の方が先生の顔も見れてぜひ続けていただきたいです。

③学校に対する要望など

- ・春休み、夏休みがながすぎるのでは
- ・部活動、せめて大会前は土日にも練習させて欲しい。冬、夏休みも全然無くて体力劣えそうです。
- ・進路についてもう少し具体的に学科別に情報が欲しい。(会社名、学校名とか)
- ・いろんな情報は早めに連絡してほしい。
- ・教育の向上はもちろんであるが盗難等の解決をぜひ実行してください。成績が良くても将来はきっと悪事に染まるのでは？本校の名声に傷がつく原点となるのでは？
- ・前期・後期共成績表の発送が遅い。
- ・ホームページで多くの情報をお願いします。楽しみにしております。
- ・授業中、学生の態度がひどいのに驚きました。先生に対し「早く授業終われよ！」「おまえの授業わかんねー」などと大声を出す。先生の指示を聞かない。机につぶして寝ている・・・高校生か？と呆れた。残念です。
まじめな子供さんには迷惑な事です。自分の子にはよく話をします。
- ・携帯の使用をもう少し(1～3年の間)考えていただければと思います。
- ・社会に出て通用する考え方を育てるように教育して下さい。
- ・給食の(寮生に限り)ごはんがおいしくないらしい。もし米のランクアップをしてくださるのなら少々給食費が値上がりしても大丈夫かなと思います。子供が不満に思っています。
- ・1年生から5年生まで年齢及び身体の成長期の違うこともたちが、5年間で高専生としての自覚と誇りを養い社会に出てその意識を持ち続けられるだけの教育と生活指導をこれからも徹底して下さい。

④後援会に対する要望など

- ・大変お世話になりありがとうございます。(他4名)
- ・連絡などが少し遅い気がするのですが・・・
- ・いつも大変ですががんばってください。(他1名)
- ・これまで通り学生への支援をおしみなくよろしくお願いします。

平成23年度

No. 1

平成23(2011)年4月				平成23(2011)年5月				平成23(2011)年6月				平成23(2011)年7月			
曜 日	行 事		本 科 出 席	曜 日	行 事		本 科 出 席	曜 日	行 事		本 科 出 席	曜 日	行 事		本 科 出 席
	本 科	専攻科			本 科	専攻科			本 科	専攻科			本 科	専攻科	
1 金		送付交付式	1 1	1 日		専攻科	12 12	1 水		前期学力選抜判定会議	7 7	1 金		専攻科	12 12
2 土			2 2	2 月	海の日代休		13 13	2 木			7 7	2 土			60 33
3 日			3 3	3 火	憲法記念日		14 14	3 金			8 8	3 日			33 34
4 月		入学式(10時)／入学式(14時)／第2学期(9時)／部活動発表／オリエンテーション開始(学年別)	1 1	4 水	みどりの日		15 15	4 土			25 25	4 月	短縮授業／編入学編入受付(8日主で)		11 12
5 火		入学式(10時)／入学式(14時)／第2学期(9時)／部活動発表／オリエンテーション開始(学年別)	2 2	5 木	こどもの日		16 16	5 日			26 26	5 火	短縮授業		11 12
6 水		休講／身体測定／写真撮影／バレーボール大会／バス旅行／総合学力調査	3 3	6 金			4 4	6 月	前期学業中間試験／成績入力開始(13時)		1 8	6 水	短縮授業		11 12
7 木		前期学力選抜開始／前期学力選抜科目受検開始／前期学力選抜科目受検開始(午後)	1 1	7 土			17 17	7 火	前期学業中間試験／欠課時数入力(仮断り)(15時)		2 8	7 木	短縮授業／幕七ツ飾りバレー		11 12
8 金		前期学力選抜受付／前期学力選抜受付	1 1	8 日			18 18	8 水	前期学業中間試験		3 8	8 金	短縮授業		35 35
9 土			4 4	9 月	再試験結果入力開始(10時)		4 4	9 土	前期学業中間試験		4 8	9 土	短縮授業		36 36
10 日			5 5	10 火			4 4	10 金	運営会議		9 9	10 日	短縮授業		37 37
11 月		海部記念館入館式(11時10分)	1 1	11 水			4 4	11 土			27 27	11 月			12 13
12 火		心電図検査(8時0分)	1 1	12 木	推薦書受付(18日主で)		4 4	12 日			28 28	12 火			12 13
13 水		1年生研修	1 1	13 金	再試験結果入力開始(17時)／運営会議		5 5	13 月			8 9	13 水			12 13
14 木		前期学力選抜科目受検開始(午前)／前期学力選抜科目受検開始(午後)	2 2	14 土	対面学力調査		19 19	14 火			8 9	14 木			12 13
15 金		校務進	2 2	15 日			20 20	15 水			8 9	15 金			13 13
16 土			6 6	16 月			5 5	16 木			8 9	16 土			38 38
17 日			7 7	17 火			5 5	17 金	成績入力締切(12時)		10 10	17 日			39 39
18 月			2 2	18 水	短縮授業／消防訓練		5 5	18 土			29 29	18 月			13 14
19 火		短縮授業／学業進捗訓練	2 2	19 木			5 5	19 日			30 30	19 火	前期学力選抜時間割発表		13 14
20 水		短縮授業／開校記念講演	2 2	20 金	短縮授業／校務進		6 6	20 月			9 10	20 水	欠課時数入力開始		13 14
21 木		前期学力選抜科目受検開始(午前)／前期学力選抜科目受検開始(午後)	3 3	21 土	前期学力選抜試験		21 21	21 火			9 10	21 木			13 14
22 金		短縮授業／学生総会／募生総会	3 3	22 日			22 22	22 水			9 10	22 金	短縮授業		13 14
23 土		募生マツチ	8 8	23 月			6 6	23 木			9 10	23 土	編入学試験		14 14
24 日			9 9	24 火	前期学業中間試験時間割発表		6 6	24 金	校務進		11 11	24 日			40 40
25 月			3 3	25 水			6 6	25 土			31 31	25 月			41 41
26 火			3 3	26 木			6 6	26 日			32 32	26 火	欠課時数入力開始／後学期進捗把握(15時)		14 2
27 水			3 3	27 金			7 7	27 月			10 11	27 水	編入学判定会議		14 3
28 木		歓迎の夜／推薦書特別研究	4 4	28 土	保護者懇談会		23 23	28 火			10 11	28 木	前期学力選抜		14 4
29 金		昭和の日	10 10	29 日			24 24	29 水	短縮授業／成績会議(午後)	短縮授業	10 11	29 金	前期学力選抜／成績入力開始(15時)		5 5
30 土			11 11	30 月	欠課時数入力開始		7 7	30 木			10 11	30 土			42 42

平成23(2011)年8月				平成23(2011)年9月				平成23(2011)年10月				平成23(2011)年11月			
曜 日	行 事	本 科	回 数	曜 日	行 事	本 科	回 数	曜 日	行 事	本 科	回 数	曜 日	行 事	本 科	回 数
日	本 科	専攻科	本 科 出 席	日	本 科	専攻科	本 科 出 席	日	本 科	専攻科	本 科 出 席	日	本 科	専攻科	本 科 出 席
1 月	編入学会発表 前期学術大会 入賞発表/入賞発表(11時)	補講/客室近所・補講	6 2 80	1 土			70	1 土			95 100	1 火	高等学学生代休		105 112
2 火	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	7 3 81	2 日			71	2 日			96 101	2 水	開講記念日学生代休	作講	106 113
3 水	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	8 4 82	3 月	全国高等体育大会 (関東・信越地区)		72	3 月	後学期授業開始/短期授業 全体大会		1 1 90	3 木	文化の日		107 114
4 木	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	9 5 83	4 火	全国高等体育大会 (関東・信越地区)		73	4 火			1 1 91	4 金			4 4 111
5 金	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	10 6 84	5 水			74	5 水			1 1 92	5 土	後期学術/社会人選抜試験		108 115
6 土	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	11 7 85	6 木			75	6 木			1 1 93	6 日			109 116
7 日	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	12 8 86	7 金	留学生・バレー/運営会議		76	7 金	留学生・バレー/運営会議		1 1 94	7 土	4年生工場見学旅行		4 4 112
8 月	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	13 9 87	8 土			77	8 土			97 102	8 火	4年生工場見学旅行		5 5 113
9 火	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	14 10 88	9 日	運営会議		78	9 日	運営会議		98 103	9 水	4年生工場見学旅行		5 5 114
10 水	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	15 11 89	10 月			79	10 月	体育の日		99 104	10 木	4年生工場見学旅行		5 5 115
11 木	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	16 12 90	11 火	再試験結果入力開始(13時)		80	11 火			2 2 95	11 金	4年生工場見学旅行		5 5 116
12 金	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	17 13 91	12 水			81	12 水			2 2 96	12 土	運営会議		110 117
13 土	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	18 14 92	13 木			82	13 木			2 2 97	13 日			111 118
14 日	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	19 15 93	14 金	校務進		83	14 金	校務進		2 2 98	14 月			5 5 117
15 月	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	20 16 94	15 土	プロコン本戦 (一関)		84	15 土	プロコン本戦 (一関)		100 105	15 火	短期授業/授業参観(1~3年 生)		6 6 118
16 火	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	21 17 95	16 日	プロコン本戦 (一関)		85	16 日	プロコン本戦 (一関)		101 106	16 水	後期学術/社会人選抜試験 後期学術/社会人選抜試験 後期学術/社会人選抜試験		6 6 119
17 水	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	22 18 96	17 月	再試験結果入力開始(17時)		86	17 月	再試験結果入力開始(17時)		2 2 99	17 木			6 6 120
18 木	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	23 19 97	18 火	後学期選択科目受講辞退届納 切		87	18 火	後学期選択科目受講辞退届納 切		3 3 100	18 金	校務進		6 6 121
19 金	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	24 20 98	19 水	校務の日		88	19 水	短期授業		3 3 101	19 土			112 119
20 土	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	25 21 99	20 木			89	20 木			3 3 102	20 日	プロコン全国大会 (阿国国技 館)		113 120
21 日	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	26 22 100	21 金			90	21 金			3 3 103	21 月	後学期中間試験時間割発表 後学期/社会人選抜試験 後学期/社会人選抜試験		6 6 122
22 月	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	27 23 101	22 土	秋分の日		91	22 土			102 107	22 火			7 7 123
23 火	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	28 24 102	23 日			92	23 日			103 108	23 水	勤務定例の日		114 121
24 水	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	29 25 103	24 月			93	24 月	後期学術/社会人選抜試験 後期学術/社会人選抜試験 後期学術/社会人選抜試験		3 3 104	24 木			7 7 124
25 木	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	30 26 104	25 火	短期授業/高等学準備 短期授業/高等学準備		94	25 火	短期授業/高等学準備 短期授業/高等学準備		4 4 105	25 金	次期試験入力開始		7 7 125
26 金	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	31 27 105	26 水	短期授業/高等学準備 短期授業/高等学準備		15 95	26 水	短期授業/高等学準備 短期授業/高等学準備		4 4 106	26 土			115 122
27 土	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	32 28 106	27 木	短期授業/高等学準備 短期授業/高等学準備		16 96	27 木	短期授業/高等学準備 短期授業/高等学準備		4 4 107	27 日			116 123
28 日	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	33 29 107	28 金	高等学準備リハーサル(休講)		17 97	28 金	高等学準備リハーサル(休講)		5 4 108	28 月			7 7 126
29 月	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	34 30 108	29 土	高等学準備(休講)		18 98	29 土	高等学準備(休講)		6 109	29 火			8 8 127
30 火	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	35 31 109	30 日	高等学準備(休講)		19 99	30 日	高等学準備(休講)		7 110	30 水			7 7 128
31 水	前期学術大会 前期学術大会(11時)	補講/客室近所・補講	36 32 110	31 月	高等学準備(休講)		20 100	31 月	高等学準備(休講)		104 111				
九州沖縄地区高等学術大会(26 大分)				地区別学校紹介・後援会支部総会				中学校個別訪問				鹿児島県教育委員会			
鹿児島県高専の日(鹿児島市立科学館 8/11)				2年生進路指導研修(カナダ)				学習・教育目録作成の進捗(4年生及び5年生の専攻科入学生定着、10/3:1HR時)				JABEE技術者教育プログラムの説明(3年生の特別活動)			
全国高等教育フォーラム(8/23~8/25)				3・4・5年生学生交流(テーマセパ)テクニク)				学位論文試験対策				九州沖縄地区高等学術大会(久留米)			
全国高等教育フォーラム(8/23~8/25)				(SATE2011(シンガポール・リパブリック)テクニク)				中学生及び保護者のための学校説明会(10/1:本校、10/22:鹿児島市)				授業情報・相互参観			
授業評価アンケート(4.5年生、専攻科生)								教員委員会(10/19(水)放課後)							

平成24(2011)年12月										平成24(2012)年1月										平成24(2012)年2月										平成24(2012)年3月									
曜日	日	回数	本 部 出 席	行 事	専攻科	曜日	日	回数	本 部 出 席	行 事	専攻科	曜日	日	回数	本 部 出 席	行 事	専攻科	曜日	日	回数	本 部 出 席	行 事	専攻科	曜日	日	回数	本 部 出 席												
木	1	11	8	129		元日	1	132	139	入学願書受付(7日まで)／再試験部生入力の開始(13時)	水	1	133	140	入学願書受付(7日まで)／再試験部生入力の開始(13時)	水	1	133	140	入学願書受付(7日まで)／再試験部生入力の開始(13時)	水	1	133	140	入学願書受付(7日まで)／再試験部生入力の開始(13時)	水	1	133	140										
金	2	12	8	130			2	133	140		木	2	133	140	特別研究論文提出締切(17時)	木	2	133	140	特別研究論文提出締切(17時)	木	2	133	140	特別研究論文提出締切(17時)	木	2	133	140										
土	3	117	124	3	火		3	134	141	後学期末試験時期改善表	金	3	134	141	後学期末試験時期改善表	金	3	134	141	後学期末試験時期改善表	金	3	134	141	後学期末試験時期改善表	金	3	134	141										
日	4	118	125	4	水	仕事始め	4	135	142		土	4	135	142		土	4	135	142		土	4	135	142		土	4	135	142										
月	5	13	8	131	5	木		136	143		日	5	136	143		日	5	136	143		日	5	136	143		日	5	136	143										
火	6	14	9	132	6	金	推薦入学願書受付(12日まで)	137	144		月	6	137	144		月	6	137	144		月	6	137	144		月	6	137	144										
水	7	8	8	133	7	土		138	145		火	7	138	145		火	7	138	145		火	7	138	145		火	7	138	145										
木	8	8	9	134	8	日		139	146		水	8	139	146	再試験結果入力の締切(17時)	水	8	139	146	再試験結果入力の締切(17時)	水	8	139	146	再試験結果入力の締切(17時)	水	8	139	146										
金	9	8	9	135	9	月	成人の日 開校(10時)	140	147		木	9	140	147	次年度前期学期選択科目受講品受付け(22日まで)	木	9	140	147	次年度前期学期選択科目受講品受付け(22日まで)	木	9	140	147	次年度前期学期選択科目受講品受付け(22日まで)	木	9	140	147										
土	10	119	126	10	火	授業開始		11	12	145	10	金	運営会議／欠席時数入力開始	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験											
日	11	120	127	11	水	学園／学生生活部 入学説明会・入学説明会		10	10	146	11	土	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日	学園記念の日											
月	12	8	9	136	12	木		9	8	147	12	日																											
火	13	9	10	137	13	金		10	11	148	13	月																											
水	14	8	7	138	14	土		141	148	後学期末試験／ 後学期末試験／ 成績入力開始(13時)	火	14	141	148	後学期末試験／ 後学期末試験／ 成績入力開始(13時)	火	14	141	148	後学期末試験／ 後学期末試験／ 成績入力開始(13時)	火	14	141	148	後学期末試験／ 後学期末試験／ 成績入力開始(13時)	火	14	141	148										
木	15	9	10	139	15	日		142	149		水	15	142	149	後学期末試験／ 後学期末試験／ 成績入力開始(13時)	水	15	142	149	後学期末試験／ 後学期末試験／ 成績入力開始(13時)	水	15	142	149	後学期末試験／ 後学期末試験／ 成績入力開始(13時)	水	15	142	149										
金	16	9	10	140	16	月		10	11	149	16	火	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験											
土	17	121	128	17	火	休講／送別クラスマッチ		10	9	150	17	金	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講											
日	18	122	129	18	水	学位小論文試験		11	11	151	18	土																											
月	19	9	10	141	19	木		11	12	152	19	日	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験	入学試験											
火	20	10	11	142	20	金	短縮授業／校務進	短縮授業	11	12	153	20	月	休講／振替	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講	休講											
水	21	9	9	143	21	土	推薦入試	推薦入試	143	150	21	火	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験											
木	22	10	11	144	22	日		144	151	22	水	後学期末試験／ 次年度前期学期選択科目受講品受付け(22日まで)	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験	後学期末試験											
金	23	124	130	23	月	志望者バーチャイ(募集選考)		11	12	154	23	木	短縮授業／ 答察返却／ 答察返却／ 答察返却	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業											
土	24	124	131	24	火	推薦入学判定会議		12	13	155	24	金	短縮授業／ 答察返却／ 答察返却／ 答察返却	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業											
日	25	125	132	25	水			12	12	156	25	土	短縮授業／ 答察返却／ 答察返却／ 答察返却	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業	短縮授業											
月	26	126	133	26	木			12	13	157	26	日																											
火	27	127	134	27	金	推薦入学合格発表		12	13	158	27	月	答察返却／ 答察返却／ 答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却											
水	28	128	135	28	土	学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部		143	152	28	火	答察返却／ 答察返却／ 答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却										
木	29	129	136	29	日	学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部		146	153	29	水	答察返却／ 答察返却／ 答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却	答察返却										
金	30	130	137	30	月			12	13	159	30	火																											
土	31	131	138	31	火			13	14	160	31	土																											
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)									
学生生活部・学生生活部・ 学生生活部・学生生活部										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3年生)										TOEIC Bridge (1～3									

編 集 後 記

「高専だより」第64号をお届けいたします。

今回の特集は、前号の編集後記で紹介した、昨年9月に本校主催でホテル京セラにて開催された「第4回国際工学教育研究集会(ISATE2010)」です。本校からはもちろん、日本全国、海外から多数の参加を頂き、好評を博しました。

さて今年度は、小惑星探査機「はやぶさ」の帰還、ノーベル化学賞受賞など日本にとってうれしいニュースを聞くことができました。その一方で、宮崎県を中心に発生した口蹄疫や鹿児島県の梅雨の豪雨災害、10月の奄美豪雨と、身近で印象深いニュースもまたありました。これらの影響を受けた方々にお見舞い申し上げます。平成23年度はぜひうれしいニュースばかりであってほしいものです。

最後になりましたが、高専だよりの発行に当たり、年末年始の多忙の中に原稿執筆を快く引き受けて頂いた執筆者各位に対して委員一同厚く御礼申し上げます。

情報工学科 武田 和大

「高専だより」専門委員会委員

委員長 武田 和大（情報工学科）

委 員 鞍掛 哲治（一般教育科文系）

大竹 孝明（一般教育科理系）

江崎 秀司（機械工学科）

今村 成明（電気電子工学科）

福添 孝明（電子制御工学科）

岡松 道雄（都市環境デザイン工学科）

担当事務 日高 達也（総務課企画係長）

「鹿児島高専だより」第64号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会

発 行 鹿児島工業高等専門学校

〒899-5193

鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1